

取扱説明書

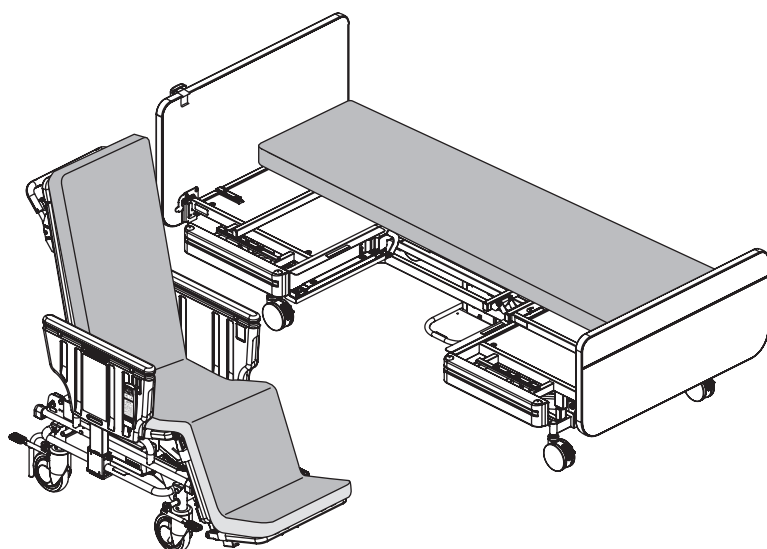
離床アシストロボット リショーンPlus

品番 XPN-S10601

まえがき

このたびは、パナソニック製品をお買い上げいただき、まことにありがとうございます。

- 取扱説明書をよくお読みのうえ、正しく安全にお使いください。
- ご使用前に「安全上のご注意」（4～33ページ）を必ずお読みください。
- 保証書は「お買い上げ日・販売店名」などの記入を確かめ、取扱説明書とともに大切に保管してください。
- この製品は日本国内専用です。



-もくじ-

1.この製品について	・・・	3	5.ベッド用手元スイッチの機能・設定	・・・	85～89
2.安全上のご注意	・・・	4～33	6.電動介護リフトを使用するときのご注意	・・・	90
・安全シール貼付け位置	・・・・・・・	5～7	7.日常の点検とお手入れ	・・・	91～93
・ご使用いただく前に	・・・・・・・	8	8.故障かな?と思ったとき	・・・	94～97
・ご使用時の一般注意事項	・・・・・・・	9～15	9.手動でボトムを下げる	・・・	98～99
・車いすとして使う(使用全般・走行)	・・・・・・・	16～19	10.長期保管について	・・・	100
・車いすとして使う(手元スイッチ操作)	・・・・・・・	20	11.仕様	・・・	101～104
・ベッドに変形する(合体操作)	・・・・・・・	21	12.アフターサービスについて	・・・	105
・ベッドとして使う(使用全般)	・・・・・・・	22～24	13.お客様ご相談窓口のご案内	・・・	108
・ベッドとして使う(移動)	・・・・・・・	25～26			
・ベッドとして使う(手元スイッチ操作)	・・・・・・・	27～28			
・車いすに変形する(分離操作)	・・・・・・・	29～30			
・バッテリーを充電する・交換する	・・・・・・・	31～32			
・マットレスの取扱い	・・・・・・・	33			
3.概要	・・・	34～42			
・機器構成	・・・・・・・	34～35			
・設置条件	・・・・・・・	36～37			
・各部のなまえと働き	・・・・・・・	38～42			
4.使用方法	・・・	43～84			
・ご使用になる前に	・・・・・・・	43			
・車いすとして使う(使用全般・走行)	・・・・・・・	44～50			
・車いすとして使う(手元スイッチ操作)	・・・・・・・	51～52			
・ベッドに変形する(合体操作)	・・・・・・・	53～56			
・ベッドとして使う(手元スイッチ操作)	・・・・・・・	57～63			
・車いすに変形する(分離操作)	・・・・・・・	64～69			
・バッテリーを充電する	・・・・・・・	70～72			
・バッテリーを交換する	・・・・・・・	73～78			
・マットレス・シーツの取扱い	・・・・・・・	79～84			

1. この製品について

リショーンPlusは、電動ケアベッドと電動フルリクライニング車いすを融合した新発想の離床をアシストするロボットです。



ベッド状態

合体・分離

車いす状態 (※)

【ベッド状態】



背上げ

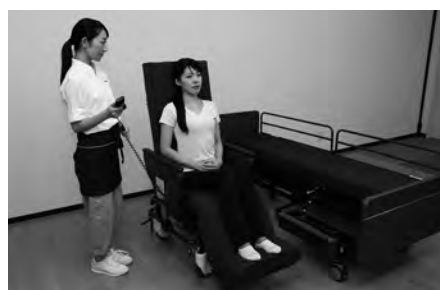


足上げ



高さ調整

【車いす状態】



電動リクライニング



For indoor use only

この製品は屋内使用専用です。

(※) 介護者が付き添って使用することを目的とした車いすです。自走や一人での立上りはできません。

2. 安全上のご注意

必ずお守りください。

人への危害、財産の損害を防止するため、必ずお守りいただくことを説明しています。

■ 誤った使い方をしたときに生じる危害や損害の程度を区分して、説明しています。

危険 「死亡や重傷などを負う危険が切迫して生じるおそれがある内容」です。

警告 「死亡や重傷などを負うおそれがある内容」です。

注意 「軽症を負うことや、財産の損害が発生するおそれがある内容」です。

■ お守りいただく内容を次の図記号で説明しています。（次は図記号の例です）



してはいけない内容です。



実行しなければならない内容です。

安全ラベル貼付け位置

注意事項の中で、リショナーをお使いになる方に特に注意していただきたい項目をラベルにしてベッド・車いすに貼ってあります。

注意

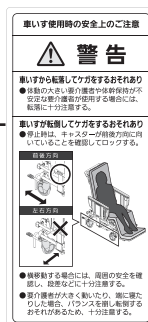
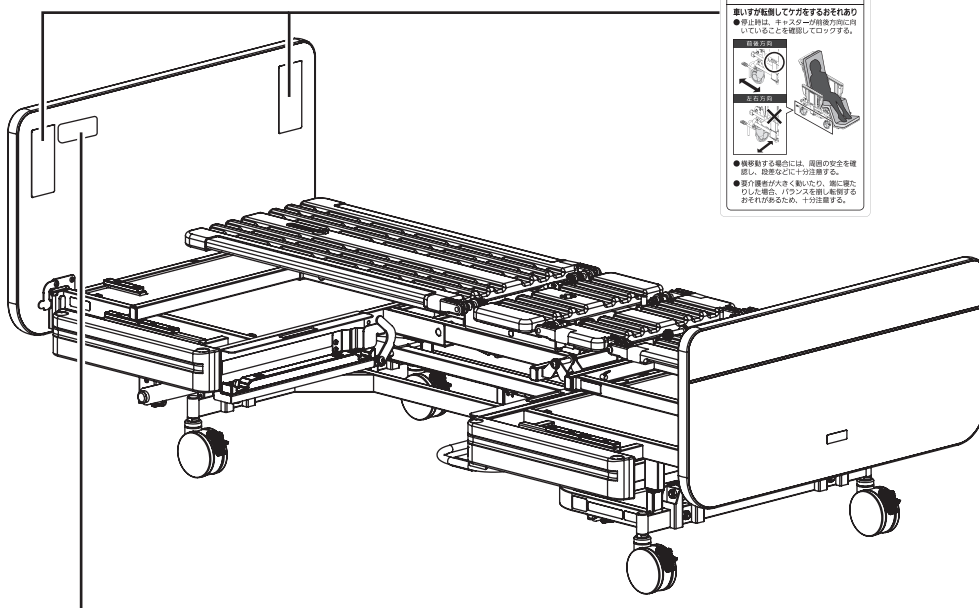


必ず守る

■ 安全ラベルは、はがしたり傷つけたりしないよう注意してください

安全ラベルがはがれたり、読めなくなってしまった場合は、販売店から新しい安全ラベルを取り寄せ、貼り直してください。

■ ベッド



（貼付け位置：ヘッドボード）



2. 安全上のご注意

必ずお守りください。

安全ラベル貼付け位置

注意事項の中で、リショースをお使いになる方に特に注意していただきたい項目をラベルにしてベッド・車いすに貼ってあります。

⚠ 注意

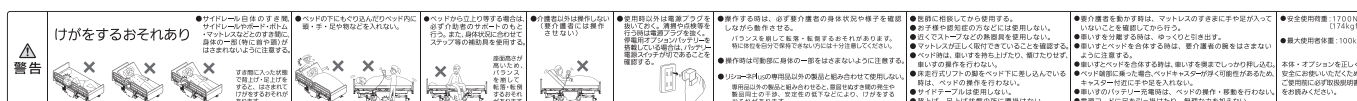


必ず守る

■ 安全ラベルは、はがしたり傷つけたりしないよう注意してください

安全ラベルがはがれたり、読めなくなってしまった場合は、販売店から新しい安全ラベルを取り寄せ、貼り直してください。

■ ベッド



(貼付け位置:フットボード)



ケガをする
おそれあり
指を入れない。
はさみこまれます。

(貼付け位置: 背ボトム裏のリンクフレーム)
(計2箇所)

(ハンドセットにタグ取り付け)



(貼付け位置: フレーム上面)
(計2箇所)



警告

破損・故障・ケガをするおそれあり
車いす合体部につき、物を置いたり、乗ったりしない。

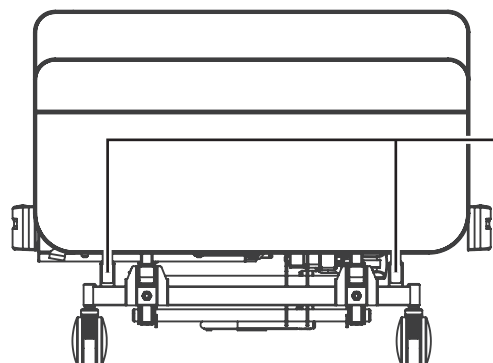
2. 安全上のご注意

必ずお守りください。

安全ラベル貼付け位置

2

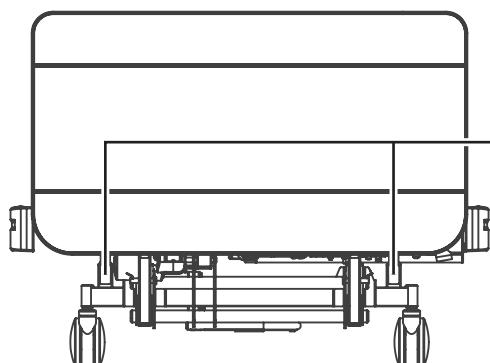
安全上のご注意



警告

感電・火災のおそれあり
この上にケーブルを置かない。
はさみこまれます。

(貼付け位置: 頭側 昇降ストッパー部)
(計2箇所)

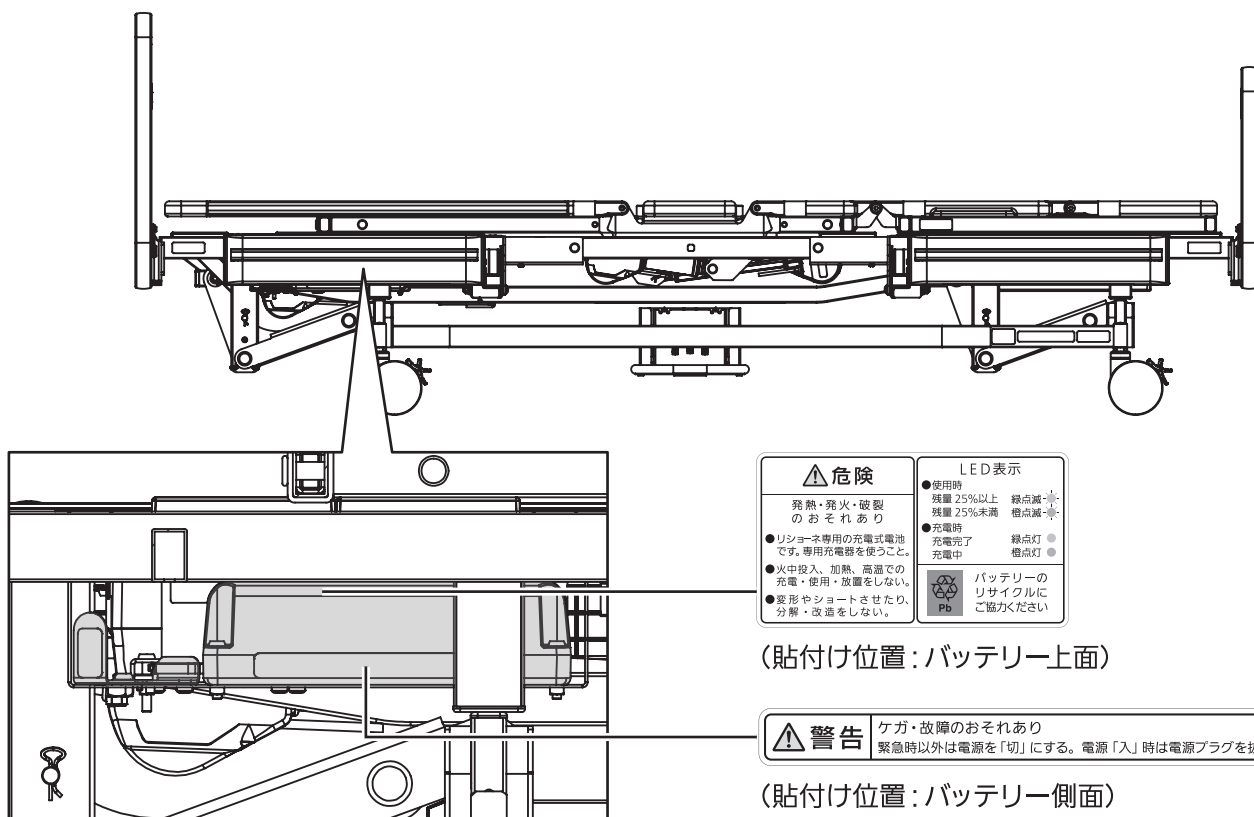


警告

感電・火災のおそれあり
この上にケーブルを置かない。
はさみこまれます。

(貼付け位置: 足側 昇降ストッパー部)
(計2箇所)

ベッド停電用バッテリーキット (オプション) 搭載時



危険

発熱・発火・破裂のおそれあり
● リシオーネ専用の充電式電池です。専用充電器を使うこと。
● 火中投入、加熱、高温での充電・使用・放置をしない。
● 変形やショートさせたり、分解・改造をしない。

LED表示

● 使用時
残量 25%以上 緑点滅
残量 25%未満 橙点滅
● 充電時
充電完了 緑点灯
充電中 橙点灯
● バッテリーのリサイクルにご協力ください

(貼付け位置: バッテリー上面)

警告

ケガ・故障のおそれあり
緊急時以外は電源を「切」にする。電源「入」時は電源プラグを抜いても動きます。

(貼付け位置: バッテリー側面)

2. 安全上のご注意

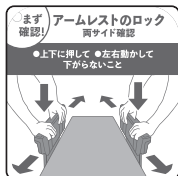
必ずお守りください。

安全ラベル貼付け位置

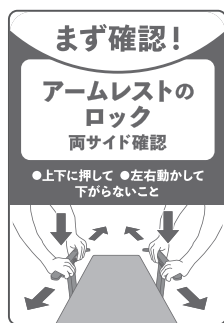
■ 車いす

(貼付け位置: 手元スイッチ)

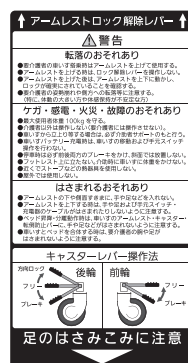
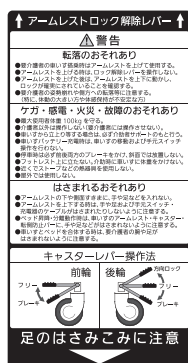
(ハンドルに
タグ取り付け)



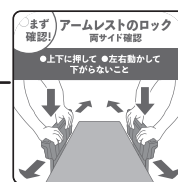
(貼付け位置: アームレストカバー)
(左右内側2箇所)



(貼付け位置: アームレストカバー)
(左右2箇所)
左 右



(ハンドセットに
タグ取り付け)

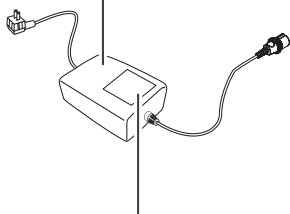


警告

ケガをする
おそれあり

指を近づけない。
車いす操作時に
はさみこまれます。

充電器



For indoor use only
この製品は室内使用専用です。



警告

感電・火災のおそれあり
●非充電時はキャップをする。
●濡れた手で触れない。



注意

故障のおそれあり
●バッテリー LED 緑点滅時、
消灯時はすぐに充電する。
●長期未使用時は満充電状態
にし、6ヶ月に1度充電する。



危険

発熱・発火・破裂
のおそれあり
●リシヨ本専用の充電式電池
です。専用充電器を使うこと。
●火中投入・加熱・高温での
充電・使用・放置をしない。
●変形やショートさせたり、
分解・改造をしない。

LED表示

●使用時
残量 25%以上 緑点滅
残量 25%未満 緑点滅
●充電時
充電完了 緑点灯
充電中 緑点灯

●バッテリーの
リサイクルに
ご協力ください

(貼付け位置: バッテリー側面)

(貼付け位置: 充電ポート)
(左右計2箇所)



警告

破損・故障・ケガのおそれあり

●直射日光が当たる場所で使用しない。●使用前にボトムヒンジ樹脂部に割れ等がないかを確認してから使用する。

(貼付け位置: 背ボトム側面)
(左右計2箇所)

2. 安全上のご注意

必ずお守りください。

ご使用いただく前に（介護を受ける方に関する注意事項）

警告



必ず守る

■ 医師に相談してから使用する

症状によるマットレスや本製品の動作に関する適性を、医師とご相談の上ご使用ください。
特に、褥瘡（じょくそう（床ずれ））、強度の円背や拘縮のある方、骨粗しょう症のある方への利用については、医師とご相談の上、使用可否を判断してください。
また、介護を受ける方（以下、要介護者）の病状によっては、褥瘡をおこすおそれがあります。
本製品の動作・姿勢（背上げ、ひざ上げなど）により症状が悪化するおそれがあります。
介護する方（以下、介護者）は、医師とご相談の上、常に要介護者の身体状況・能力をチェックし、機器利用の妥当性を確認してください。



必ず守る

■ 安全使用荷重1,700N（約174kg）、最大使用者体重100kgを守る

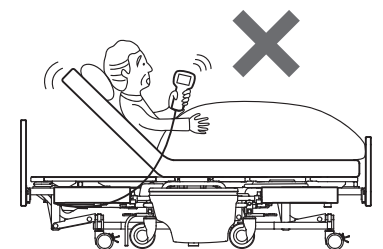
（安全使用荷重は、人、マットレス、サイドレールなどの質量を含む）
事故やけがの原因となります。



必ず守る

■ 介護者のみが操作を行う

要介護者には操作させないでください。
事故やけがの原因となります。



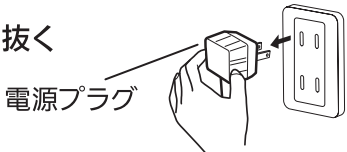
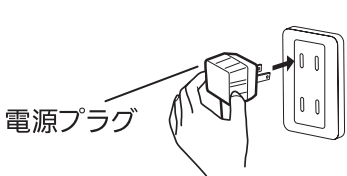
禁止

■ 12歳以下のお子様や認知症の方などには使用しない

介護者の付き添いなしでベッドや車いすから立ち上がろうとしたり、
1人で手元スイッチを操作したりする可能性のある方には、使用しないでください。
事故やけがの原因となります。

ご使用時の一般注意事項

警告

 必ず守る	■ ご使用時に異常を感じたときは、すぐに使用を中止して、電源プラグをコンセントから抜く 感電や火災の原因となります。
 必ず守る	■ 電源プラグを抜くときは電源コードを持たず、電源プラグを持って抜く 感電や火災の原因となります。 
 必ず守る	■ 使用時以外は電源プラグをコンセントから抜いておく 特に清掃や点検等の際には、電源プラグをコンセントから抜いて行ってください。 ベッド部にベッド停電用バッテリーキット(オプション)を搭載している場合は、バッテリー電源スイッチが「切」であることも確認してください。バッテリー電源スイッチが「入」の場合は、電源プラグをコンセントから抜いていても、ベッド用手元スイッチ操作に基づき、動作します。 また、車いす部はバッテリーを搭載しておりますので、車いす充電器の電源プラグをコンセントから抜いても、車いす用手元スイッチ操作に基づき、動作します。清掃や点検等の際には、車いす用手元スイッチはアームレストカバーにかけ、動かしながら清掃等をしないようにしてください。 事故やけが、感電・火災の原因となります。
 必ず守る	■ 長期間使用しない時は電源プラグをコンセントから抜く 絶縁劣化し、火災・感電の原因となります。
 必ず守る	■ 交流100Vで使用する 感電や火災・故障の原因となります。
 必ず守る	■ 電源プラグは根元まで確実に差し込む 電源プラグ(ベッド・車いす充電器)は確実に差し込んでください。 傷んだプラグ・ゆるんだコンセントは使用しないでください。 感電や火災・故障の原因となります。 
 必ず守る	■ 定期的に点検やお手入れをする(→91～93ページ参照) 事故やけがの原因となります。

2. 安全上のご注意

必ずお守りください。

ご使用時の一般注意事項

警告



必ず守る

■ 定期的に電源プラグや電源コードを点検する

傷・変形など異常がある場合はすぐに使用を中止して、電源プラグをコンセントから抜き、弊社にご連絡ください。感電や火災の原因となります。



必ず守る

■ 電源プラグのほこり等は定期的にとる

電源プラグにほこり等がたまると、湿気等で絶縁不良となり発火の原因となります。電源プラグをコンセントから抜き、乾いた布でふいてください。



必ず守る

■ 設置条件を守る（→36、37ページ参照）

水平・フラットで5mmより大きい段差のない、十分な強度のある床に設置してください。

温度：10～40℃、湿度：30～75%RHで使用してください。

砂・ほこり・磁気の多い場所では使用しないでください。

直射日光のあたるところでは使用しないでください。

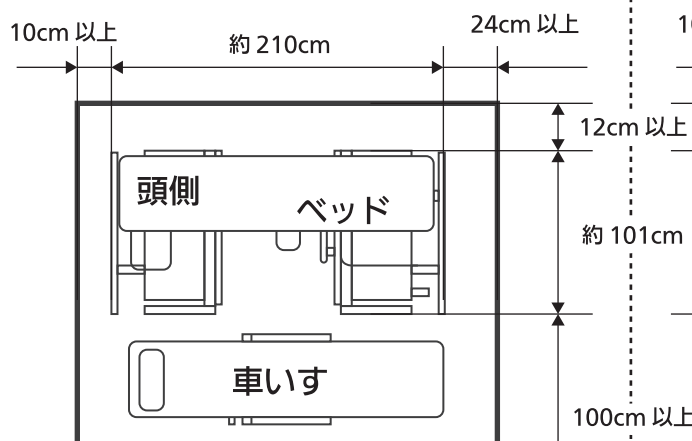
車いすの分離・合体スペースやベッドの角度・高さ調整を行うスペースを確保してください。

冷暖房機器からの冷風・温風を直接当てないでください。

ストーブなどの熱器具を近くに置かないでください。

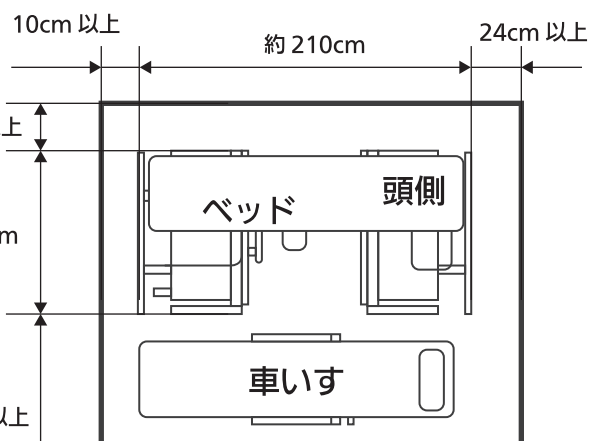
事故やけが・感電・火災・故障の原因となります。

【右側分離タイプの場合】

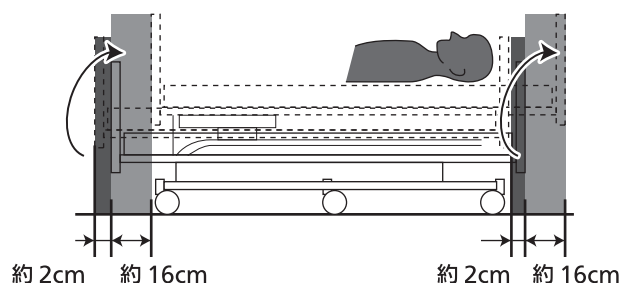
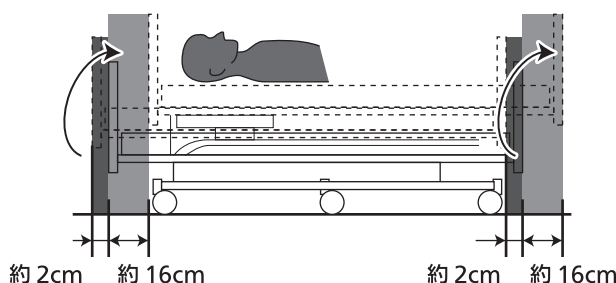


※イラストは、上面から見た図になります。

【左側分離タイプの場合】



※イラストは、上面から見た図になります。



ご使用時の一般注意事項

警告



- オプション品一覧に記載の適合品（→34、35ページ参照）を使用する
サイドレールは専用品以外は使用しないでください。
事故やけがの原因となります。



- 可動部に手や腕など、人体がはさまれないよう注意する
事故やけがの原因となります。



- オプション品や突起物に衣類などが絡まないよう注意する
衣類などが絡まった状態でベッド・車いすを操作すると、衣類などが引っ張られるなどして、けがをするおそれがあります。
ベッド・車いすの乗り降りなどの際に転落・転倒して、けがをするおそれがあります。



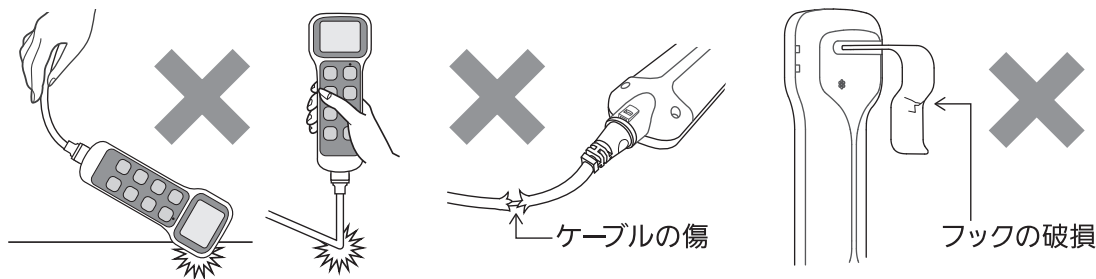
- 手元スイッチのケーブルが首等に巻きつかないように注意する
事故やけがの原因となります。



- 電源コード、手元スイッチやモーター等のケーブルが断線している場合には修理を依頼する
事故やけがの原因となります。



- 手元スイッチなどの電装品の取り扱いに注意する
誤動作してけがをしたり、ショートなどにより、感電・火災のおそれがあります。
ぶつけたり傷つけないでください。落としたり、ケーブルを無理に引っ張らないでください。
傷んだ手元スイッチなどの電装品は修理（交換）を依頼してください。



- 被災したベッド・車いすは点検・修理を依頼する
地震・火災・水害などで被災したベッド・車いすは、お買い上げの販売店またはご相談窓口まで、点検・修理をご依頼ください。
電装品のショートや漏電による感電・火災やベッド・車いすの変形による動作の異常によって、けがをするおそれがあります。



- 清掃や点検等を2人以上で行う場合は、声掛けしながら行い、手や足がはさまれないように注意する
事故やけがの原因となります。

2. 安全上のご注意

必ずお守りください。

ご使用時の一般注意事項

2

安全上の注意

警告



必ず守る

- 要介護者がベッド・車いすから立ち上がり等する場合は、必ず介護者のサポートのもと行う
また、身体状況に合わせてステップ等の補助具を使用する
介助しやすいように、ベッド・車いすの座面高さを高く設定しており、足がつかない可能性があります。
身体状況に合わせてステップ等の補助具をご使用ください。
転倒・転落し、けがをするおそれがあります。



必ず守る

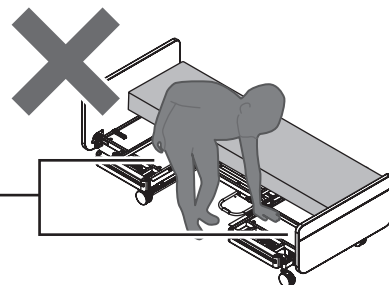
- 電源コードや手元スイッチのケーブルがベッド本体フレームにはさみ込まないように注意する
電源コードは床面上を這わすようにしてください。感電や誤動作の原因となります。



必ず守る

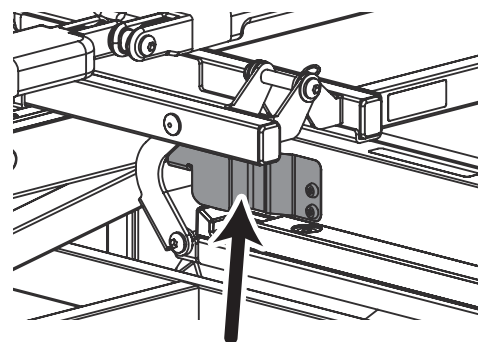
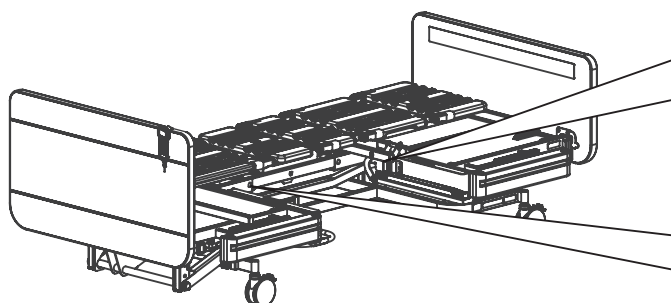
- アッパーフレームカバーには手をつかない
事故やけがの原因となります。

アッパーフレームカバー



必ず守る

- 清掃時には板バネで手や指を切らないように注意する
事故やけがの原因となります。

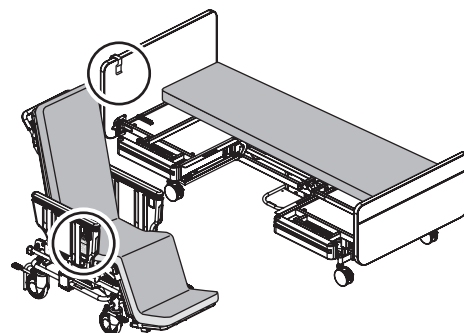


板バネ (2箇所)



必ず守る

- 使用時以外、手元スイッチは所定箇所にひっかける
ベッド用手元スイッチはヘッドボードにかけてください。
車いす用手元スイッチはアームレストカバーにかけてください。
手元スイッチのケーブルがひっかかり、誤動作や感電・火災のおそれがあります。



2. 安全上のご注意

必ずお守りください。

ご使用時の一般注意事項

警告



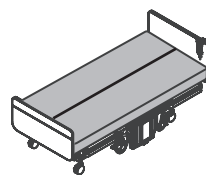
必ず守る

- お手入れの際は中性洗剤を指定濃度に薄めて使用する
塩素系洗剤、酸性洗剤、有機溶剤（シンナー・ベンジンなど）、
漂白剤、みがき粉などを使用しないでください。
破損・変色・溶解するおそれがあります。



必ず守る

- 長期間使用しない場合は、ベッド状態で保管し、6ヶ月に1度は充電する
車いす状態は、ベッド状態よりもバッテリーが早く消耗します。
充電してから保管し、その後、6ヶ月に1度は充電してください。
完全放電してしまうと、バッテリーの寿命が著しく短くなります。



禁止

- 改造・分解を行わない
事故・けが・感電・火災・故障の原因となります。



禁止

- ぬれた手で電源プラグや、充電器、手元スイッチに触らない
感電や火災・故障の原因となります。



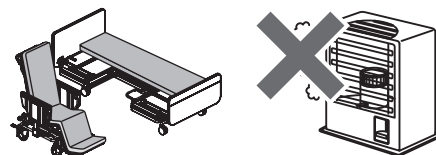
禁止

- ベッド本体・車いす充電器の電源コード・プラグを破損するようなことはしない
（踏みつける、傷つける、加工する、熱器具に近づける、無理に曲げる、ねじる、引っ張る、
重い物を載せる、束ねるなど）
・傷んだまま使用すると、感電や火災の原因となります。
・電源コード・プラグの修理は、販売店にご相談ください。



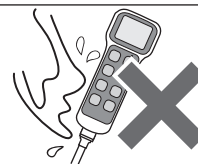
禁止

- ベッド・車いす・マットレスに火気を近づけない
マットレス・シーツは難燃性ではありません。
火災の原因となります。



禁止

- ベッド・車いすに水などをかけない
感電や火災・故障の原因となります。



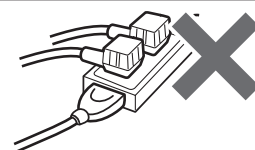
禁止

- 動作する部分に異物を入れない
食べこぼしなどが動作する部分にこぼれるおそれがあるときは、シートなどでカバーしてください。
事故やけが・故障の原因となります。



禁止

- コンセントや配線器具の定格を越える使い方や、タコ足配線は行わない
火災の原因となります。



禁止

- 電源コードや電源プラグが、傷んでいたり、熱くなっていたり、
コンセントの差し込みがゆるい状態で使用しない
感電や火災・故障の原因となります。



2. 安全上のご注意

必ずお守りください。

ご使用時の一般注意事項

警告



禁止

- 付属の電源コードセットは、リショーンPlus専用です。他の用途に使用しないでください
電源コード・プラグが破損し、感電・火災のおそれがあります。



禁止

- 電源コードや手元スイッチのコードに足を引っ掛けない
プラグやコードが破損し、感電・火災のおそれがあります。
転倒して、けがをするおそれがあります。



禁止

- モーターおよび電源ボックスには手を触れない
事故やけがの原因となります。



禁止

- 開口部や隙間に指を入れない
事故やけがの原因となります。



禁止

- ベッドや車いすで遊ばない（遊ばせない）
事故やけがの原因となります。



禁止

- ベッドや車いすの上で立ち上がったたり、飛び跳ねたりしない（させない）
事故やけがの原因となります。



禁止

- 勢いよく移乗したり、手荒に扱わない
事故やけがの原因となります。



禁止

- 車いすのバッテリー充電中は、ベッド・車いすの操作は行わない
充電器のケーブルがひっぱられ、感電・火災のおそれがあります。
ベッド下降時に、充電器がはさまれ、感電・火災のおそれがあります。

2. 安全上のご注意

必ずお守りください。

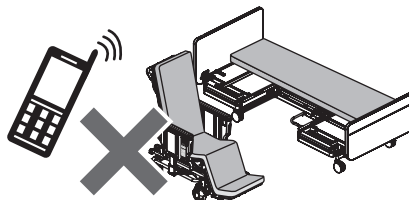
ご使用時の一般注意事項

警告



禁止

- ベッドや車いす付近では携帯電話などを使用しない
誤動作の原因となる場合や、他の医療機器に影響を与えるおそれがあります。



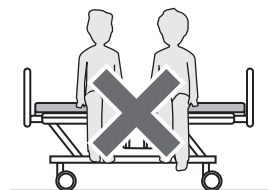
禁止

- 殺虫剤などの薬剤をベッドや車いすに直接噴射しない
殺虫剤などに含まれる溶剤によって、樹脂部分が破損・変色・溶解するおそれがあります。
また、破損・溶解した部分で思わぬけがをするおそれがあります。



禁止

- ベッド・車いすは1人用のため、2人以上で使用しない
事故やけがの原因となります。



禁止

- ベッドや車いすの下に物を置かない
特にベッド時の車いす部分の下に物を置くと、ベッド下降時に干渉し、車いす部分が外れ、転落・転倒のおそれがあります。



禁止

- 直射日光のあたるところでは使用しない
樹脂部品が割れて事故やけがの原因となります。



禁止

- 除光液を使用しない
樹脂部分が破損・溶解するおそれがあります。

2. 安全上のご注意

必ずお守りください。

車いすとして使う（使用全般・走行）

2

安全上の注意

警告



必ず守る

■ 車いすは屋内の平らな場所で使う
リショネPlusの車いすは屋内専用です。屋外では使用できません。
事故やけがや破損の原因となります。



必ず守る

■ 車いすへの乗り降りを行う際は前後のキャスターをロックし、車いすを固定する
乗り移りの際に、フットレスト上に立ったり、体重をかけたりしないでください。
事故やけがの原因となります。



必ず守る

■ 車いすから手を離す場合は前後のキャスターをロックし、車いすを固定する
事故やけがの原因となります。



必ず守る

■ 走行時は常に周囲に気をつける
事故やけがの原因となります。



必ず守る

■ 坂を下る時は、必ず後ろ向きで走行する
事故やけがの原因となります。



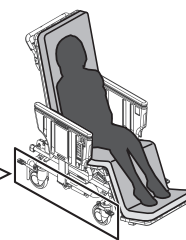
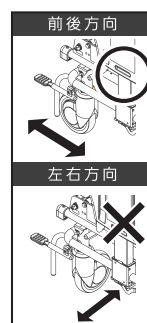
必ず守る

■ 車いすで段差を乗り越えない。
バリアフリー環境での使用を想定しており、転倒や転落のおそれがあります。
破損してけがをするおそれがあります。



必ず守る

■ 停止時は、キャスターが前後方向に向いていることを
確認してロックする
車いすが転倒してケガをするおそれがあります。



必ず守る

■ 横移動する場合には、周囲の安全を確認し、段差などに
十分注意する
車いすが転倒してケガをするおそれがあります。



必ず守る

■ 要介護者が大きく動いたり、車いすの端に寝たりした場合、
バランスを崩し転倒するおそれがあるため、十分注意する
車いすが転倒してケガをするおそれがあります。



必ず守る

■ 体動の大きい要介護者や体幹保持が不安定な要介護者が使用する場合には、
転落に十分注意する
車いすから転落してケガをするおそれがあります。

車いすとして使う（使用全般・走行）

 警告

 必ず守る	■ アームレストの下や側面すきまに、手や足などをいれない けがをするおそれがあります。
 必ず守る	■ アームレストを上下する時は、手や足などがはさまれたり、車いす用手元スイッチや充電器のケーブルがはさまれたりしないように注意する ・下降させる時に力をかけすぎないようにしてください。 下降がはじまると急に軽い操作力で動くようになります。 ・下降時にアームレストの下に手や足などを入れないでください。事故や怪我の原因となります。
 必ず守る	■ 傾斜面を走行する際は十分注意する 車いすが予想外の方向に進むなど大変危険です。 事故やけがの原因となります。
 必ず守る	■ 車いすを持ち上げる際は、指定箇所（キャスター付近のフレーム）を持つ（→51ページ参照） ボトム、フットレスト、アームレスト、手押しハンドル等を持たないでください。 事故やけが・破損の原因となります。
 必ず守る	■ 要介護者の車いす搭乗時はアームレストを上げて使用する 要介護者が側方に倒れ、転落等の事故やけがの原因となります。
 必ず守る	■ 要介護者がアームレストロック解除レバー・手元スイッチを操作しないように注意する 手を動かせる人を乗せる場合、勝手に操作しないように注意してください。 事故やけがの原因となります。
 必ず守る	■ 要介護者の車いす搭乗時は姿勢崩れ等に十分注意する 一定時間毎に状況確認を実施してください。 転倒して、けがをするおそれがあります。
 必ず守る	■ アームレストを上げた後は、アームレストを上下に動かし、 ロックが確実にされていることを確認する 正しくロックがされていないと、アームレストの高さが急に変わり、 転落等の事故やけがの原因となります。ひざ掛け等を使用している場合は、特に注意する。
 必ず守る	■ アームレストを上げる時は、ロック解除レバーを操作しない ロック解除レバーを握ったままアームレストを上げると、正しくロックがされず、 アームレストの高さが急に変わり、転落等の事故やけがの原因となります。
 必ず守る	■ アームレストを下げる時は、要介護者が側方に転倒しないように注意する アームレストを下げる際、側方からあるいは上方から要介護者がアームレストに 体重をかけていると、アームレストの高さが急に変わったり、要介護者が側方に倒れ、 転落等の事故やけがの原因となります。

2. 安全上のご注意

必ずお守りください。

車いすとして使う（使用全般・走行）

2

安全上のご注意

警告



禁止

■ 傾斜した場所や滑りやすい床面では駐車しない
事故やけがの原因となります。



禁止

■ 腰ボトム以外には腰掛けない
事故やけがの原因となります。



禁止

■ 走行中は身体を乗り出さない
走行中、足はフットレストに乗せてください。
事故やけがの原因となります。



禁止

■ フットレスト上に立たない・体重をかけない
転倒して、けがをするおそれがあります。



禁止

■ 背もたれに重いものをぶら下げない
転倒して、けがをするおそれがあります。



禁止

■ 介助作業時に車いすに体重をかけない
転倒して、けがをするおそれがあります。



禁止

■ 要介護者の車いす搭乗時は、急発進・急停止しない
転落のおそれがあります。

車いすとして使う（使用全般・走行）

警告



禁止

- 物品運搬など、車いす以外の目的に使用しない
事故やけがの原因となります。



禁止

- 車いすに衝撃を与えない
投げる、落とすなどしないでください。
事故やけが・破損の原因となります。



禁止

- 手元スイッチに衝撃を与えない
投げる、落とすなどしないでください。
事故やけが・破損の原因となります。



禁止

- 階段等を移動しない
階段等の近くを移動する際は注意する。
事故やけがの原因となります。



禁止

- 車いすのバッテリー充電中は車いす用手元スイッチの操作、車いすの移動を行わない
充電器のケーブルが引っ張られ、感電・火災のおそれがあります。

2. 安全上のご注意

必ずお守りください。

車いすとして使う（手元スイッチ操作）

2

安全上の注意

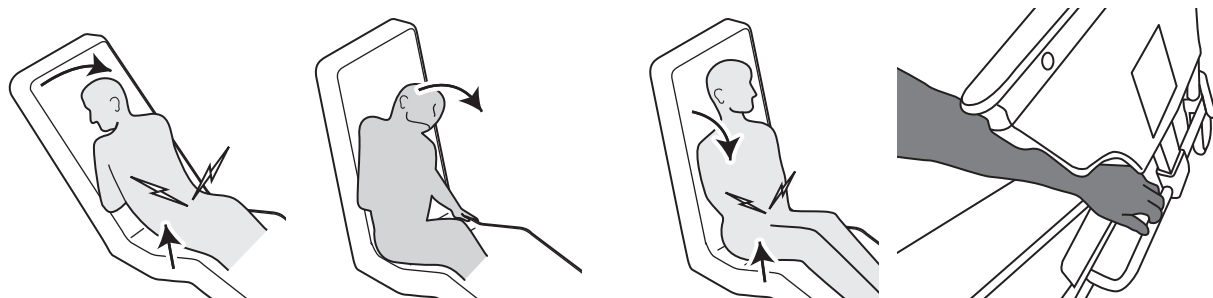
警告



必ず守る

■ 要介護者の姿勢に注意して操作する

うつぶせ・横向きに寝た状態で手元スイッチの操作をしないでください。
姿勢崩れや無理な姿勢（腹部の圧迫など）などに注意してください。
背上げ時には、背ずれが起こりますので、適宜背抜きをして、腹部の圧迫を軽減してください。
要介護者の手や腕がアームレストとマットレスの間に挟まれないように注意してください。



必ず守る

■ 手元スイッチを使用しない時は、アームレストカバーに掛ける

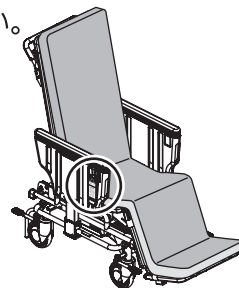
落下・踏みつけ・コードの引っ掛け・走行時のひきずりのないように注意してください。
誤動作の原因となります。



必ず守る

■ 連続操作時間・操作の間隔を守る

駆動モーターが損傷するおそれがあります。
1回の連続操作時間が2分を超えないようにしてください。
また、操作した時間の約9倍の時間、操作をしないでください（モーターを休める）。
例）2分操作したらその後18分は操作しないでください。



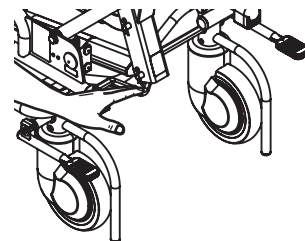
禁止

■ 操作および操作による要介護者への影響を理解できない人に操作させない
事故やけがの原因となります。



禁止

■ 車いすの背上げリンクとキャスターレバーの左右連結リンクの間に手指を入れない
手や指をはさみ込み、事故やけがの原因となります。



ベッドに変形する（合体操作）

 警告

 必ず守る	■ ベッドの車いす合体部の上に何もいないことを確認する 物があると、車いすがバランスを崩して落下するおそれがあります。 事故やけがの原因となります。
 必ず守る	■ 車いすをベッドに押し込む時は慎重にゆっくり行う 周囲の安全を確認し、要介護者に衝撃を与える・落下させる・腕を挟む などないように注意してください。 事故やけがの原因となります。
 必ず守る	■ 合体操作時には、車いすが奥までしっかり押し込まれていることを確認する 合体操作時には、車いす部をベッド部の奥までしっかり押し込み、 ベッド用手元スイッチの液晶表示パネルに「合体できます」が 表示されていることを確認してから、合体操作（合体ボタンの押下）を行ってください。 事故やけがの原因となります。
 必ず守る	■ ベッドへの変形時に要介護者が落下しないように注意する 車いすをベッドに押し込む時は、アームレストを上げた状態で行ってください。 事故やけがの原因となります。
 必ず守る	■ 要介護者をベッド上で移動させるときに、けがをさせないように注意する 皮膚の弱い要介護者の場合は、皮膚を傷つけないように注意してください。 移動時に要介護者を落下させないように注意してください。 移動時にマットレス分割部に手・指・足などが入っていないことを確認してください。 事故やけがの原因となります。
 禁止	■ 車いすがベッド内にあるときは、車いす用手元スイッチを操作しない 車いすがベッドと干渉し、破損・変形するおそれがあります。 また、破損・変形したまま使用すると、正しく車いすがベッドに合体できず、 事故やけがの原因になります。
 禁止	■ 合体完了するまで、ボトムに座ったりしない 破損の原因となります。
 禁止	■ 車いすのバッテリー充電中は合体操作を行わない 充電器のケーブルが引っ張られ、感電・火災のおそれがあります。

合体できます

合体ボタンを押してください

2. 安全上のご注意

必ずお守りください。

ベッドとして使う（使用全般）

2

安全上の注意

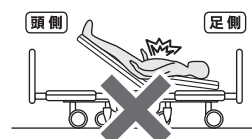
警告



- ベッドを移動するとき以外はキャスターをロックする
事故やけがの原因となります。



- 要介護者を正しい向きに寝かせる
背上げ側が頭になるように寝かせてください。
けがの原因となります。



- 要介護者が転落する恐れがある場合は、サイドレールを使用する
事故やけがの原因となります。



- 専用サイドレールを使用する
事故やけがの原因となります。



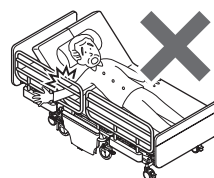
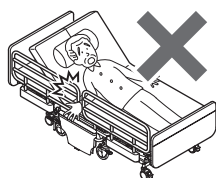
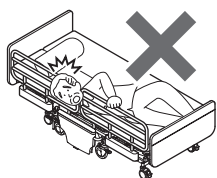
- サイドレールは、正しい向きで取り付ける
頭などをはさみ込み、事故やけがの原因となります。



- サイドレール使用時もベッドからの転落に十分注意する
サイドレールとサイドレール、ボードとサイドレールのすき間から転落し、けがをするおそれがあります。



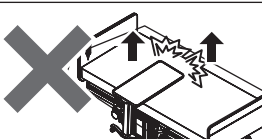
- サイドレール自体のすき間、サイドレールやボード・ボトム・マットレスなどのすき間に
身体の一部（特に首や頭）がはさまれないように注意する
事故やけがの原因となります。



- 電子治療器を使用するときは電源プラグをコンセントから抜く
事故やけがの原因となります。

ベッドとして使う（使用全般）

警告

 必ず守る	■ 床走行式リフトを使用する場合は、リフトに添付されている取扱説明書を必ず読む誤った使い方をすると、事故やけがをするおそれがあります。
 必ず守る	■ 床走行式リフトを使用する場合は、脚先端の高さが70mm以下のリフトを使用するリフトの脚が、車いすのキャスターや転倒防止バー、ベッドのインターロックと干渉し、破損・変形するおそれがあります。
 必ず守る	■ ベッド状態で、床走行式リフトを使用する場合は、ベッド高さを52cm以上にするリフトの脚が、車いすのキャスターや転倒防止バー、ベッドのインターロックと干渉し、破損・変形するおそれがあります。
 必ず守る	■ 床走行式リフトを使用する場合は、ベッド及びリフト操作時に、周囲に注意するベッドとリフトの間にはさまれるおそれがあります。 リフトが人にあたってけがをしたり、ベッドや家具などに当たって破損するおそれがあります。 リフトがサイドレールなどに引っ掛かり、リフトやサイドレールなどが破損・変形するおそれがあります。 ベッドとリフトの脚部やモーター部などが当たり、破損・変形するおそれがあります。
 禁止	■ 床走行式リフトの脚をベッドの下に差し込むときは、電源コードを踏んだり乗り越えたりしない電源コードが破損して、感電・火災のおそれがあります。
 禁止	■ 床走行式リフトの脚をベッドの下に差し込んでいるときは、ベッド操作を行わないリフトの脚がベッド・車いすと干渉し、事故やけがの原因となります。 特にベッド下降時に干渉した場合、車いす部分が外れ、転落・転倒のおそれがあります。
 禁止	■ ベッド状態では、車いす用手元スイッチの操作を行わない車いすがベッドに干渉し、破損・変形するおそれがあります。また、破損・変形したまま使用すると、正しく車いすがベッドに合体できず、事故やけがの原因となります。
 禁止	■ ベッド状態では、車いすの手押しハンドルを引き出さない車いすがベッドと干渉し、破損・変形するおそれがあります。また、破損・変形したまま使用すると、正しく車いすがベッドに合体できず、事故やけがの原因となります。
 禁止	■ 車いす部を持ち上げない 車いす部がベッド部から外れ、転落してけがをするおそれがあります。 
 禁止	■ サイドテーブルは使用しない サイドテーブルの脚がベッド・車いすと干渉し、事故やけがの原因となります。 特にベッド下降時に干渉した場合、車いす部分が外れ、転落・転倒のおそれがあります。 

2. 安全上のご注意

必ずお守りください。

ベッドとして使う（使用全般）

2

安全上の注意

警告



■ サイドレールをベッド用グリップがわりに使用しない
事故やけがの原因となります。



■ サイドレールやヘッドボード・フットボードに腰掛けたり、上に乗ったり、ぶら下がったり、寄り掛かったり、大きな衝撃をかけたりしない
ベッドから転落・転倒してけがをしたり、ベッドやサイドレール・ヘッドボード・フットボードなどが破損・変形して、けがをするおそれがあります。



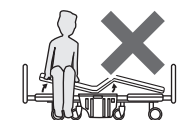
■ ベッド端部に乗った場合は、ベッドキャスターが浮く可能性があるため、
ベッドキャスター付近に手をいれない
事故やけがの原因となります。



■ 車いすのバッテリー充電中はベッド用手元スイッチの操作、ベッドの移動を行わない
充電器のケーブルが引っ張られ、感電・火災のおそれがあります。



■ 背上げ、ひざあげ状態のところに腰かけたり、大きな力をかけない
事故や怪我の原因となります。



ベッドとして使う（移動）

 警告

 必ず守る	■ ベッドを移動する際は、2人で作業する 事故やけがの原因となります。
 必ず守る	■ ベッドを移動する際は、手や足がはさまれないように注意する キャスターに手や足が挟まれて、けがをするおそれがあります。
 必ず守る	■ 移動後は忘れずにキャスターのロックを行う 事故やけがの原因となります。
 禁止	■ 人をのせた状態でベッドを移動しない 転落して、けがをするおそれがあります。
 禁止	■ 電源プラグをコンセントに接続したまま、ベッドを移動しない 電源コード・プラグが破損し、感電・火災のおそれがあります。

2. 安全上のご注意

必ずお守りください。

ベッドとして使う（移動）

2

安全上の注意

注意



必ず守る

■ ベッド移動時はベッド高さを52cm以上にする

ベッド高さを手元スイッチで52cm以上にすると、車いすのキャスター下面がベッドのベースフレームより高くなり、床面とのすきまが最大になります。

ベッド高さ52cm未満では、車いすのキャスター下面やアームレスト下部が床面の段差等に干渉し、破損するおそれがあります。



必ず守る

■ 平滑な平面を移動する

キャスターが沈み込むなど走行抵抗が大きな場所では養生板などを敷いてください。

段差のあるところは移動しないでください。

事故やけがをするおそれがあります。



必ず守る

■ ベッドを持ち上げる際はベースフレームを持つ

車いす部・ボトム部・付属部（サイドレール）などを持って移動させないでください。

事故やけがの原因となります。



必ず守る

■ キャスターのロックを全て解除して移動する

事故やけがの原因となります。



必ず守る

■ ベッド移動時は常に周囲に気をつける

人・物にぶつけないように慎重に走行させてください。

事故やけがの原因となります。



禁止

■ ベッド移動時は電源コードやベッド用手元スイッチを引きずらない

電源コードはベッド上に置き、ベッド用手元スイッチはヘッドボードに掛けてください。

移動経路に応じて、束ねる・テープ固定するなど適切に処置してください。

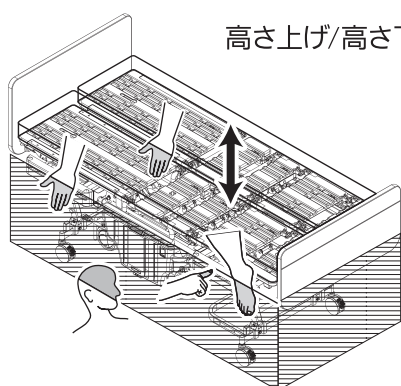
故障の原因となります。

ベッドとして使う（手元スイッチ操作）

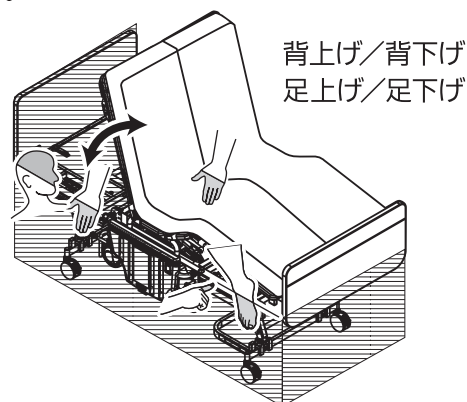
警告



- マットレス下面より下に、要介護者・介護者・周囲の人の体（手・足・指・頭 など）や物がないことを確認してから手元スイッチの操作を行う
動作部による、はさみ込み・圧迫・巻き込みなどや、
物に当たって異常な動き・破損などが発生するおそれがあります。



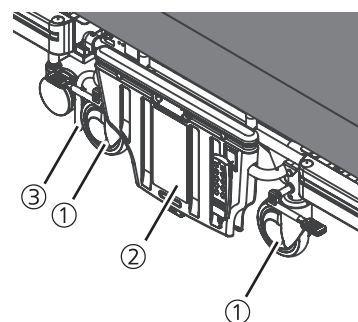
高さ上げ/高さ下げ

背上げ/背下げ
足上げ/足下げ

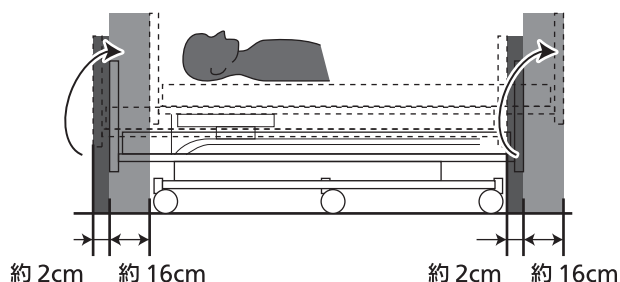
マットレス下面より下
（図の斜線部）には
動作する部分があります。

分離動作中
車いす ベッド
はさみ込み注意

「高さ下げ」操作時は画面に
「はさみこみ注意」が表示されます。
特に車いすのキャスター①、
アームレスト②、転倒防止バー③と
床面のすきまが小さくなりますので
注意してください。



- ボードと壁の間に、人の体や物がないことを確認してから、手元スイッチの操作を行う
動作部による、はさみ込み・圧迫・巻き込みなどや、
物に当たって異常な動き・破損などが発生するおそれがあります。



高さ調整時にベッドは垂直方向に動作するだけでなく、左図のように横方向にも移動します。
左図の灰色部分にも人の体や物がないことを確認してください。

（左図は右側分離タイプの場合）

2. 安全上のご注意

必ずお守りください。

2

安全上の注意

ベッドとして使う(手元スイッチ操作)

警告



必ず守る

■ 要介護者の姿勢に注意して操作する

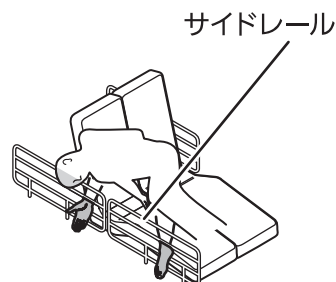
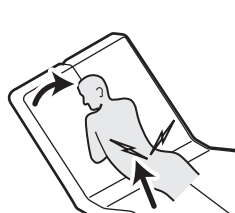
うつぶせ・横向きに寝た状態で手元スイッチの操作をしないでください。

姿勢崩れや無理な姿勢(腹部の圧迫など)などに注意してください。

背上げ時には、背ずれが起こりますので、適宜背抜きをして、腹部の圧迫を軽減してください。

サイドレールによる挟み込みやサイドレールホルダの穴への指の差込みなどに注意してください。

事故やけがの原因となります。



必ず守る

■ ベッド周辺に配置された物の確認・かたづけをしてから手元スイッチの操作を行う

液体・高温液体・重量物などの転倒・落下により、けが・やけどなどのおそれがあります。

ベッド動作に伴って動くもの(寝具など)にも注意してください。



禁止

■ オーバーテーブル使用中は、背上げ・ひざ上げを行わない

要介護者がはさまれて、体に無理な力が加わるおそれがあります。

注意



必ず守る

■ 手元スイッチを使用しない時は、ヘッドボードに掛ける

落下・踏みつけ・コードの引っ掛けなどがないように注意してください。



禁止

■ 連続操作時間・操作の間隔を守る

駆動モーターが損傷するおそれがあります。

1回の連続操作時間が2分を超えないようにしてください。

また、操作した時間の約9倍の時間、操作をしないでください(モーターを休める)。

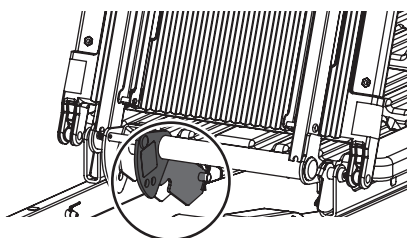
例) 2分操作したらその後18分は操作しないでください。



禁止

■ ベッドの背ボトムフリーホイール機構に手指をはさみ込む可能性があるため手指を入れない

事故や怪我の原因となります。



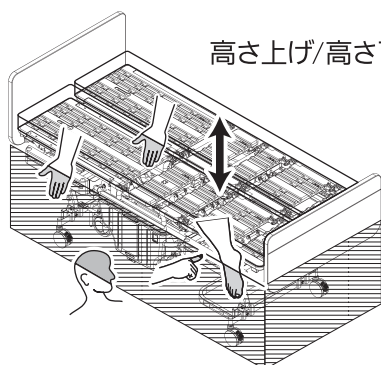
ベッド部の背ボトムフリーホイール機構に手指を挟み込む可能性があるため、注意してください。

車いすに変形する（分離操作）

警告

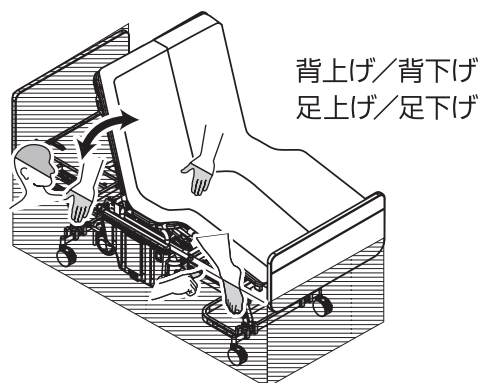


- マットレス下面より下に、要介護者・介護者・周囲の人の体（手・足・指・頭 など）や物がないことを確認してから手元スイッチの操作を行う
動作部による、はさみ込み・圧迫・巻き込みなどや、物に当たって異常な動き・破損などが発生するおそれがあります。



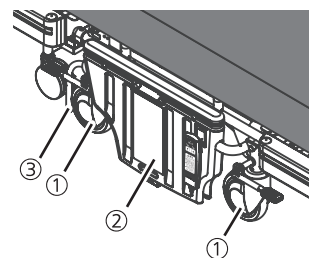
高さ上げ/高さ下げ

マットレス下面より下
（図の斜線部）には
動作する部分があります。

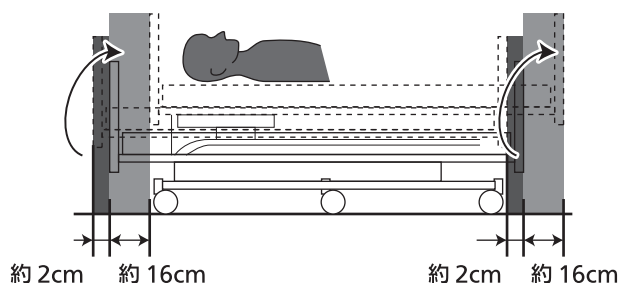
背上げ/背下げ
足上げ/足下げ

分離動作中
車いす ◀◀◀ ベッド
はさみ込み注意

分離動作中、ベッド高さが54cmより低くなると画面に「はさみ込み注意」が表示されます。特に車いすのキャスター①、アームレスト②、転倒防止バー③と床面のすきまが小さくなりますので注意してください。



- ボードと壁の間に、人の体や物がないことを確認してから、手元スイッチの操作を行う
動作部による、はさみ込み・圧迫・巻き込みなどや、物に当たって異常な動き・破損などが発生するおそれがあります。



高さ調整時にベッドは垂直方向に動作するだけでなく、左図のように横方向にも移動します。左図の灰色部分にも人の体や物がないことを確認してください。

（左図は右側分離タイプの場合）



- ベッド周辺に配置された物の確認・片付けをしてから手元スイッチの操作を行う
液体・高温液体・重量物などの転倒・落下により、けが・やけどなどのおそれがあります。
ベッド時に車いす部まで敷いている物（防水シートなど）は取外してから操作してください。



- 要介護者をベッド上で移動させるときに、けがをさせないように注意する
皮膚の弱い要介護者の場合は、皮膚を傷つけないように注意してください。
移動時に要介護者を落下させないように注意してください。
移動時にマットレス分割部に手・指・足などが入っていないことを確認してください。
事故やけがの原因となります。



- 要介護者をベッド上で車いす側に移動させてから、分離操作（分離ボタンの押下）を行う
要介護者が転落・落下して怪我をするおそれがあります。

2. 安全上のご注意

必ずお守りください。

車いすに変形する（分離操作）

2

安全上のご注意

警告



必ず守る

■ 車いすを引き出す際は、引き出せる状態であることを確認する
手元スイッチに「分離動作完了」が表示されたことを確認してください。
物が挟まった状態で引き出すと背・足が急に倒れるおそれがありますので、
背・足とも平らになっていることを確認してください。

分離動作完了
車いす ◀◀◀ ベッド
車いすに変形できます



必ず守る

■ 車いすを引き出す際はゆっくりと行う
左右のアームレストを上昇させ、周囲の安全を確認してから引き出してください。
要介護者に衝撃を与えたり、落下させないように注意してください。
事故やけがの原因となります。



必ず守る

■ 車いすへの変形時に要介護者が落下しないように注意する
下降動作時は車いすの手前側アームレストを上げる、またはサイドレールを取り付けてください。
事故やけがの原因となります。



必ず守る

■ サイドレールを取付けている場合は要介護者が接触していないことを確認する
車いすが床に着いてからベッドが下がりきるまで、
サイドレールが要介護者をこすおそれがあります。



必ず守る

■ ヘッドレストを取付けるときは、要介護者の首をひねらないように注意する
事故やけがの原因となります。



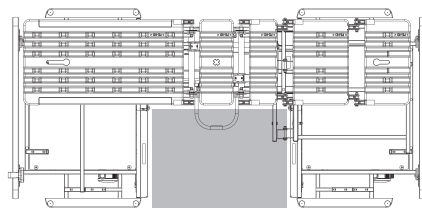
禁止

■ 車いすがベッド内にあるときは、車いす用手元スイッチの操作を行わない
変形した車いすがベッドと干渉するおそれがあります。



禁止

■ 車いすを分離した後の合体部に入らない・触れない
合体部（図の灰色部）には、可動部や角部があり、
けがをするおそれがあります。



禁止

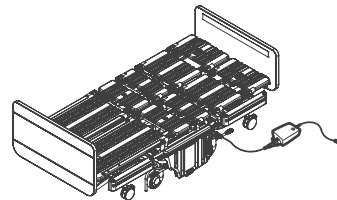
■ 車いすのバッテリー充電中は分離操作を行わない
充電器のケーブルが引っ張られ、感電・火災のおそれがあります。

バッテリーを充電する・交換する

⚠ 危険

必ず守る

- 必ずリショーンPlus専用充電器を使用する
発熱・発火・破裂・破損の原因となります。



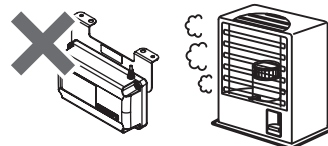
禁止

- バッテリーや充電器のプラグ、充電ポートに金属物を入れない
端子間がショートし、感電・発火・やけどのおそれがあります。



禁止

- バッテリーを火気の近くには置かない
発熱・発火・破裂・破損の原因となります。



禁止

- バッテリーを水中・火中へ投入しない
発熱・発火・破裂・破損の原因となります。



禁止

- バッテリーを鋭利な物で刺したり、衝撃を与えたり、分解・改造をしない
破裂・破損の原因となります。

2. 安全上のご注意

必ずお守りください。

バッテリーを充電する・交換する

2

安全上の注意

警告

- | | |
|---|--|
| 
必ず守る | ■ 車いすのバッテリーを充電する場所は以下を守る
風通しの良い、水のかからないところで行ってください。
湿気・砂・ほこりの多い場所では行わないでください。
火気を近づけないでください。 |
| 
必ず守る | ■ 車いす状態で車いすのバッテリーを充電する際はキャスターをロックする（移動しない）
車いすが移動し、充電ポートに負荷がかかると、発熱・発火のおそれがあります。 |
| 
必ず守る | ■ 充電後は車いすの充電ポートにキャップをする
感電・発火・やけどの原因となります。 |
| 
禁止 | ■ 車いすのバッテリー充電中は、ベッド・車いすの操作は行わない
充電器のケーブルがひっぱられ、感電・火災のおそれがあります。
特に、ベッド状態で充電中は、ベッド下降時に、充電器がベッド・車いすと干渉し、車いす部分が外れ、転落・転倒のおそれがあります。充電器が破損し、感電や火災のおそれがあります。 |
| 
禁止 | ■ 充電中は清掃を行わない
感電・発火・やけどの原因となります。 |
| 
禁止 | ■ 手や車体がぬれている時は乾くまで触らない
感電・発火・やけどの原因となります。 |

注意

- | | |
|---|---|
| 
必ず守る | ■ バッテリーのLEDが橙点滅時、消灯時はすぐに充電する
使用していない場合でも充電してください。
完全放電してしまうと、バッテリー寿命が著しく短くなります。 |
| 
必ず守る | ■ バッテリーはリサイクルしてください
本製品に使用されているバッテリーは鉛蓄電池です。
使用済みの鉛蓄電池は、貴重な資源です。
再利用しますので廃棄しないで、販売店にご相談ください。 |

マットレスの取扱い

警告



必ず守る

- ご使用時に異常を感じたときは、すぐに使用を中止して、医師に相談する
要介護者の病状によっては、「褥瘡（じょくそう（床ずれ））」をおこすおそれがあります。
本製品の動作・姿勢（背上げ、ひざ上げなど）により症状が悪化するおそれがあります。



必ず守る

- マットレスはベッド・車いすのボトムに正しく装着する
事故やけが、褥瘡（じょくそう（床ずれ））」の原因となります。



必ず守る

- ベッド時にマットレス間のすき間が大きくなっていないことを確認する
マットレスがベッド・車いすのボトムに正しく装着できていることを確認してください。
正しく装着しても、マットレス間のすき間が大きい場合は、販売店にご相談ください。
褥瘡（じょくそう（床ずれ））」をおこすおそれがあります。



禁止

- マットレス上で立ち上がったり、歩行したりしない
事故やけがの原因となります。



禁止

- 本来の目的以外に使用しない
事故やけがの原因となります。



禁止

- 改造や独自での修理をしない
事故やけがの原因となります。



禁止

- 熱いものの近くに置かない
変形・変質のおそれがあります。



禁止

- 長期間に渡って同一箇所を変形させない
重いものをのせ続ける・折りたたんで保管するなどしないでください。
変形・変質のおそれがあります。



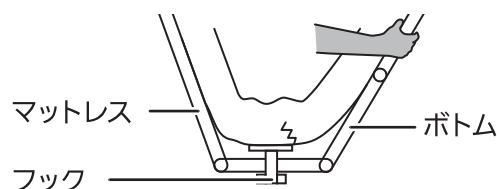
禁止

- 直射日光の当たる場所では保管しない
変形・変質のおそれがあります。



禁止

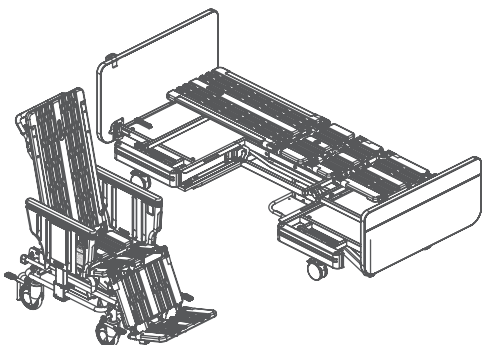
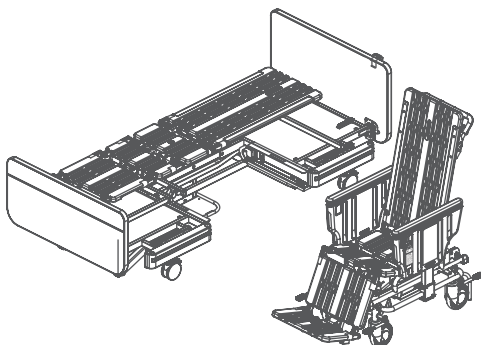
- マットレスを車いす・ベッドに取付けた状態で、ボトムを手で持ち上げない
手元スイッチのボタン操作による可動範囲を超えてマットレスを折り曲げた場合、フックやマットレスが破損するおそれがあります。



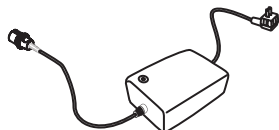
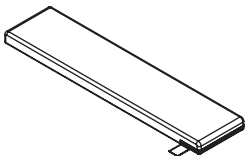
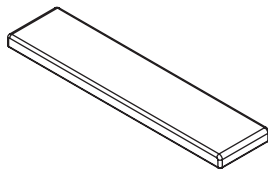
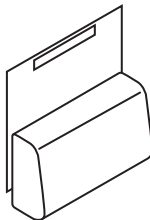
3. 概要

機器構成

リショーンPlus (セット品番: XPN-S10601) は、下記の本体と標準付属品で構成されています。

名称	本体 (ベッド部+車いす部+ヘッドボード+フットボード+車いすバッテリー)
個数	1
	ご購入時、又は導入時に、ご希望の分離方向をご選択ください。 (右側分離タイプ、左側分離タイプは、同一構成で、組立の仕方によって選択できます) ■ 右側分離タイプ  ■ 左側分離タイプ  ※ご購入・導入後に、右側分離タイプと左側分離タイプを変更する場合は、組み換えが必要になります。 販売店にご相談ください。 ※車いすバッテリーは車いすに組み込まれております。

● 標準付属品

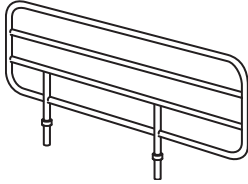
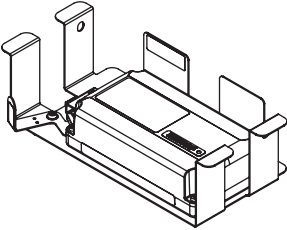
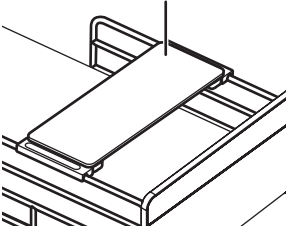
名称	充電器	マットレス	シーツ	ヘッドレスト (カバー付き)
品番	PN-S106012PSP	PN-S106031	PN-S106032	PN-S106033
個数	1	2	2	1
				

3. 概要

機器構成

オプションで、下記をご購入いただけます。

● オプション品

名称	サイドレール	ベッド停電用 バッテリーキット	オーバーテーブル
品番	PN-S106042	PN-S106041	VA1316039
個数	2	1	1
			

※ 上記以外の商品をリショーネPlusに使用しないでください。

3. 概要

設置条件

■ 床面

- ・フローリングなどの床面が水平・フラットで5mmより大きい段差のない環境であること
- ・十分な強度があり、下記の質量に耐えられること

ベッド+車いす
(約164kg)

+

ヘッド・フットボード
(約18kg)

+

マットレス
(約10kg)

+

要介護者

+

寝具

+

オプション品

■ 使用温度・湿度条件を守ること(温度:10~40℃)(湿度:30~75%RH)

■ 砂・ほこり・磁気の多い場所では使用しない

■ 直射日光のあたるところでは使用しない

■ 次のスペースを有すること(下図参照)

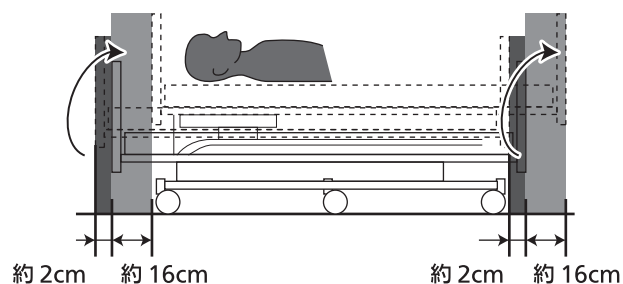
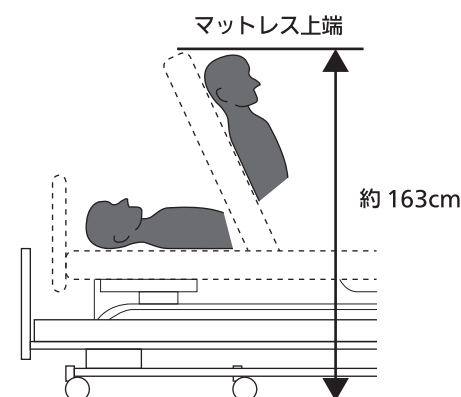
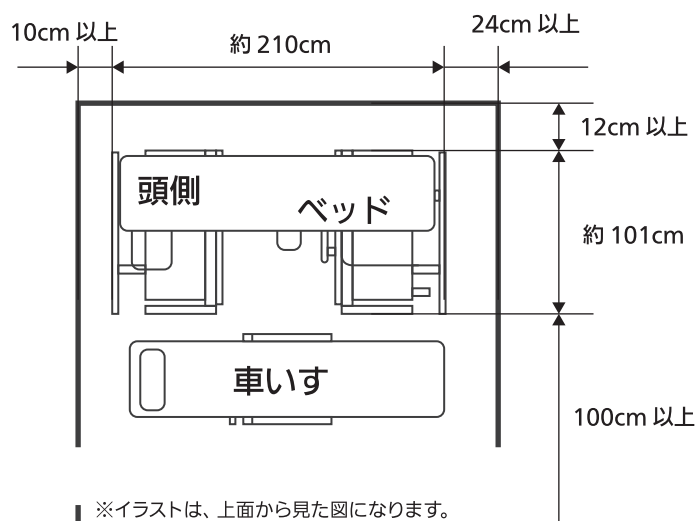
- ・車いすの分離・合体を行うスペース
- ・ベッドの角度・高さ調整を行うスペース

■ 電源プラグの抜き差しが容易に行えること

■ 冷暖房機器からの冷風・温風が直接当たらないこと

■ ストープなどの熱器具が近くにならないこと

【右側分離タイプの場合】



※右側分離タイプと左側分離タイプで、高さ調整時の横方向への動作の向きが異なります。

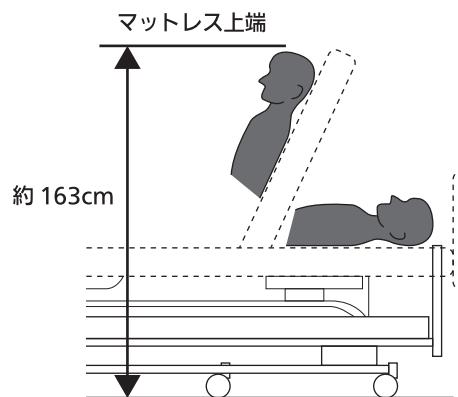
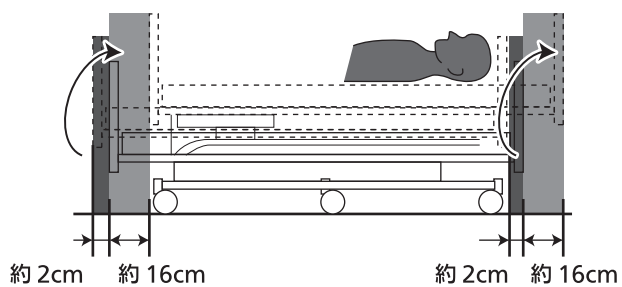
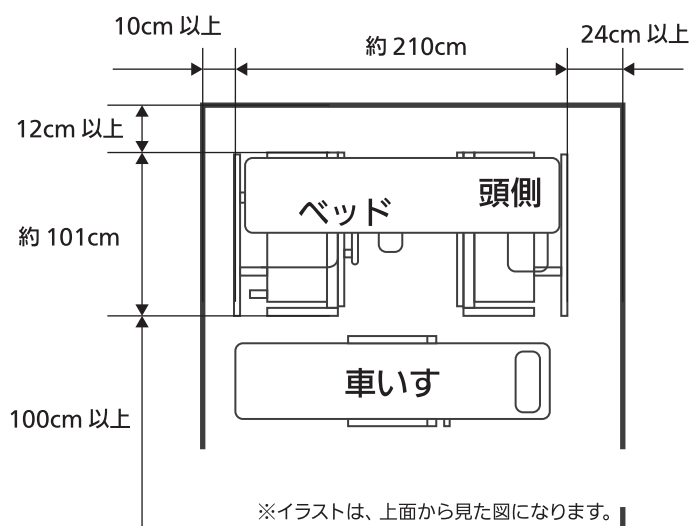
3. 概要

設置条件

3

概要

【左側分離タイプの場合】



※右側分離タイプと左側分離タイプで、高さ調整時の横方向への動作の向きが異なります。

3. 概要

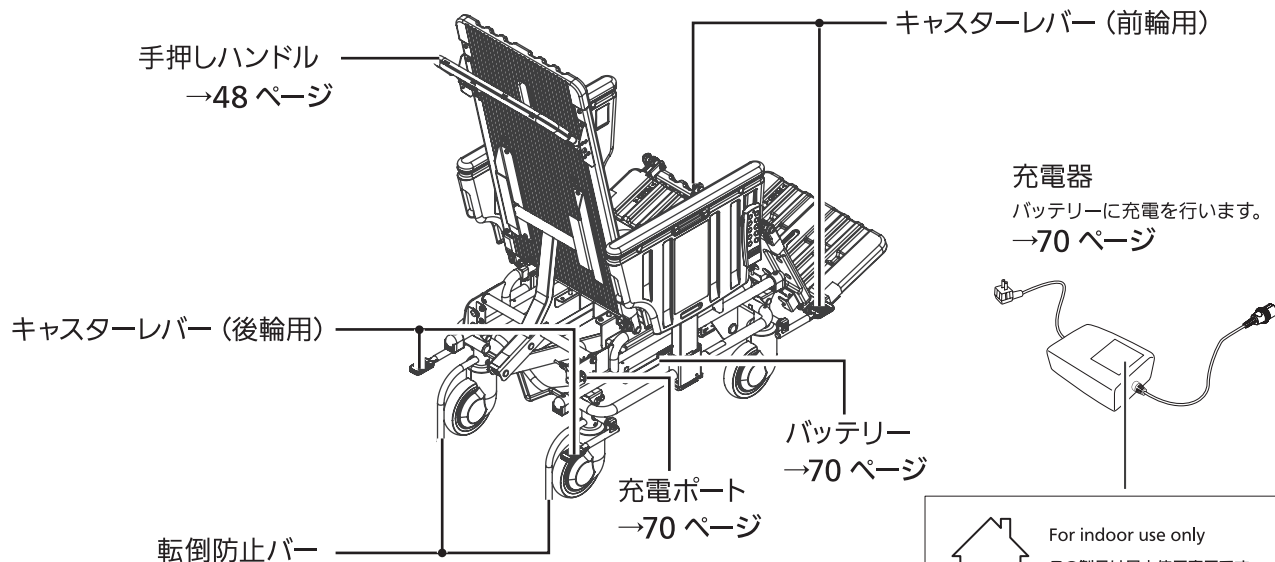
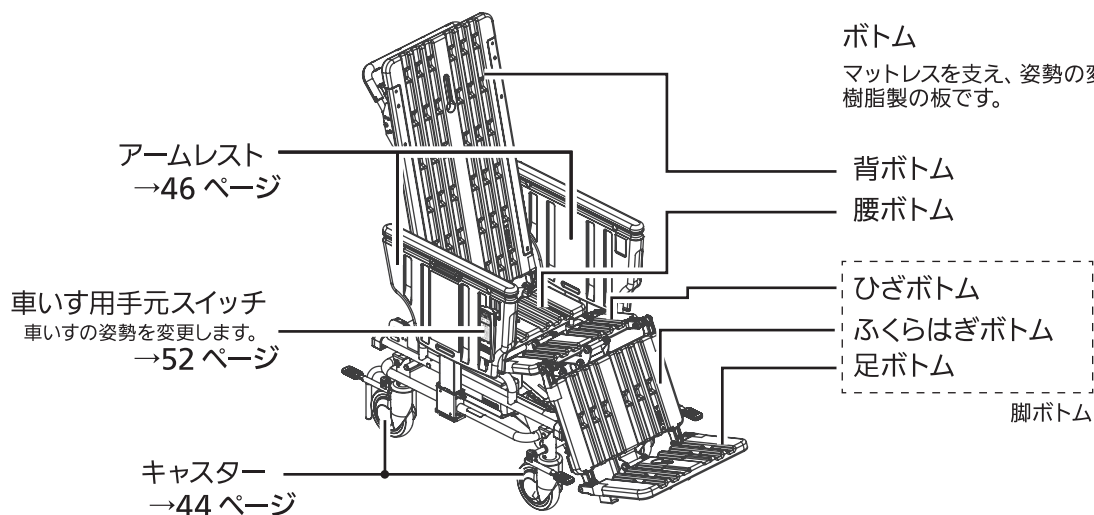
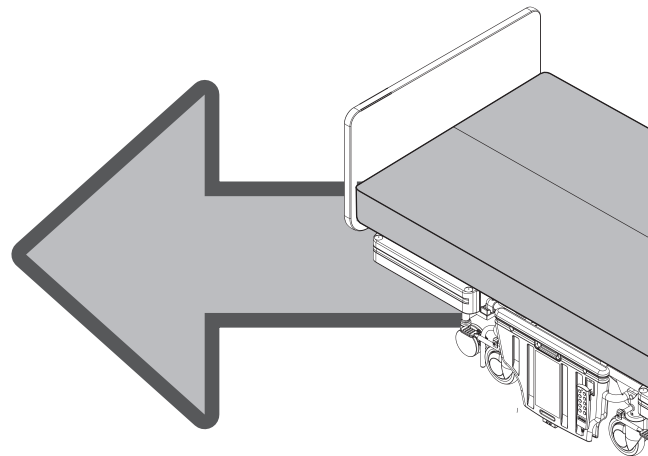
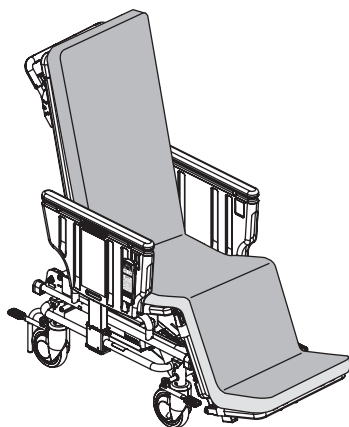
各部のなまえと働き (ベッド・車いす)

右側分離タイプを例に説明致します。

3

概要

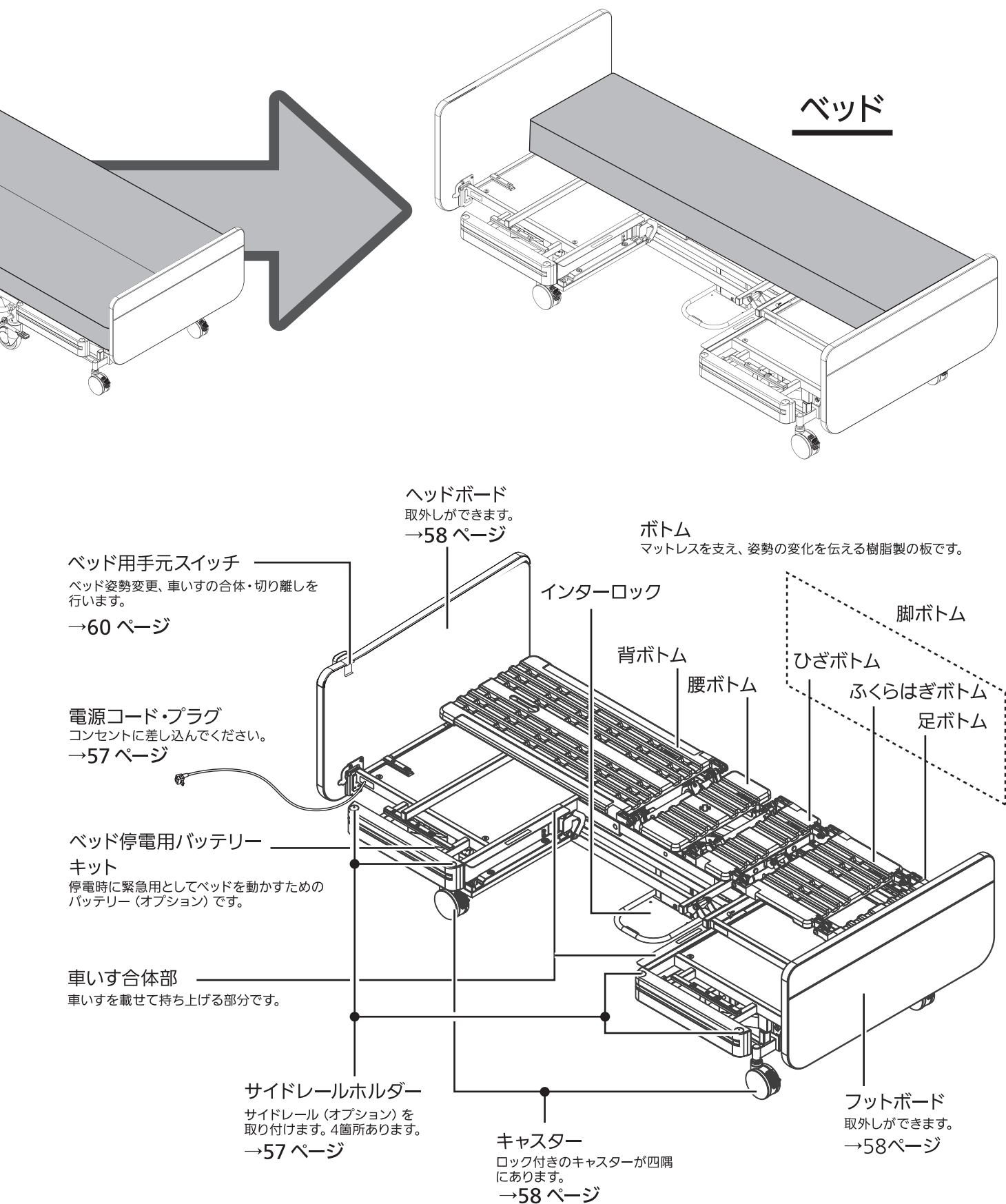
車いす



For indoor use only
この製品は屋内使用専用です。

3. 概要

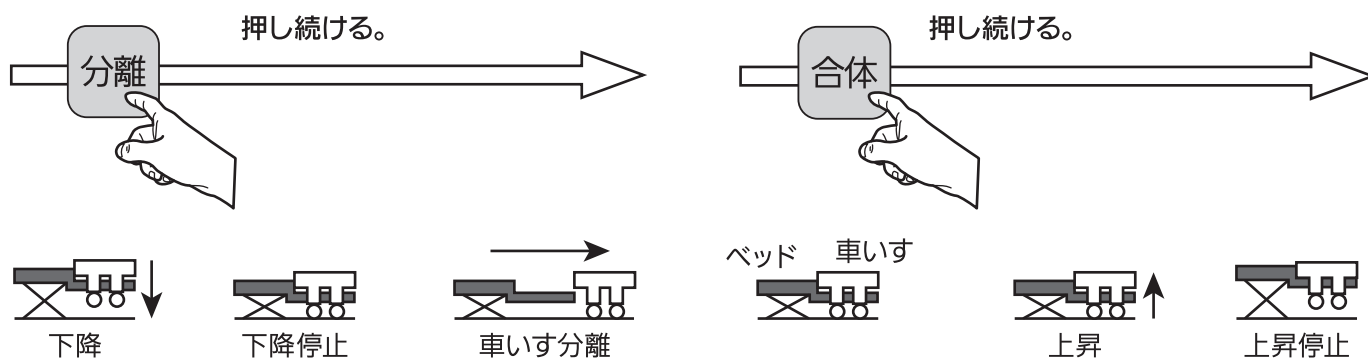
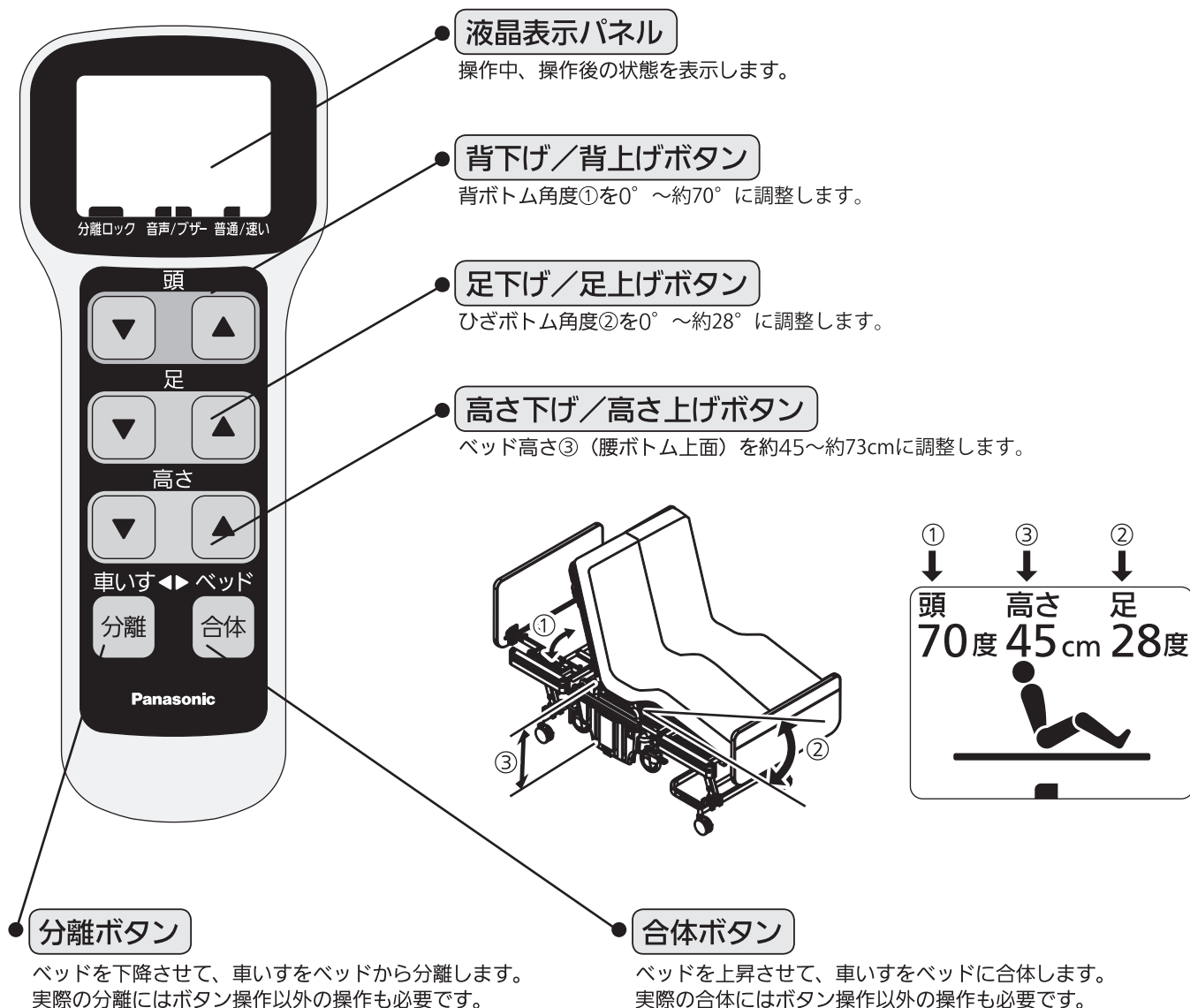
各部のなまえと働き (ベッド・車いす)



3. 概要

各部のなまえと働き (ベッド用手元スイッチ)

■操作ボタン …… ベッドを操作します



ボタンは1つずつ操作してください。ボタンを押している間、動作します。
複数のボタンを同時に操作すると、動作が停止します。上限・下限に達すると、動作が停止します。
画面に表示される数値は、高さ1cm単位・角度2度単位の目安の数字です。

3. 概要

各部のなまえと働き (ベッド用手元スイッチ)

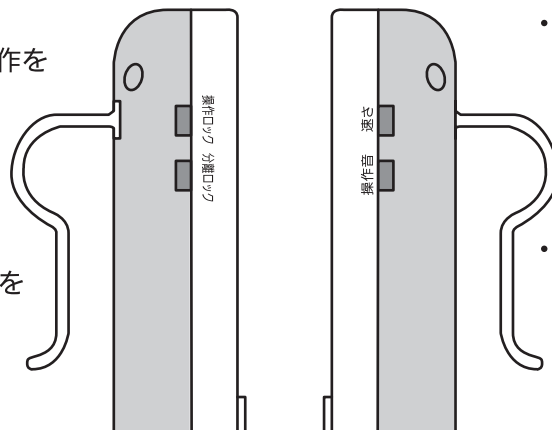
■設定ボタン…設定の変更を行います

・操作ロックボタン

手元スイッチの全ての操作を無効にできます。
(→85ページ参照)

・分離ロックボタン

手元スイッチの分離操作を無効にできます。
(→86ページ参照)



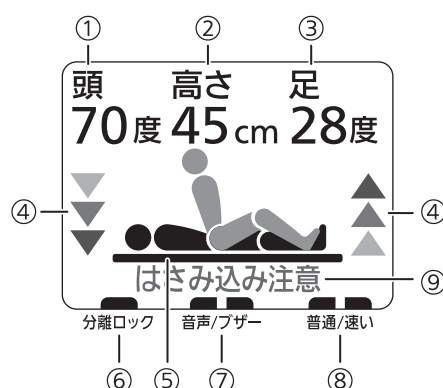
・速度ボタン

ボトムの動作速度を「普通」⇄「速い」に切り替えます。
(→89ページ参照)

・操作音ボタン

ボタンを押したときの音を「音声/ブザー」⇄「ブザー」⇄「切」の三段階で切り替えます。
(→87、88ページ参照)

■液晶表示パネル…状態表示を行います



【表示画面各部のなまえ】

①～③動作部位の角度/高さ

ベッドの角度や高さを表示します。

④動作方向表示

ベッドの動作方向を表示します。

⑤動作部位表示

現在のベッドの角度をイラストで表示します。

⑥分離ロック表示

分離ロックのロック/解除を表示します。
(初期設定：解除)

⑦操作音表示

音声の設定を表示します。
(初期設定：音声/ブザー)

⑧動作速度表示

動作速度の設定を表示します。
(初期設定：速い)

⑨はさみ込み注意表示

ベッドが下降する際はさみ込み注意を表示します。

一定時間、ボタン操作がない場合、ベッド用手元スイッチは待機状態になり、画面の表示が消えます。操作ボタンを押すと、待機状態から復帰します。



無操作約30秒



3. 概要

各部のなまえと働き（車いす用手元スイッチ）

3

概要



電源ランプ

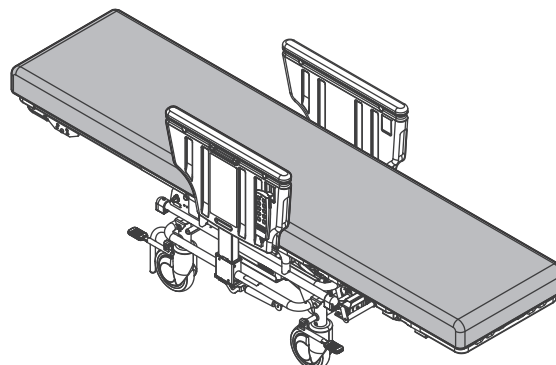
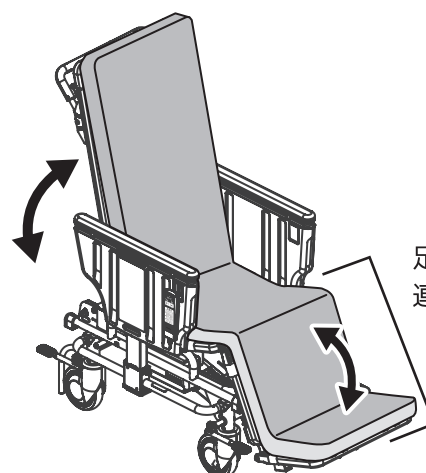
ボタンを押している間、緑点灯します。
ボタンを押しても消灯している場合は
充電してください。

背上げボタン

ボタンを押している間、背上げ／足下げします。
背角度約75°で止まります。

背下げボタン

ボタンを押している間、背下げ／足上げします。
背角度約0°で止まります。



4. 使用方法

ご使用になる前に

本体・オプションを正しく安全にお使いいただくために、
ご使用前に必ず取扱説明書（本書）をお読みください。
合わせて、取扱説明用DVDもご視聴ください。

また、設置（移動後の設置も含む）が終わりましたら、
実際に要介護者をのせて使用する前に、下記の確認を行って下さい。

- 設置条件（→36、37ページ参照）を満たしていること。
- 各部が正常に動作すること。
「日常点検」（→91～93ページ参照）の各項目をご確認下さい。
- ご使用前に車いすのバッテリーを充電してください（→70～72ページ参照）。
- ご使用前にベッドの電源プラグをコンセントに差し込んで下さい（→57ページ参照）。

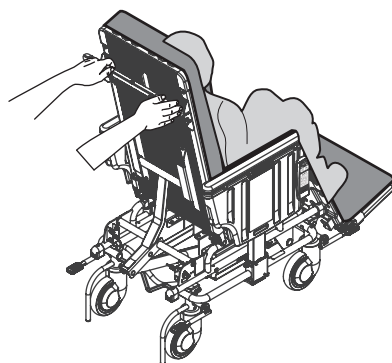
4. 使用方法

車いすとして使う（使用全般・走行）

車いすとして使う時の各部の使用方法を以下の状況に分けて解説します。

○使用全般・走行

- ・キャスターレバーを切り替える
- ・アームレストを上げる/下げる
- ・手押しハンドルを収納/展開する
- ・車いすへ乗り降りする
- ・車いすを移動する
- ・車いすを持上げる
- ・足ボトムの外れを戻す



○手元スイッチ操作

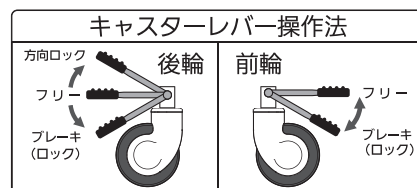
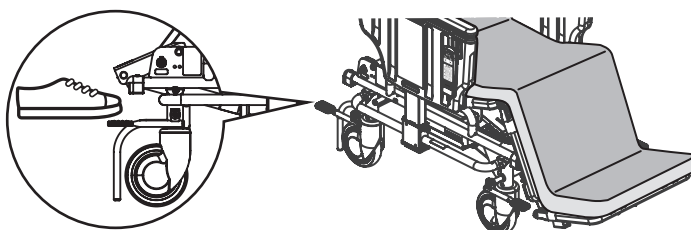


必ず守る

■ 安全上のご注意（4～33ページ）をよくお読みの上、正しくお使いください。
ここで説明する項目に特に関連する安全上のご注意は下記に掲載しております。
車いすとして使う：（使用全般・走行） → 16～19ページ

■キャスターを切り替える

キャスターレバーは足で操作して切り替えます。前輪は「ブレーキ（ロック）」⇔「フリー」の二段切替、後輪は「ブレーキ（ロック）」⇔「フリー」⇔「方向ロック」の三段切替になります。左右のキャスターレバーは連動しており、左右どちらでも操作できます。



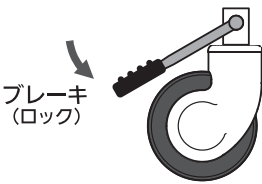
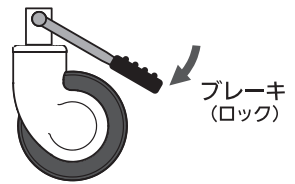
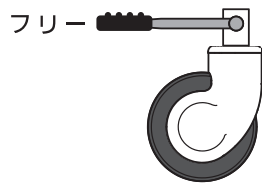
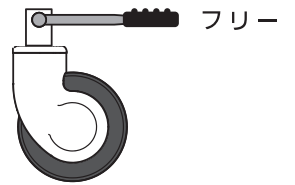
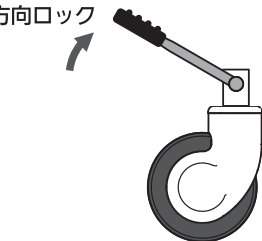
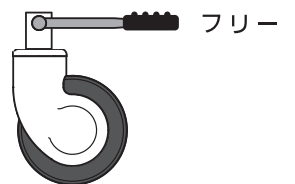
レバー位置	特 性	対象キャスター
ブレーキ（ロック） 	キャスター旋回及び車輪回転の両方がロックされます。	前輪 後輪
フリー 	キャスター旋回及び車輪回転の両方がフリーになります。	前輪 後輪
方向ロック 	キャスター旋回がロック、車輪回転はフリーになります（後輪のみ）。	後輪

4. 使用方法

車いすとして使う（使用全般・走行）

前後のキャスターレバーを下記に示す3パターンに切り替えてご使用ください。

キャスターレバーの組み合わせは、下記の3パターンがあります（図は右側キャスターの場合）

使用シーン		レバー状態	
		後 輪	前 輪
駐 車	前後のキャスターがロックされ、車いすが動かなくなります。車いすを駐車する場合に使用します。		
合体・分離	前後のキャスターがフリーになり、前後左右など自由に動かすことができます。ベッドに合体・分離する場合、あるいは、狭い場所で横移動する場合に使用します。		
移 動	前輪がフリー、後輪が方向ロックされ、一般の手動車いすのように動かすことができます。車いすとして押して移動する場合に使用します。		

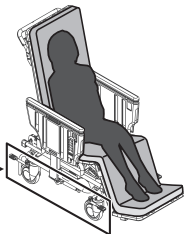
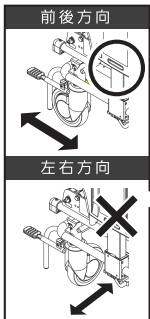


警告



必ず守る

- 停止時は、キャスターが前後方向に向いていることを確認してロックする
車いすが転倒してケガをするおそれがあります。

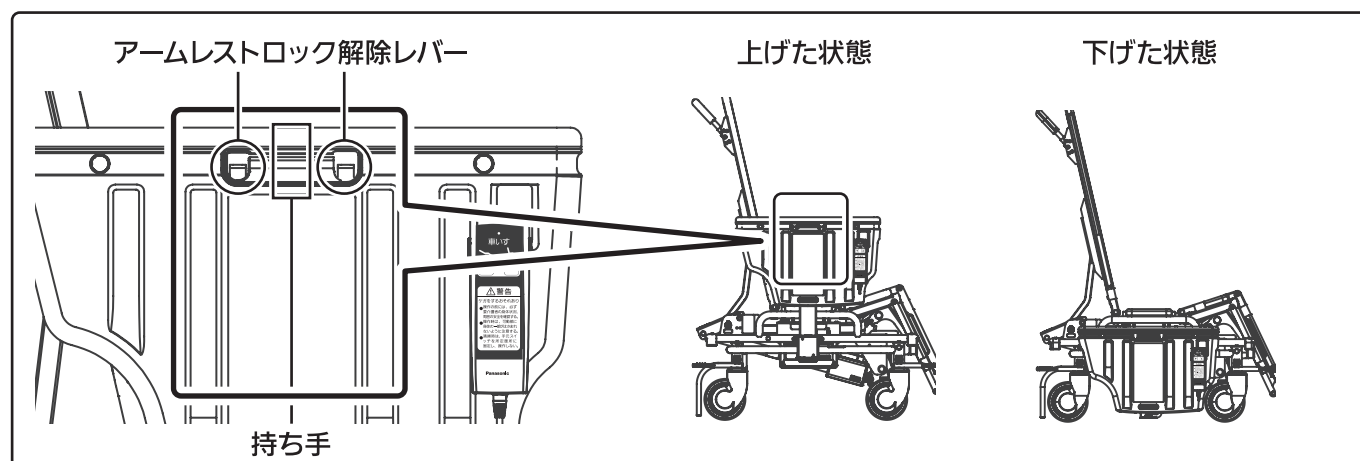


4. 使用方法

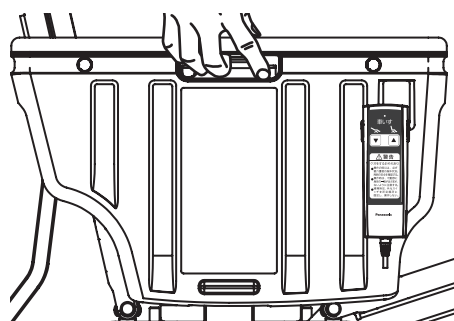
車いすとして使う（使用全般・走行）

■アームレストを上げる/下げる

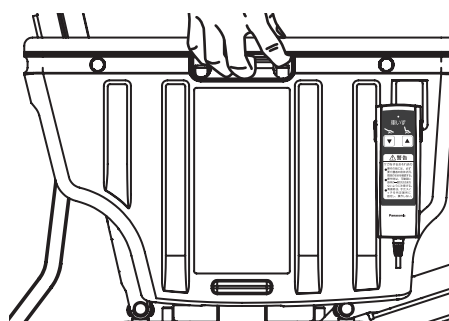
車いすとして使う時はアームレストを引き上げます。



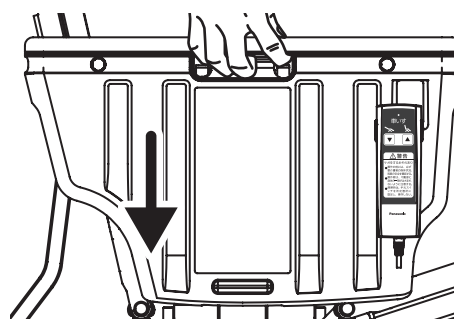
アームレストを下げる



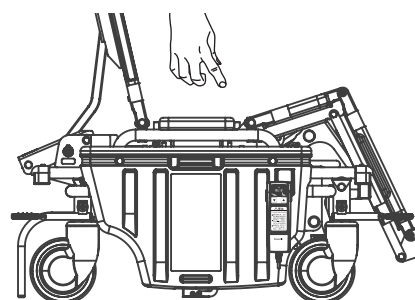
①持ち手を握ります。



②持ち手を握ったまま、アームレストロック解除レバーを引き上げます。（左右のレバーは連動しています。）



③アームレストロック解除レバーを引き上げたまま、アームレストをゆっくりと押し下げます。（途中からはレバーを離しても押し下げることができます。）



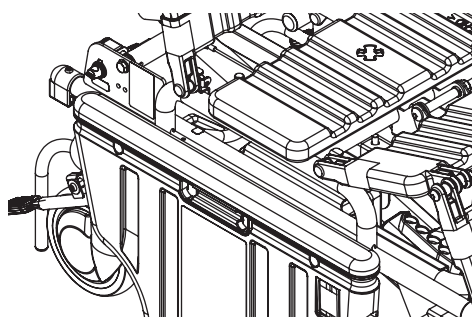
④アームレストが下まで下がったら手を離します。

4. 使用方法

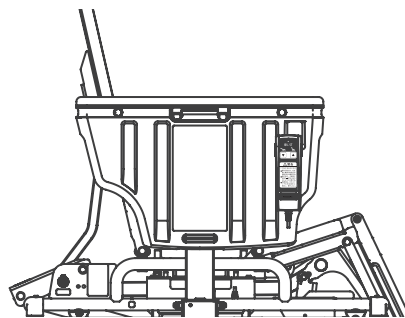
車いすとして使う（使用全般・走行）

■アームレストを上げる/下げる

アームレストを上げる



①持ち手を握ったまま、アームレストをゆっくり引き上げます。このとき、アームレストロック解除レバーは操作せず、引き上げてください。操作してしまうと、アームレストが上昇位置でロックされません。



②アームレストを上昇位置まで引き上げたら、アームレストがその高さで固定されます。しっかり固定されていることを確認してください。

⚠ 警告



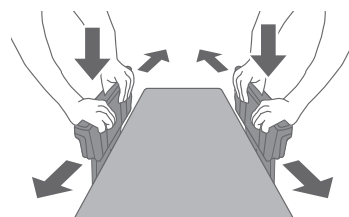
必ず守る

■要介護者の車いす搭乗時はアームレストを上げて使用する
要介護者が側方に倒れ、転落等の事故やけがの原因となります。



必ず守る

■アームレストを上げた後は、アームレストを上下左右に動かし、ロックが確実にされていることを確認する
正しくロックがされていないと、アームレストの高さが急に変わり、転落等の事故やけがの原因となります。
ひざ掛け等を使用している場合は、特に注意する。



必ず守る

■アームレストを上げる時は、ロック解除レバーを操作しない
ロック解除レバーを握ったままアームレストを上げると、正しくロックがされず、アームレストの高さが急に変わり、転落等の事故やけがの原因となります。



必ず守る

■アームレストを下げる時は、要介護者が側方に転倒しないように注意する
アームレストを下げる際、側方からあるいは上方から要介護者がアームレストに体重をかけていると、アームレストの高さが急に変わったり、要介護者が側方に倒れ、転落等の事故やけがの原因となります。

4. 使用方法

車いすとして使う（使用全般・走行）

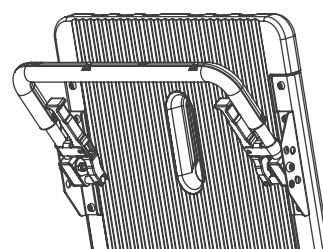
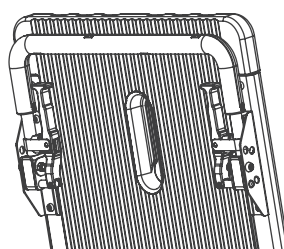
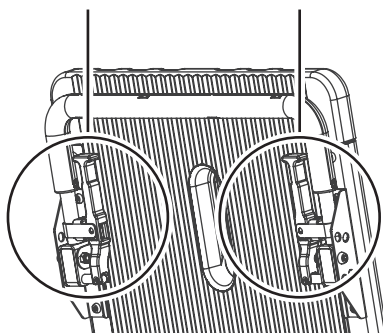
■手押しハンドルを収納/展開する

車いすとして使う時は、手押しハンドルを展開します。

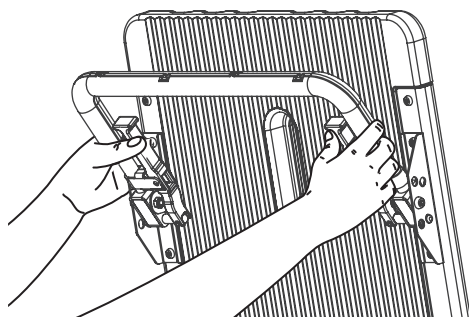
手押しハンドルロック解除レバー

収納状態

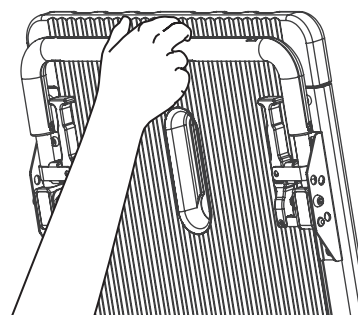
展開状態



手押しハンドルを収納する



①左右の手押しハンドルロック解除レバーを握ったまま奥に倒します。



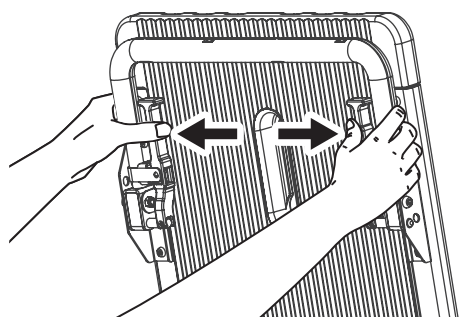
②手押しハンドルを奥まで倒したら、手押しハンドルロック解除レバーを離します。手押しハンドルがしっかり固定され、動かないことを確認してください。

4. 使用方法

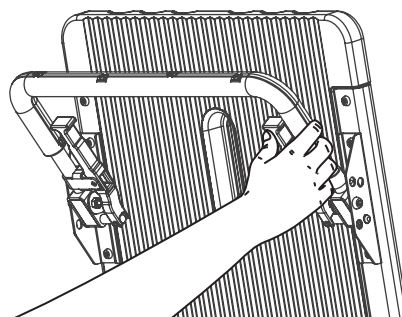
車いすとして使う（使用全般・走行）

■手押しハンドルを収納/展開する

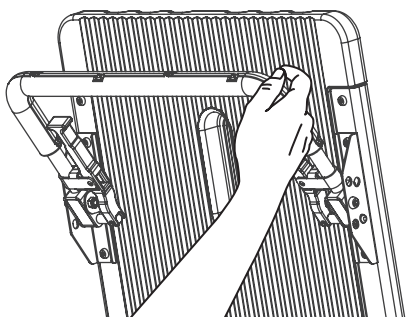
手押しハンドルを展開する



①左右の手押しハンドルロック解除レバーを握ったまま手前に倒します。



②手押しハンドルを手前に倒したら、手押しハンドルロック解除レバーを離します。



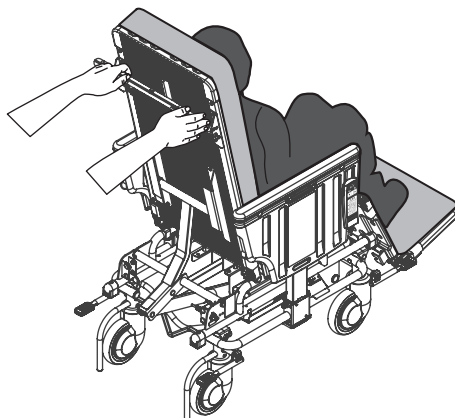
③手押しハンドルを少し奥に倒すと、ロックされます。しっかり手押しハンドルが固定され、動かないことを確認してください。

4. 使用方法

車いすとして使う（使用全般・走行）

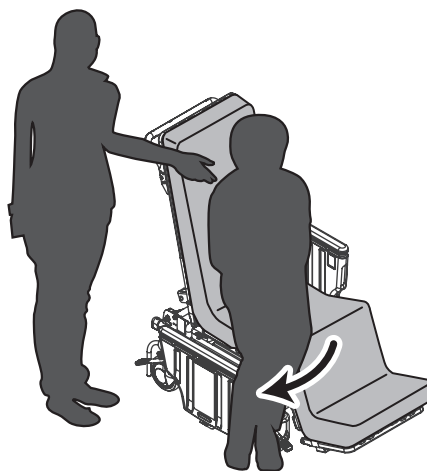
■車いすの移動

手押しハンドルをしっかり握り、押し引きして、車いすを移動してください。
手押しハンドルから手を離す場合は、前後のキャスターをロックしてください。



■車いすへの乗り降り

前後のキャスターをロックしてから、アームレストを下ろして、
フットレストには体重をかけないように横方向から乗り降りしてください。



警告



必ず守る

■ 要介護者がベッド・車いすから立ち上がり等する場合は、必ず介護者のサポートのもと行う
また、身体状況に合わせてステップ等の補助具を使用する
介助しやすいように、ベッド・車いすの座面高さを高く設定しており、足がつかない可能性があります。
身体状況に合わせてステップ等の補助具をご使用ください。
転倒・転落し、けがをするおそれがあります。



必ず守る

■ 車いすへの乗り降りを行う際は前後のキャスターをロックし、車いすを固定する
乗り移りの際に、フットレスト上に立ったり、体重をかけたりしないでください。
事故やけがの原因となります。



禁止

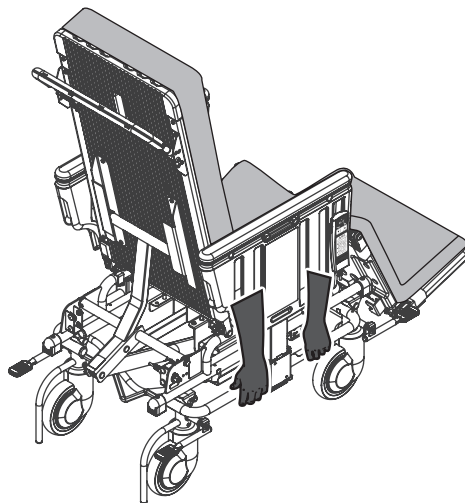
■ フットレスト上に立たない・体重をかけない
転倒して、けがをするおそれがあります。

4. 使用方法

車いすとして使う (手元スイッチ操作)

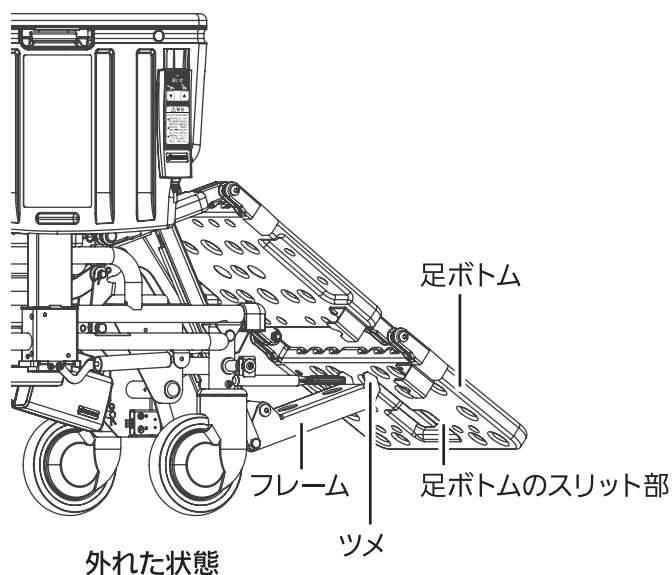
■車いすを持ち上げる

左右から2人で、キャスター付近のフレームを持って、持ち上げてください。
ボトム、フットレスト、アームレスト、手押しハンドル等を持たないでください。



■足ボトムの外れを戻す

誤ってフットレストを持ち上げた時など、足ボトムがフレームのツメから外れ、
足ボトムが連動しなくなる場合があります。
一旦、車いすをフラットな状態にすると戻ります。
戻らない場合は、車いすをフラットな状態にして、ツメをボトムにひっかけてください。



4. 使用方法

車いすとして使う（手元スイッチ操作）

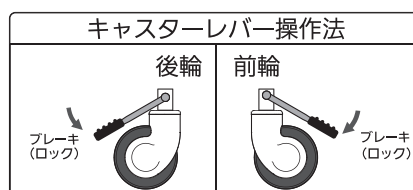
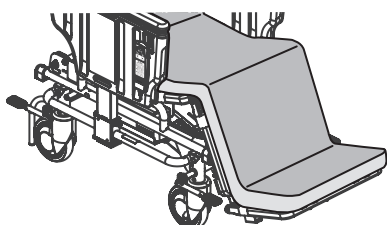


必ず守る

■ 安全上のご注意（4ページ～33ページ）をよくお読みの上、正しくお使いください。
ここで説明する項目に特に関連する安全上のご注意は下記に掲載しております。
車いすとして使う（手元スイッチ操作） → 20ページ

■操作方法

①前後のキャスターをロックします。



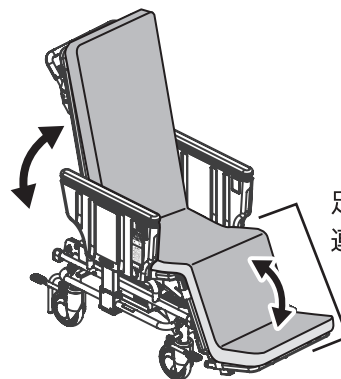
切り替え操作の際に
バランスを崩さないように
注意してください。

②車いす用手元スイッチの背上げ・背下げボタンを押しながら傾きを調整します。



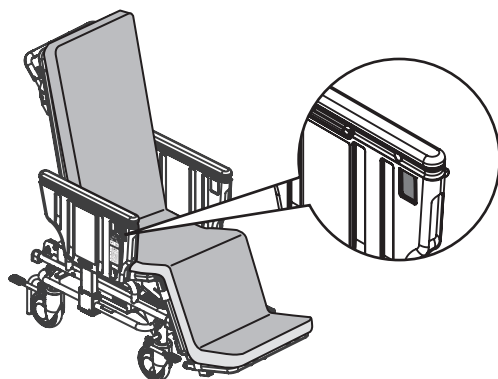
電源ランプ ボタンを押している間、緑点灯します。
ボタンを押しても消灯している場合は充電してください。

背上げボタン ボタンを押している間動作し、離すと停止します。
背下げボタン



足側の角度も
連動して変化します

③終了後は手元スイッチはアームレストカバーの穴に掛けてください。

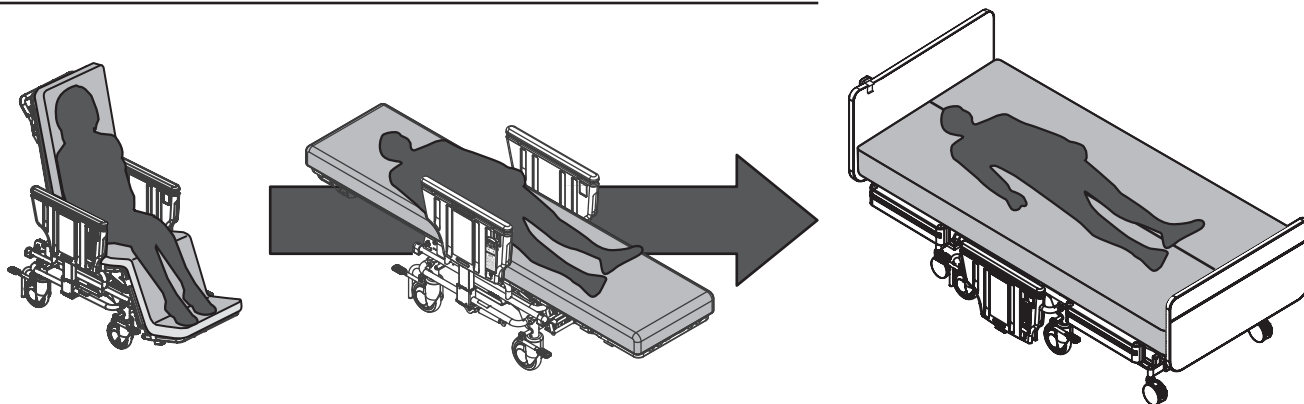


右側分離タイプの場合は、右側アームレストカバーの穴に、
手元スイッチを掛けてください。
左側分離タイプの場合は、左側アームレストカバーの穴に、
手元スイッチを掛けてください。

4. 使用方法

ベッドに変形する (合体操作)

車いすをフラットにして、ベッドに合体します

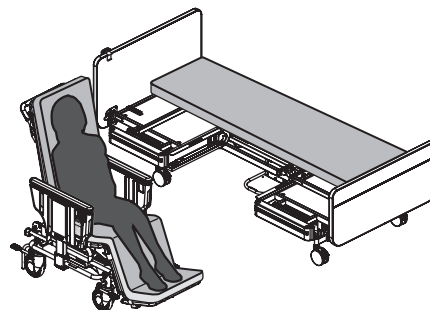


必ず守る

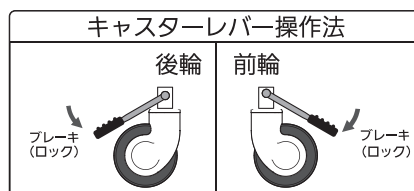
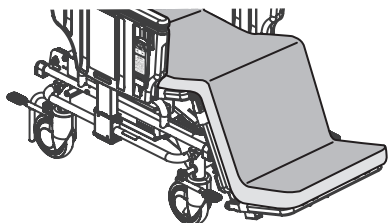
■ 安全上のご注意 (4ページ～33ページ) をよくお読みの上、正しくお使いください。
ここで説明する項目に特に関連する安全上のご注意は下記に掲載しております。
ベッドに変形する (合体操作) → 21ページ

■操作方法

- ①車いすをベッドの横に並べます。
頭の向きを揃えて並べます。

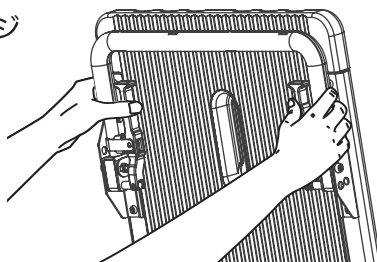


- ②車いすをフラットにします。
A. 車いすのキャスターをロックします。



切り替え操作の際に
バランスを崩さないように
注意してください。

- B. 手押しハンドルを収納します。
手押しハンドルの使い方 → 49ページ

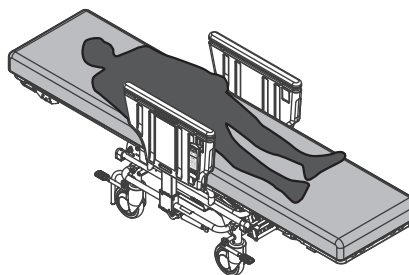


4. 使用方法

ベッドに変形する（合体操作）

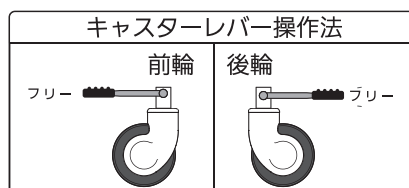
C. 車いす用手元スイッチの背下げボタンを押し続けてフラットにします。
背下げ動作が止まるまで、背下げボタンを押し続けてください。

車いす用手元スイッチの使い方 →52ページ



③ 車いすをベッドに押し込みます。

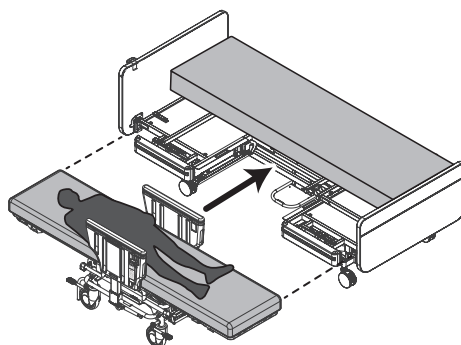
A. 車いすのキャスターをフリーにします。



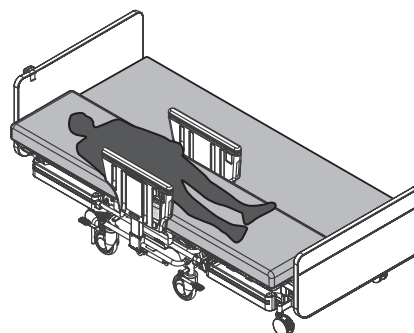
切り替え操作の際に
バランスを崩さないように
注意してください。

B. 車いすをベッドの凹部に、マットレスの隙間が5cmくらいまで押し込みます。

車いすの左右アームレストを両手で握り、車いすのマットレスがベッドのヘッドボードとフットボードの間に
入るように位置合わせしながら、車いすを移動させます。



マットレスの隙間が5cmくらいまで押し込みます。



警告



必ず守る

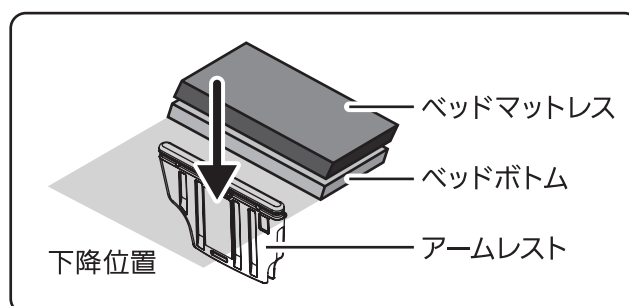
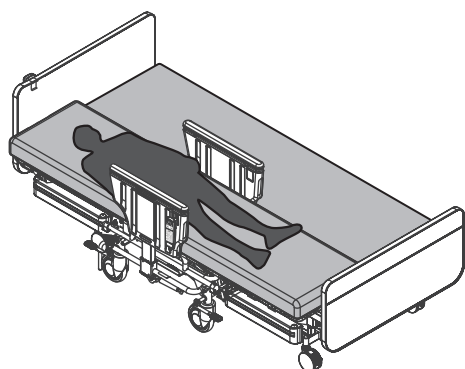
■ 車いすがベッド内にあるときは、車いす用手元スイッチを操作しない
車いすがベッドと干渉し、破損・変形するおそれがあります。
また、破損・変形したまま使用すると、正しく車いすがベッドに合体できず、
事故や怪我の原因になります。

4. 使用方法

ベッドに変形する (合体操作)

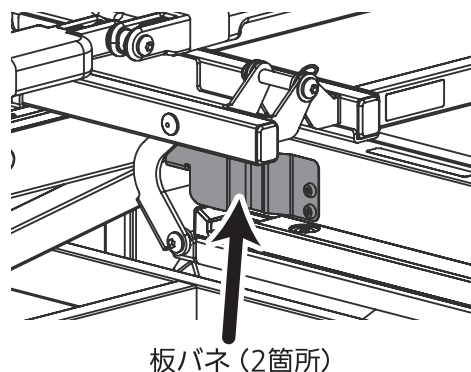
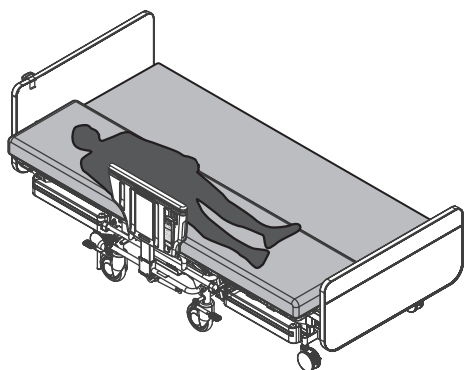
C. 車いすの左側 (奥側) アームレストを下まで下げます。

アームレストを最下降位置まで下げないと合体ができないようになっています。



D. 車いすを完全に押し込みます。

マットレスが接触するまで押し込みます。この時、ガイドが板バネを乗り越えるため、少し抵抗がありますが、要介護者が衝撃を受けないように、ゆっくりと押し込みます。



合体できます

合体ボタンを押してください

完全に押し込むと、
「合体できます。合体ボタンを押してください。」という
音声流れ、手元スイッチの液晶表示パネルに
「合体できます」が表示されます。
(操作音設定が「切」の場合は、音声は流れません。)

4. 使用方法

ベッドに変形する（合体操作）

④ベッドを上昇させて、車いすとベッドを合体します。

A. ベッド手元スイッチの **合体** ボタンを押し続けます。

ベッドが上昇し、車いすを持ち上げます。

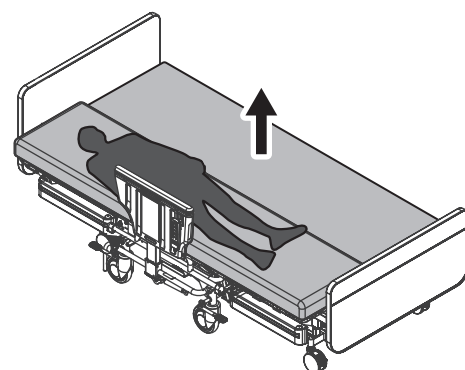
「合体します。」という音声流れ、手元スイッチの液晶表示パネルに

「合体・分離中」が表示されます。

（操作音設定が「ブザー」「切」の場合は、音声は流れません。）



合体・分離中



B. 高さが約45cmになると、上昇動作が停止し、このとき、「合体、完了しました。ベッドとして使えます。」と音声流れ、液晶表示パネルに「合体動作完了」が表示されます。

ベッド用手元スイッチの合体ボタンを離してください。（操作音設定が「切」の場合は、音声は流れません。）

合体動作完了の表示

合体動作完了

車いす ▶▶▶ ベッド

ベッドとして使用できます

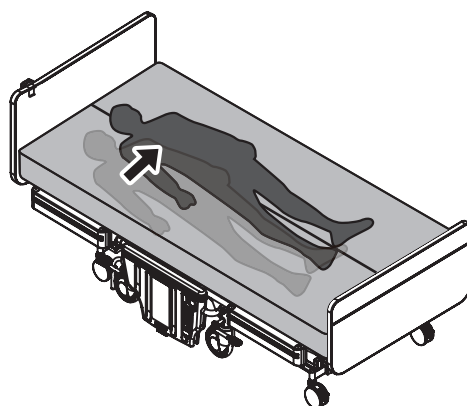
⑤要介護者をベッド中央部に移します。

車いすの右側（手前側）アームレストを下まで下げ、要介護者をベッド中央に移します。

ベッド上で要介護者をスライド移動する際は、

スライディングシート（要介護者をベッド上でスライド移動させるための補助具）等をご活用ください。

必要に応じて、サイドレールをご使用ください。



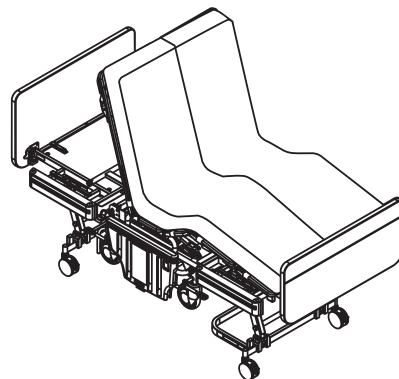
4. 使用方法

ベッドとして使う（使用全般・移動）

ベッドとして使う時の各部の使用方法を、右側分離タイプを例に、以下の状況に分けて解説します。

○使用全般・移動

- ・ベッドに電源を供給する
- ・サイドレールを取付ける
- ・ヘッド／フットボードを取付ける／取外す
- ・キャスターをロックする／ロック解除する
- ・ベッドを持ち上げる
- ・ベッドを移動する



○手元スイッチ操作



必ず守る

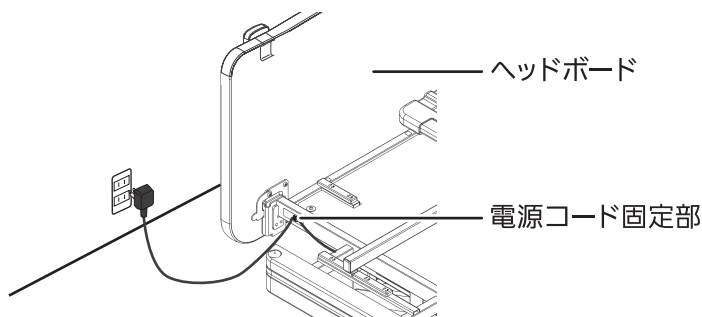
■安全上のご注意（4ページ～33ページ）をよくお読みの上、正しくお使いください。
ここで説明する項目に特に関連する安全上のご注意は下記に掲載しております。

ベッドとして使う（使用全般） → 22～24ページ
ベッドとして使う（移動時） → 25～26ページ

■ベッドに電源を供給する

電源プラグをコンセント（AC100V）に差込みます。

電源コードは電源コード固定部（ヘッドボード付近の本体フレーム裏）に固定されていますので、無理に引っ張らないでください。



警告



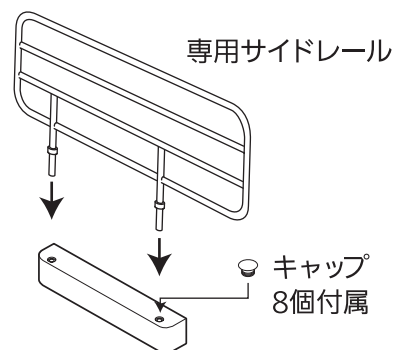
必ず守る

■電源コードや手元スイッチケーブルがベッド本体フレームにはさみ込まないように注意する
電源コードは床面上を這わすようにしてください。

■サイドレールを取り付ける

サイドレールホルダーには取付け穴（2個×4か所）があり、専用サイドレールを装着できます。
サイドレールを使用しないときは、必ず付属のキャップをはめ込んでください。

サイドレールは専用のオプション品になります。
専用サイドレール以外は取付けできません。

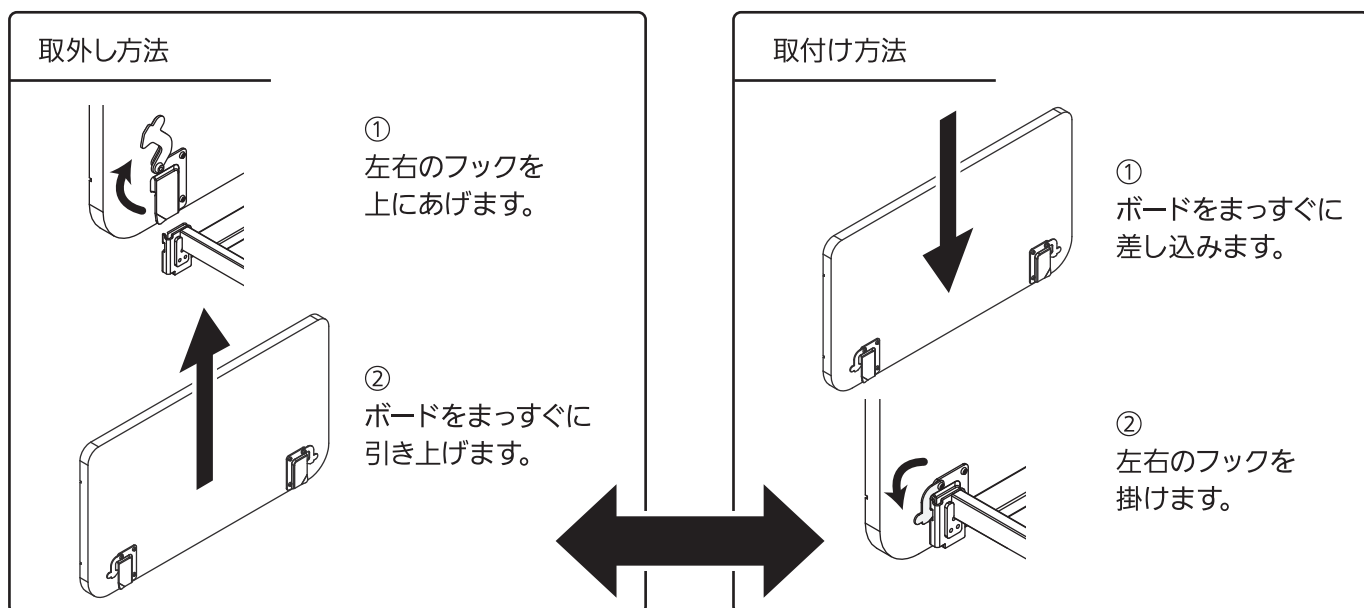


4. 使用方法

ベッドとして使う（使用全般・移動）

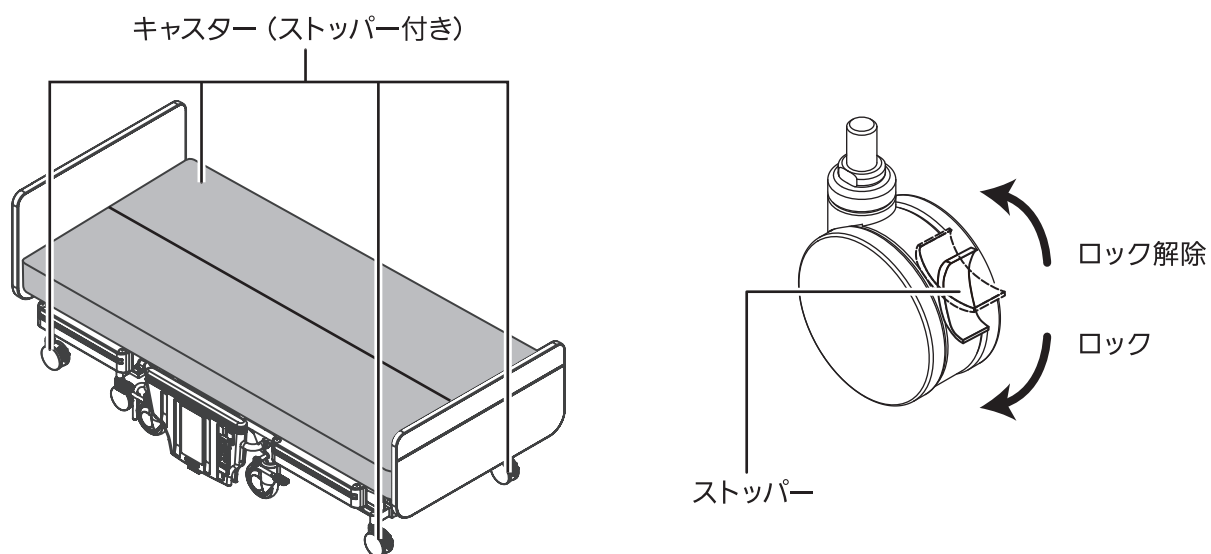
■ヘッドボード/フットボードを取付ける/取外す

ヘッドボード/フットボードは取外すことができます。
取付け・取外し方法はヘッドボード/フットボード共に同様です。



■キャスターをロックする／ロック解除する

キャスターは4箇所があり、キャスターの旋回と回転をロックすることができます。
車いす側の手前2箇所とベッド側の奥側1箇所のキャスターをロックしてご使用ください。

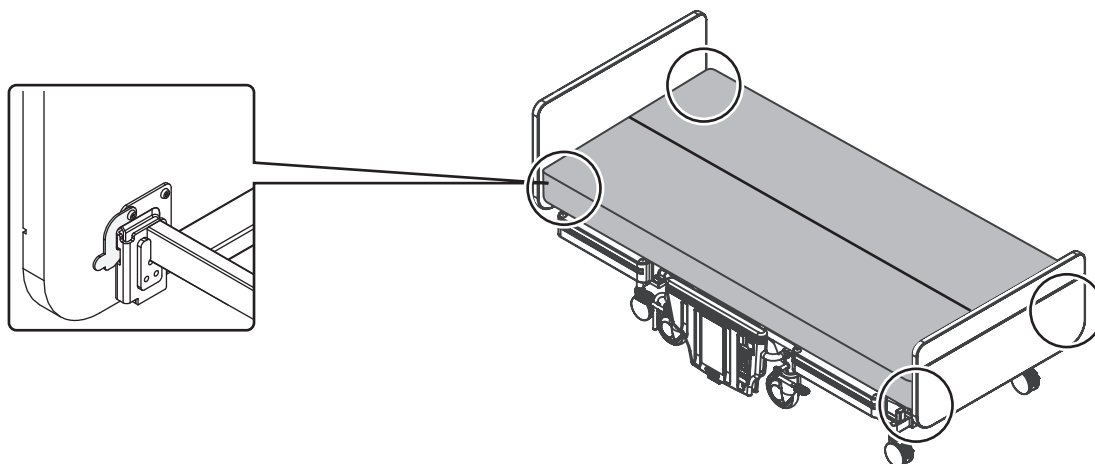


4. 使用方法

ベッドとして使う（使用全般・移動）

■ベッドを持ち上げる

ヘッドボード／フットボードを取外し、ヘッドボード／フットボード取付部付近のベッドフレームを持って、持ち上げてください。



■ベッドを移動する

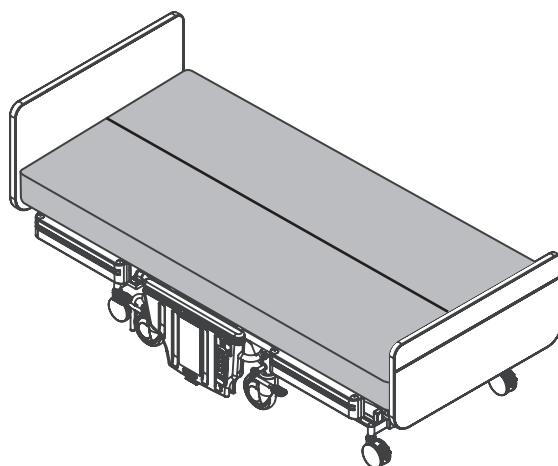
事前に移動経路を確認し、安全に留意して移動してください。

①準備

車いす部の下端がベッドのベースフレームより上になるよう、ベッドを52cm以上に上昇します。
移動時に邪魔になるもの（サイドレールなどのオプション類や寝具など）を取り除きます。
電源プラグをコンセントから抜き、ベッドの上に置きます。
車いす用手元スイッチを右アームレストのレバーに掛けます。

②キャスターのロックを解除します。

③ヘッドボードまたはフットボードを押してゆっくり移動します。



④移動が終了したら、キャスターをロックします。

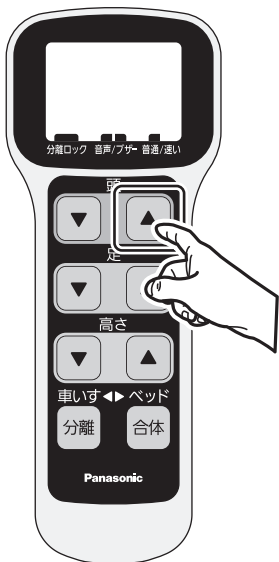
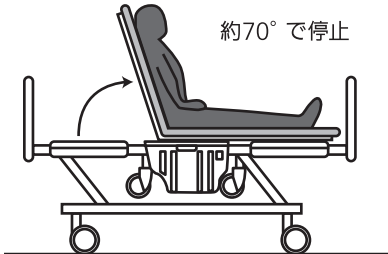
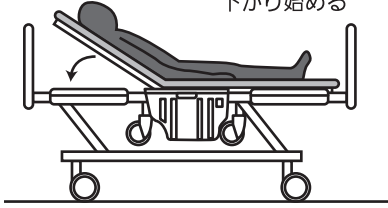
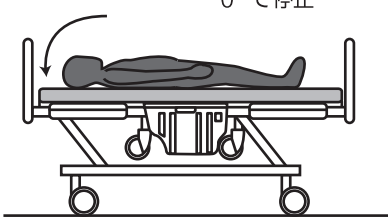
4. 使用方法

ベッドとして使う（手元スイッチ操作）

■背を上げる/下げる

背上げ/背下げボタンを押している間、背ボトムが上下動作します（背ボトム角度：0度～約70度）

- ・背上げボタンを押している間は、背上げ動作を続け、背ボトム角度が約70度になると、動作が停止します。
- ・背下げボタンを押している間は、背下げ動作を続け、背ボトム角度が0度になると、動作が停止します。

操作ボタン	ベッド動作	液晶表示パネル
背上げボタンを押してください 調整したい位置までボタンを押し続けてください。 	・ボタンを押している間、背ボトムが上がります。 ・約70°になると、停止します。  上がり始める  約70°で停止	角度は2°ごとに表示されます。 頭 高さ 足 0度 45cm 0度  頭 高さ 足 70度 45cm 0度 
背下げボタンを押してください 調整したい位置までボタンを押し続けてください。 	・ボタンを押している間、背ボトムが下がります。 ・0°になると、停止します。  下がり始める  0°で停止	角度は2°ごとに表示されます。 頭 高さ 足 70度 45cm 0度  頭 高さ 足 0度 45cm 0度 

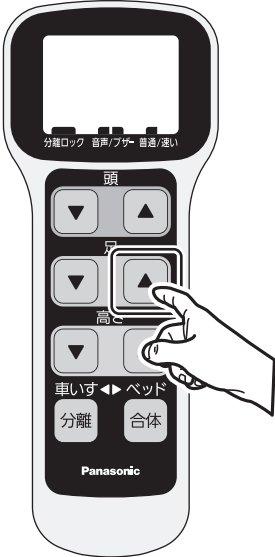
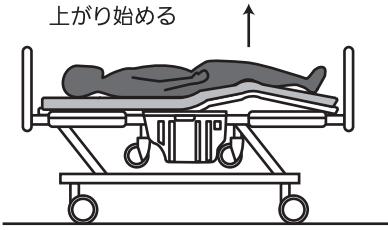
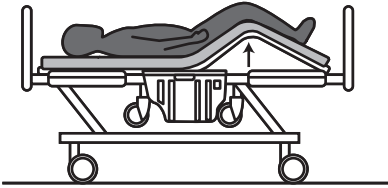
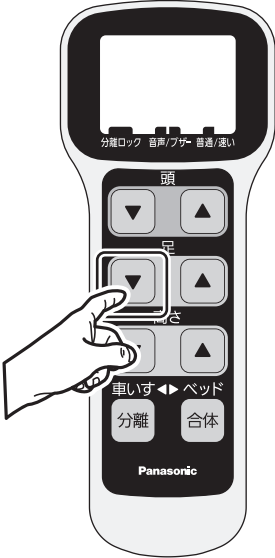
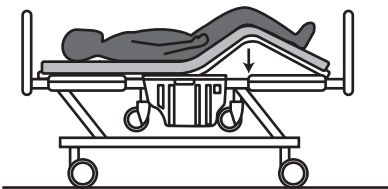
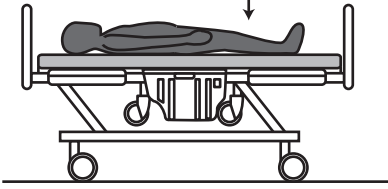
4. 使用方法

ベッドとして使う（手元スイッチ操作）

■足を上げる／下げる

足上げ／足下げボタンを押している間、ひざボトムが上下動作します（ひざボトム角度：0°～約28°）。

- ・足上げボタンを押している間は、足上げ動作を続け、ひざボトム角度が約28°になると、動作が停止します。
- ・足下げボタンを押している間は、足下げ動作を続け、ひざボトム角度が0°になると、動作が停止します。

操作ボタン	ベッド動作	液晶表示パネル
足上げボタンを押してください 調整したい位置までボタンを押 し続けてください。 	・ボタンを押している間、 ひざボトムが上がります。 ・約28°になると、停止します。 上がり始める  約28°で停止 	高さは1cmごとに表示されます。 頭 高さ 足 0度 45cm 0度  頭 高さ 足 0度 45cm 28度 
足下げボタンを押してください 調整したい位置までボタンを押 し続けてください。 	・ボタンを押している間、 ひざボトムが下がります。 ・0°になると、停止します。 下がり始める  0°で停止 	高さは1cmごとに表示されます。 頭 高さ 足 0度 45cm 28度  頭 高さ 足 0度 45cm 0度 

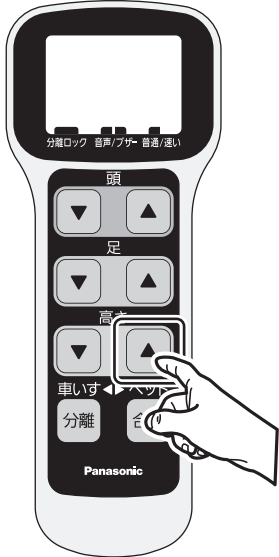
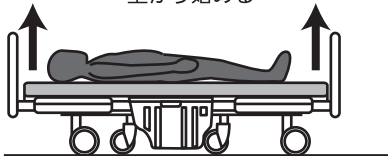
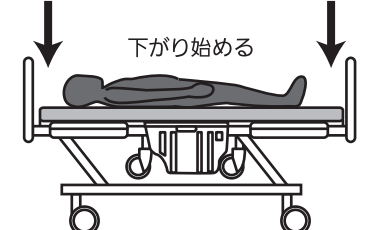
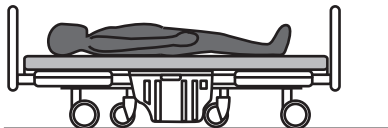
4. 使用方法

ベッドとして使う（手元スイッチ操作）

■高さを上げる／下げる

高さ上げ／高さ下げボタンを押している間、ベッドが上下動作します（ボトム高さ：約45cm～約73cm）。

- ・高さ上げボタンを押している間は、上昇動作を続け、ボトム高さが約73cmになると、動作が停止します。
- ・高さ下げボタンを押している間は、下降動作を続け、ボトム高さが約45cmになると、動作が停止します。

操作ボタン	ベッド動作	液晶表示パネル
高さ上げボタンを押してください。 調整したい位置までボタンを押し続けてください。 	・ボタンを押している間、背ボトムが上がります。 ・約73cmになると、停止します。 上がり始める  約73cmで停止 	高さは1cmごとに表示されます。 頭 高さ 足 0度 45cm 0度  頭 高さ 足 0度 73cm 0度 
高さ下げボタンを押してください。 調整したい位置までボタンを押し続けてください。 	・ボタンを押している間、背ボトムが下がります。 ・約45cmになると、停止します。 下がり始める  約45cmで停止 	高さは1cmごとに表示されます。 頭 高さ 足 0度 73cm 0度  頭 高さ 足 0度 45cm 0度 

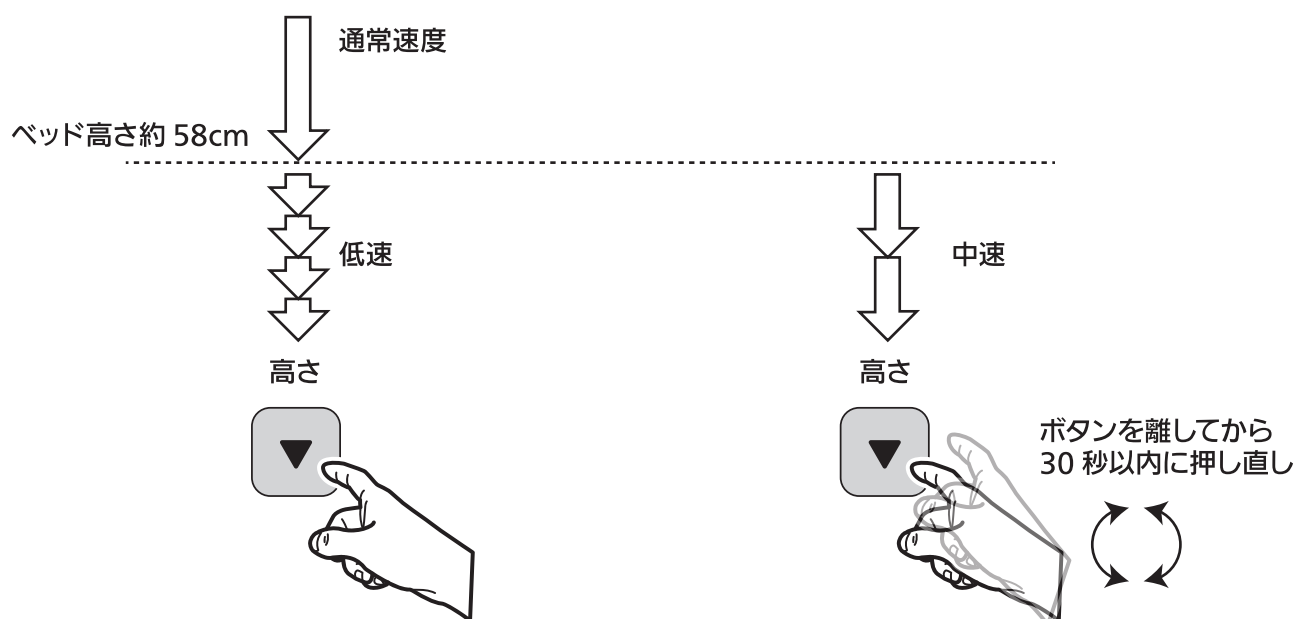
4. 使用方法

ベッドとして使う（手元スイッチ操作）

■高さ下げの下降速度について

高さ下げボタン（あるいは分離ボタン）で下降中は、ベッド高さ約58cmまでは通常速度で下降しますが、これより低い位置では、低速（通常速度の約25%）に切り替えます。
液晶表示パネルに「はさみ込み注意」が表示され、操作音設定に関係なく、注意音（ビープ音）が鳴ります。
車いすのキャスター、アームレスト、転倒防止バーと床面とのすきまが小さくなりますので、はさみ込みに注意してください。

ただし、低速で下降中に一度高さ下げボタン（あるいは分離ボタン）を離し、30秒以内に再度高さ下げボタン（あるいは分離ボタン）を押すと、中速（通常速度の約70%）で下降させることができます。



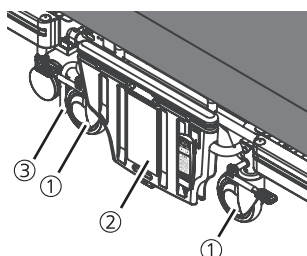
※上記では、高さ下げボタンでの下降動作を中心について説明しておりますが、分離ボタンでの下降動作でも同様になります。（→69 ページ参照）

警告



必ず守る

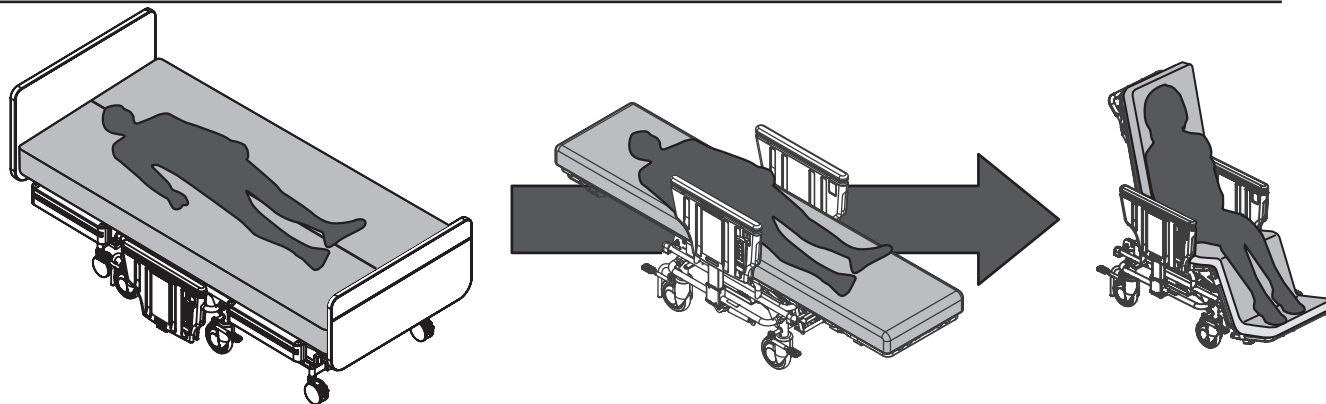
■マットレス下面より下に、要介護者・介護者・周囲の人の体（手・足・指・頭 など）や物がないことを確認してから手元スイッチの操作を行う
ベッド高さ約58cmより低い位置では、液晶表示画面には「はさみ込み注意」が表示されます。特に、車いすのキャスター①、アームレスト②、転倒防止バー③と床面とのすきまが小さくなりますのではさみ込みに注意してください。
動作部による、挟み込み・圧迫・巻き込みなどや、物に当たって異常な動き・破損などが発生するおそれがあります。



4. 使用方法

車いすに変形する（分離操作）

ベッドから車いすを分離する方法を、右側分離タイプを例に解説します。

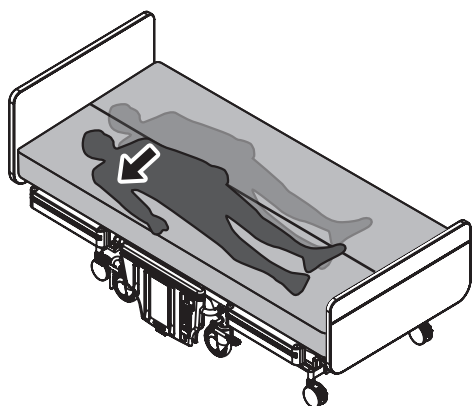


必ず守る

■ 安全上のご注意（4ページ～33ページ）をよくお読みの上、正しくお使いください。
ここで説明する項目に特に関連する安全上のご注意は下記に掲載しております。
車いすに変形する（分離動作） → 29、30ページ

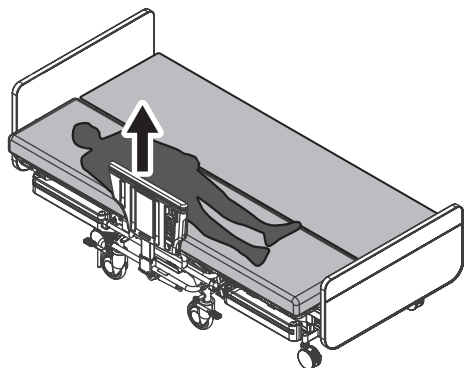
①要介護者を車いす側に移します。

ベッド上で要介護者をスライド移動する際は、
スライディングシート（要介護者をベッド上でスライド移動させるための補助具）等をご活用ください。



②車いすの（手前側）アームレストを上げます。

サイドレール（オプション）を装着している場合は、外してからアームレストを上げてください。
アームレストの使い方 → 46、47ページ



4. 使用方法

車いすに変形する（分離操作）

③車いす分離可能位置（ベッド最下端）まで、ベッドを下げます。

A.ベッド用手元スイッチの **分離** ボタンを押し続けます。

ボタンを押すと、操作音設定に応じて、下記の音が発生し、手元スイッチの液晶パネルに「分離動作中」が表示されます。

「音声/ブザー」 …… 「分離します。」（音声）

「ブザー」 …… 「ピッ」（ピープ音）

「切」 …… 音なし

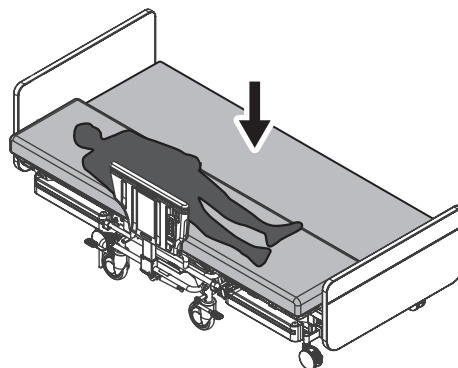
分離ボタンを押している間、下記の動作が行われます。

- ・背ボトム角度とひざボトム角度が0度でない場合は、背下げ／足下げ動作します。
- ・背ボトム角度と足ボトム角度が0度になったら、ベッドが下降動作します。

ベッド高さ約58cmまでは通常速度で下降しますが、これより低い位置では低速（通常速度の約25％）に切り替わり、液晶表示パネルに「はさみ込み注意」が表示され、操作音設定に関係なく、注意音（ピープ音）が鳴ります。車いすのキャスター、アームレスト、転倒防止バーと床面とのすきまが小さくなりますので、はさみ込みに注意してください。



分離動作中
車いす ◀◀◀ ベッド
はさみ込み注意



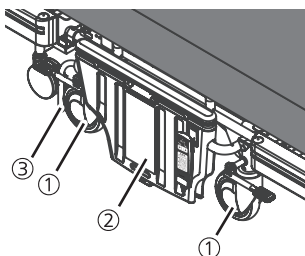
低速で下降中に分離ボタンを離し、30秒以内に再度分離ボタンを押すと、中速（通常速度の約70％）で下降させることができます。（→69ページ参照）

警告



必ず守る

■マットレス下面より下に、要介護者・介護者・周囲の人の体（手・足・指・頭 など）や物がないことを確認してから手元スイッチの操作を行う
ベッド高さ約58cmより低い位置では、液晶表示画面には「はさみ込み注意」が表示されます。特に、車いすのキャスター①、アームレスト②、転倒防止バー③と床面とのすきまが小さくなりますのではさみ込みに注意してください。
動作部による、挟み込み・圧迫・巻き込みなどや、物に当たって異常な動き・破損などが発生するおそれがあります。



4. 使用方法

車いすに変形する（分離操作）

B.車いす分離可能位置（ベッド最下端）まで、ベッドを下げると、注意音（ビープ音）と下降動作が停止します。このとき、「分離、完了しました。車いすにできます。」と音声流れ、液晶表示パネルに「分離動作完了」が表示されます。（操作音設定が「切」の場合は、音声は流れません。）

下降完了の表示

分離動作完了

車いす ◀◀◀ ベッド

車いすに変形できます

分離

ボタンを離してください。

液晶表示パネルに「分離しました」が表示されます。
ベッド用手元スイッチはヘッドボードに掛けてください。

分離しました

車イスに変形できます

4. 使用方法

車いすに変形する（分離操作）

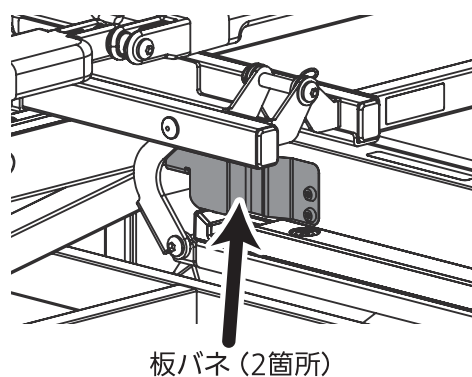
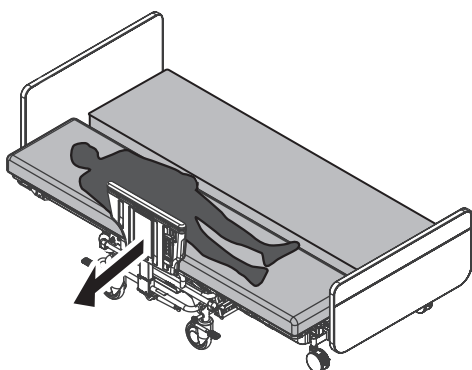
④車いすを引き出します。

A. 車いすを、マットレスの隙間が5cmぐらいまで引き出します。

転落防止のために、車いすの左側（奥側）アームレストを持ち上げないと、車いすを完全に引き出すことができないようになっています。

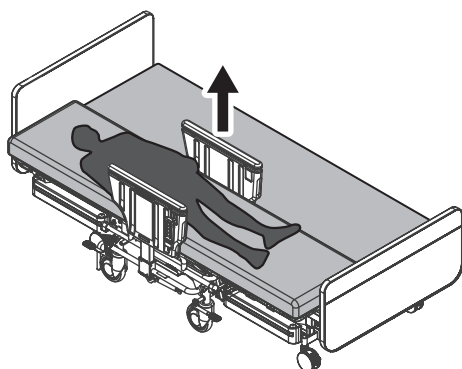
また、車いすのガイドローラーがベッドの板バネを乗り越えるために少し抵抗があります。

要介護者に衝撃を与えないように、ゆっくりと引き出してください。



B. 車いすの左側（奥側）アームレストを上げます。

アームレストの使い方 → 46、47ページ



警告



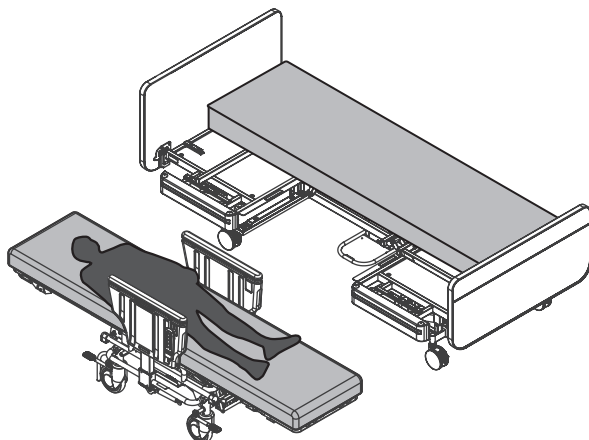
必ず守る

- 車いすがベッド内にあるときは、車いす用手元スイッチを操作しない
車いすがベッドと干渉し、破損・変形するおそれがあります。
また、破損・変形したまま使用すると、正しく車いすがベッドに合体できず、
事故や怪我の原因になります。

4. 使用方法

車いすに変形する（分離操作）

C. 車いすを完全に引き出します。



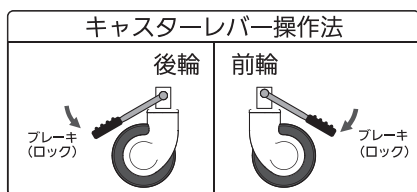
このとき、液晶表示パネルに
「車いすとして使えます」が表示されます。

車いすとして
使えます

⑤ 車いすの姿勢を変更します。

車いすとしての使い方 → 44～52ページ

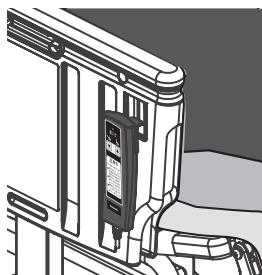
A. 前後のキャスターをロックします。



B. 車いす用手元スイッチで傾きを調整します。



C. 調整後は車いす用手元スイッチを右側アームレストカバーに掛けます。



警告



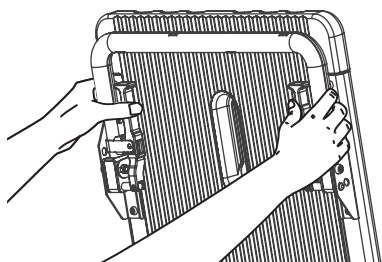
必ず守る

■ 停止時は、キャスターが前後方向に向いていることを確認してロックする
車いすが転倒してケガをするおそれがあります。

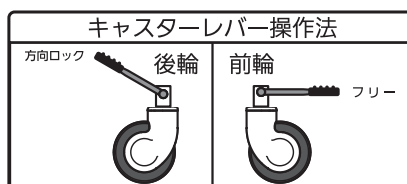
⑥ 車いすの機能を有効にします。

車いすとしての使い方 → 44～52ページ

A. 手押しハンドルを展開します。



B. キャスターレバーを前輪「フリー」、後輪「方向ロック」に切り替えます。



以上で車いすとして押して走行できるようになります。

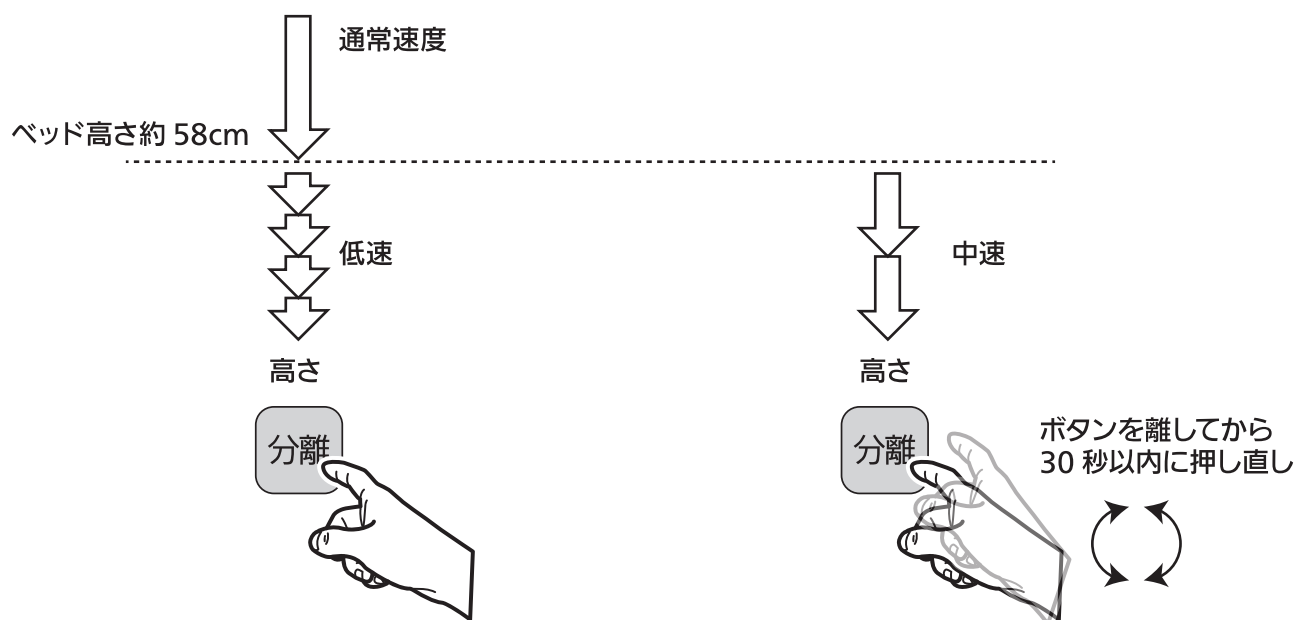
4. 使用方法

車いすに変形する（分離操作）

■分離動作の下降速度について

分離ボタン（あるいは高さ下げボタン）で下降中は、ベッド高さ約58cmまでは通常速度で下降しますが、これより低い位置では、低速（通常速度の約25%）に切り替えます。液晶表示パネルに「はさみ込み注意」が表示され、操作音設定に関係なく、注意音（ビープ音）が鳴ります。車いすのキャスター、アームレスト、転倒防止バーと床面とのすきまが小さくなりますので、はさみ込みに注意してください。

ただし、低速で下降中に一度分離ボタン（あるいは高さ下げボタン）を離し、30秒以内に再度分離ボタン（あるいは高さ下げボタン）を押すと、中速（通常速度の約70%）で下降させることができます。



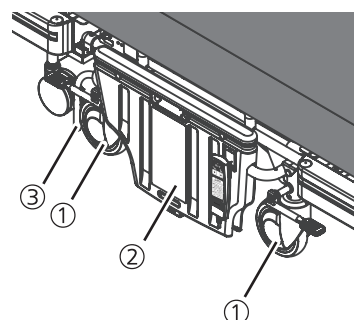
※上記では、分離ボタンでの下降動作を中心について説明しておりますが、下降ボタンでの下降動作でも同様になります。（→63 ページ参照）

警告



必ず守る

■マットレス下面より下に、要介護者・介護者・周囲の人の体（手・足・指・頭 など）や物がないことを確認してから手元スイッチの操作を行う
ベッド高さ約58cmより低い位置では、液晶表示画面には「はさみ込み注意」が表示されます。特に、車いすのキャスター①、アームレスト②、転倒防止バー③と床面とのすきまが小さくなりますのではさみ込みに注意してください。動作部による、挟み込み・圧迫・巻き込みなどや、物に当たって異常な動き・破損などが発生するおそれがあります。



4. 使用方法

バッテリーを充電する

車いすのバッテリー充電方法を、右側分離タイプ・車いす状態を例に解説します。

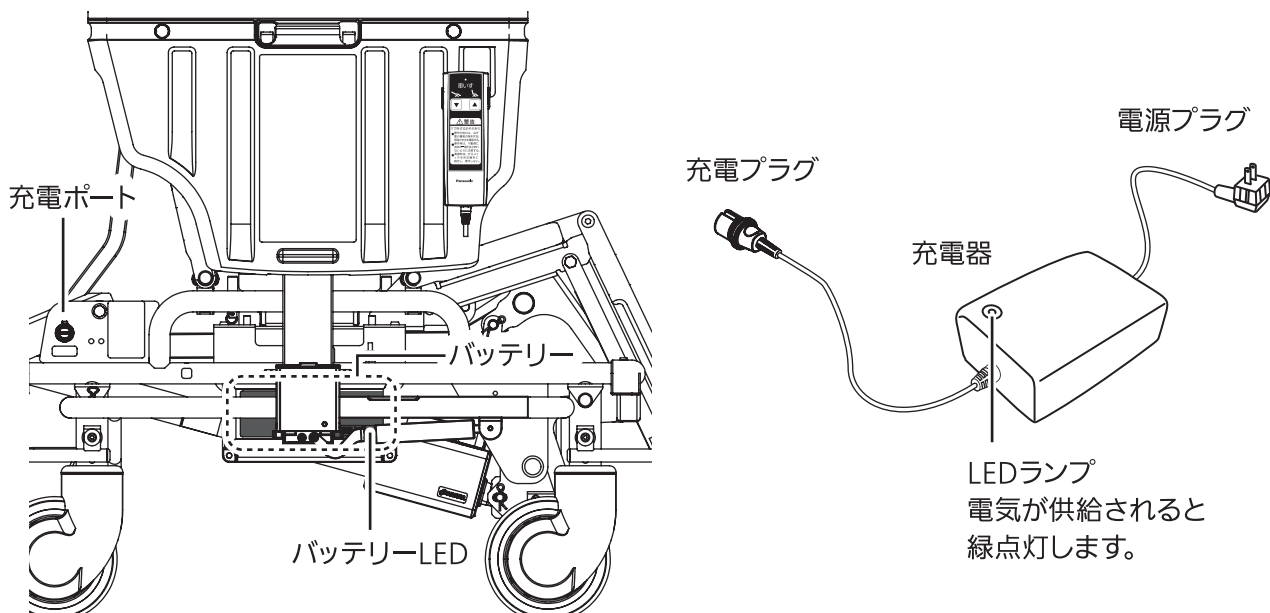


必ず守る

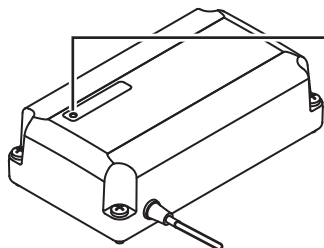
■ 安全上のご注意 (4ページ～33ページ) をよくお読みの上、正しくお使いください。
ここで説明する項目に特に関連する安全上のご注意は下記に掲載しております。
バッテリーを充電する・交換する → 31～32ページ

■ バッテリーについて

- バッテリー LED が **橙色** に点滅したら **必ず充電** を行ってください。
 - ・ この状態で放置すると、バッテリーの性能が低下 します。
 - ・ **毎日充電** することをお勧めいたします。
(鉛バッテリーですので、バッテリーを満充電状態に保った方が長持ちいたします。)
 - ・ 充電は専用の充電器で行ってください。(合体しても自動で充電はされません。充電時間は約 8 時間です。)
- 長期間使用されない時は、ベッドに合体した状態で保管頂き、6 ヶ月に 1 回を目安に充電ください。
(この場合の充電時間は 24 時間となります。)
※ ベッドに合体させることにより、保管時のバッテリー消費が抑えられます。



バッテリー



LEDランプ
色や点灯・点滅で以下の状態を示しています。

- 充電中
緑点灯: 充電完了 (80～100%)
橙点灯: 充電中 (80%未満)
- 使用時
緑点滅: 使用可能 (25%～100%未満)
橙点滅: 要充電 (25%未満)
消灯: バッテリー切れ

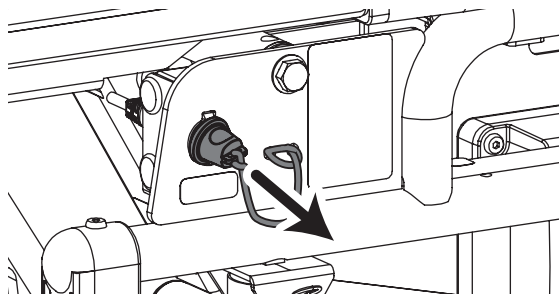
※ バッテリーLEDはアームレストを上げて確認してください。
(アームレストを上げないと見えません。)

4. 使用方法

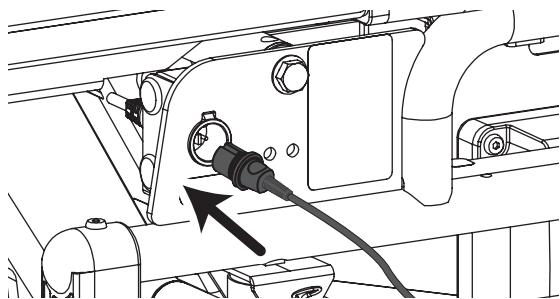
バッテリーを充電する

■バッテリー充電のしかた（ベッド状態の場合）

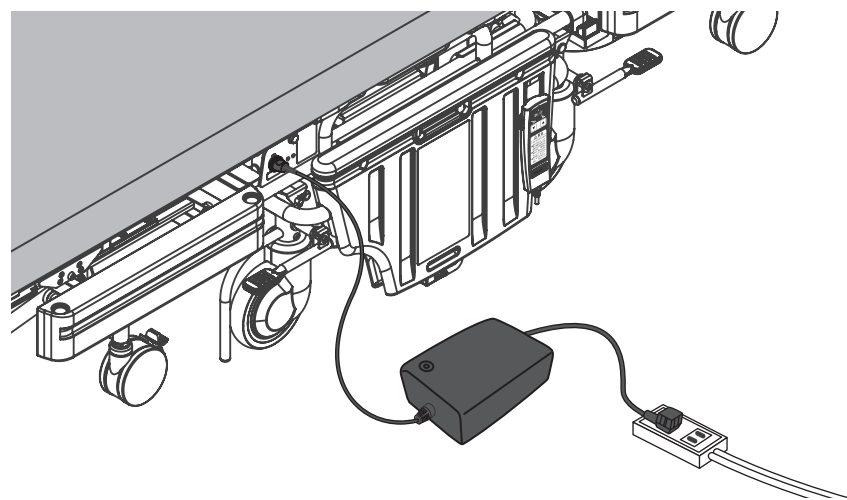
①車いす充電ポートの充電キャップを外します。



②充電器の充電プラグを、車いす充電ポートに差し込みます。



③充電器の電源プラグをコンセントに差し込み、充電を開始します。



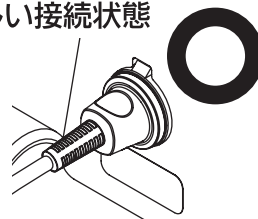
④バッテリーのLEDランプが緑点灯し充電が完了したら、充電器の電源プラグをコンセントから抜きます。充電器は安全な場所に保管してください。バッテリーのLEDランプはアームレストを上げると見えます。バッテリーLEDランプの状態に関わらず必ず8時間以上充電してください。

⑤充電器の充電プラグを、車いす充電ポートから抜きます。

⑥車いす充電ポートに充電キャップを取付けます。

●充電の際は下記3点を必ずご確認ください。
・充電プラグが奥まで挿し込まれていること。

正しい接続状態



半挿入状態



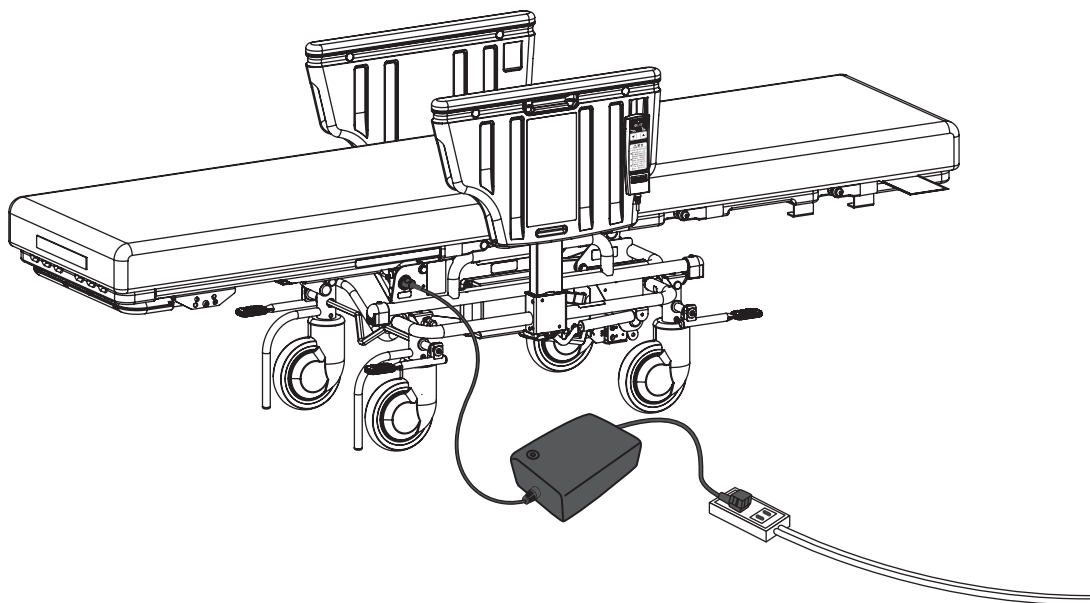
・充電プラグを差し込んだ際に
バッテリー LED が橙色に点灯していること。
・8 時間以上の充電後、充電プラグを抜く時に、
バッテリー LED が緑色に点灯していること。

4. 使用方法

バッテリーを充電する

■ バッテリー充電のしかた（車いす状態の場合）

ベッド状態の場合と同様に、車いす状態でも、充電ポートに充電器を接続して充電することができます。



⚠ 警告



禁止

■ 車いすバッテリー充電中はベッド・車いす操作（手元スイッチ操作、移動など）を行わない
充電器のケーブルが引っ張られ、感電・火災のおそれがあります。



禁止

■ 充電中は清掃を行わない
充電器のケーブルが引っ張られ、感電・火災のおそれがあります。

4. 使用方法

バッテリーを交換する

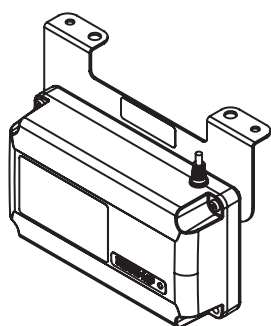
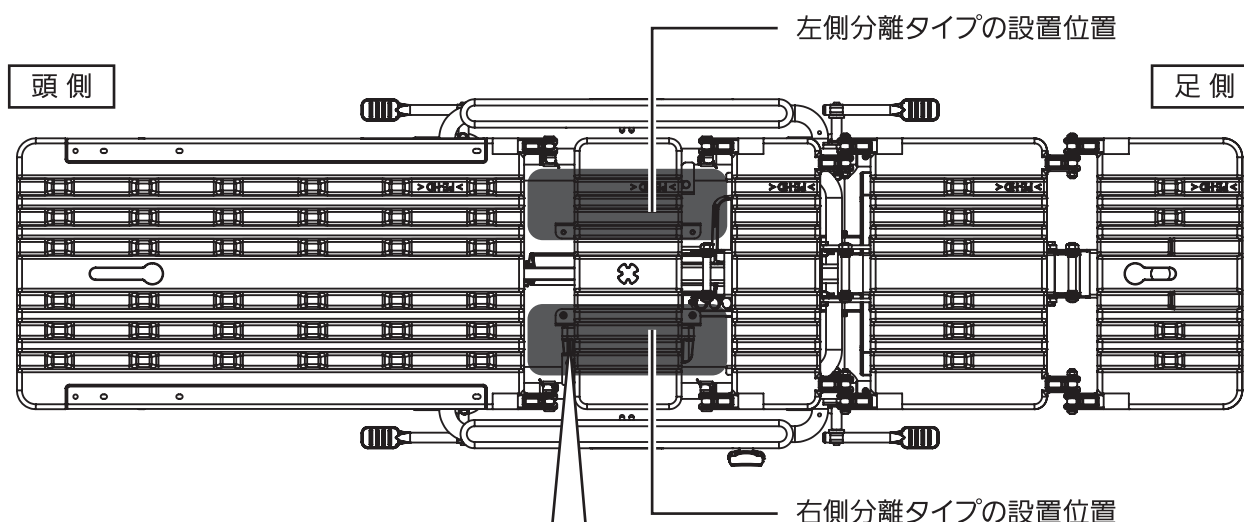
車いすのバッテリー交換方法を、右側分離タイプ・車いす状態を例に解説します。



必ず守る

■ 安全上のご注意（4ページ～33ページ）をよくお読みの上、正しくお使いください。
ここで説明する項目に特に関連する安全上のご注意は下記に掲載しております。
バッテリーを充電する・交換する → 31、32ページ

バッテリーは、腰ボトムの下に設置されております。
右側分離タイプと左側分離タイプで異なる位置に設置されていますので、
交換する場合は、間違わないように取付けしてください。



車いす用バッテリー（ブラケット付き）



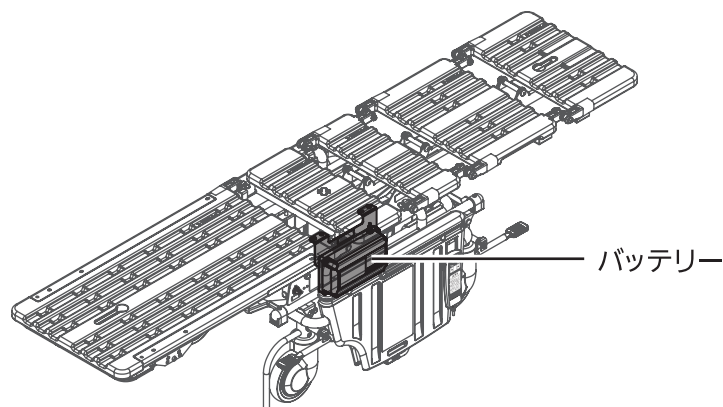
本製品に使用されているバッテリーは
鉛蓄電池です。
再利用しますので、廃棄せず、
販売店までご相談ください。

4. 使用方法

バッテリーを交換する

■バッテリーを取外す

フル充電してから2日以内にオレンジ点滅するようになりましたら、バッテリーの交換時期です。
これは1日4回の分離・合体を行なった場合の目安です。
バッテリーはお買い求めの販売店にご用命ください。



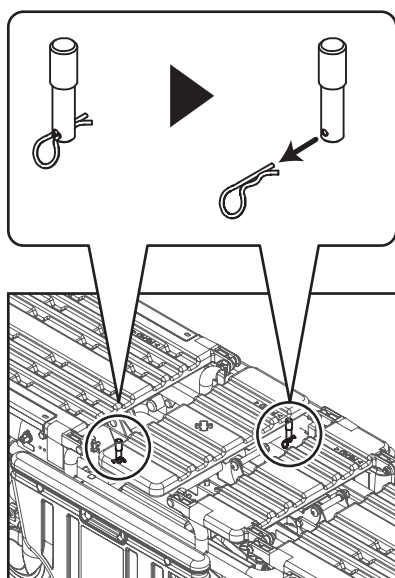
●準備

車いすを次の状態にしておきます。

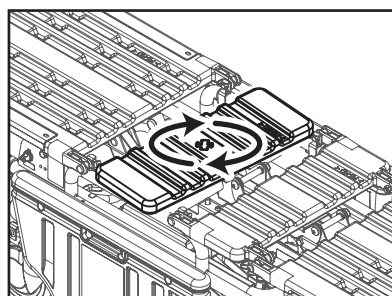
- ・車いすをベッドから分離する
- ・車いすのマットレスを取外す
- ・車いすのキャスターをロックしておく
- ・車いすの充電器は外しておく（充電中に行わない）
- ・車いすのアームレストを下げる

●古いバッテリーを取外す

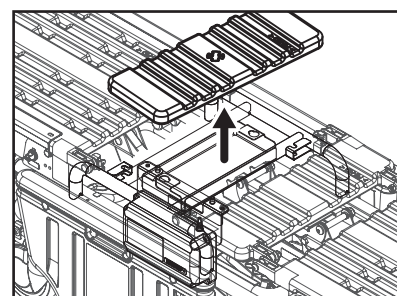
①ピン（2箇所）を外し、腰ボトムを時計回りに回転させ、取外します。



ピン（2箇所）を取り外す
割りピンを抜き、ピンを引き上げる



腰ボトムを時計方向に回転する
※指を挟まないよう注意する



腰ボトム裏の突起が外れたら
持ち上げる

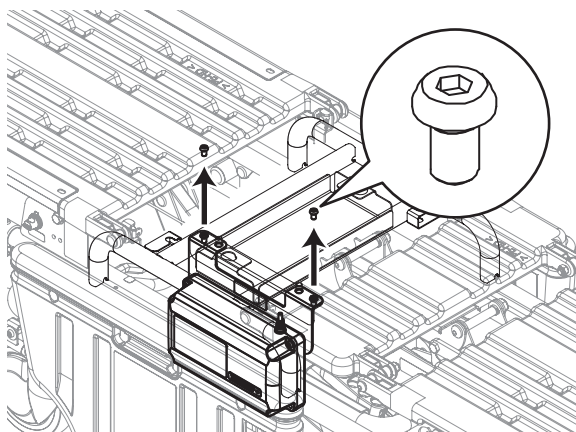
4. 使用方法

バッテリーを交換する

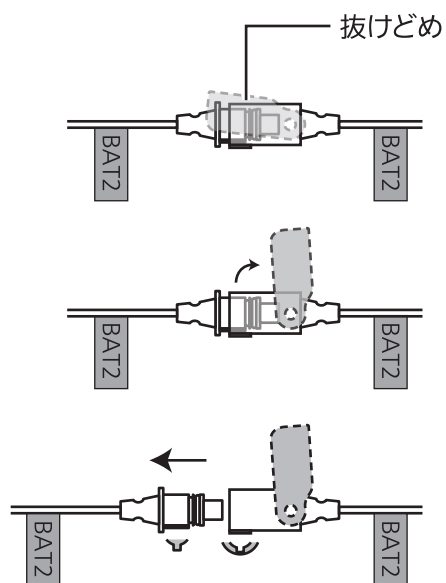
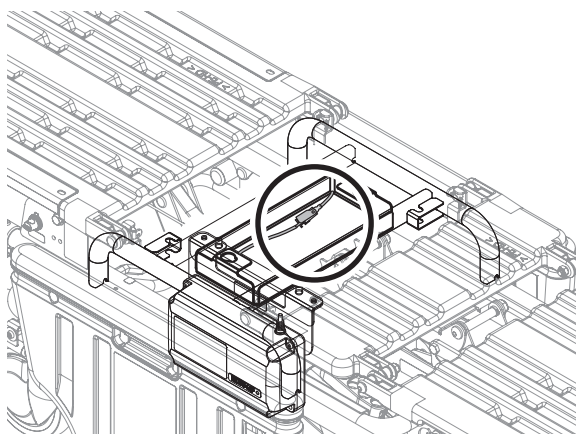
4

使用方法

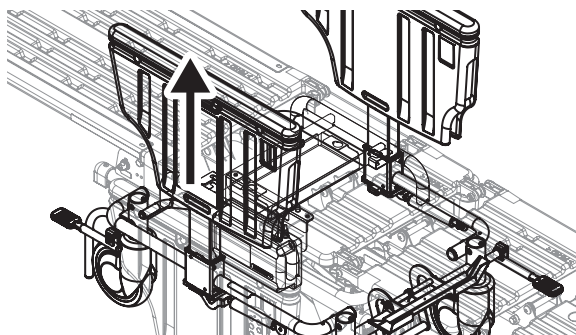
- ②バッテリーブラケットを固定しているネジ（2本）を外します。
六角レンチ（サイズ：二面幅4）で緩めて外します。



- ③腰ボトムにあるバッテリープラグ（灰色）を外します。
A プラグの抜けどめを開きます。
B バッテリープラグを抜きます。



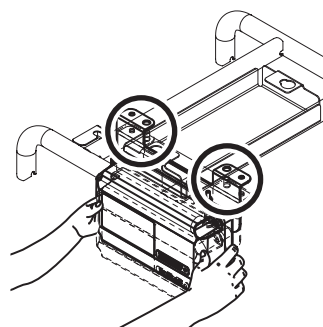
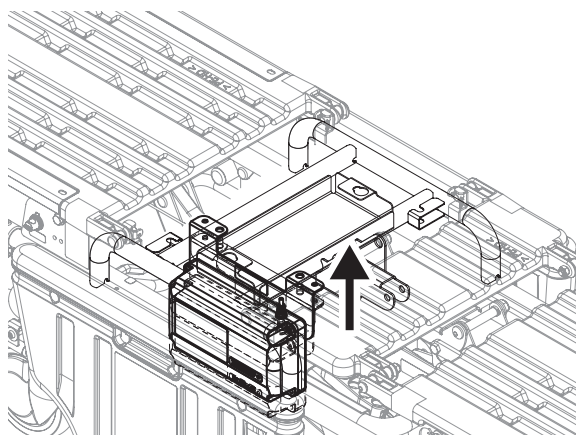
- ④アームレストを上に出します。



4. 使用方法

バッテリーを交換する

⑤側面から両手でバッテリーを持上げ、バッテリーを取外します。



アームレストの下から両手を添えて
脱落防止の突起（2箇所）を外すよう
持ち上げながら取外してください。

⚠ 危険



禁止

■ バッテリープラグや充電ポートに金属物を入れない
端子間がショートし、感電・発火・やけどのおそれがあります。



禁止

■ バッテリーを密閉空間や火気の近くには置かない
発熱・発火・破裂・破損の原因となります。



禁止

■ バッテリーを水中・火中へ投入しない
発熱・発火・破裂・破損の原因となります。



禁止

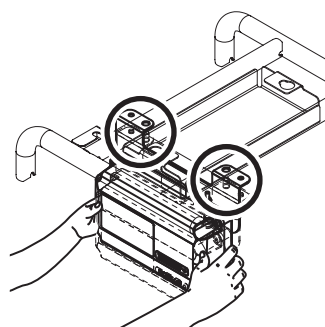
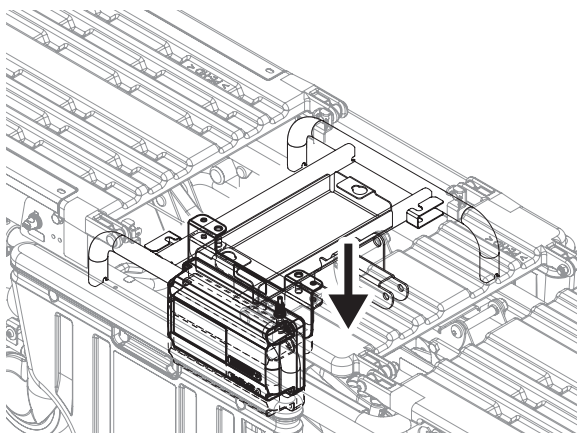
■ バッテリーを鋭利な物で刺したり、衝撃を与えたり、分解・改造をしない
破裂・破損の原因となります。

4. 使用方法

バッテリーを交換する

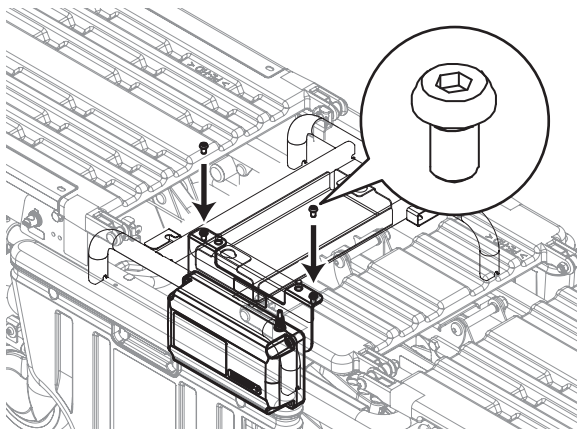
■バッテリーを取付ける

①バッテリーブラケットにバッテリーを引っ掛けます。

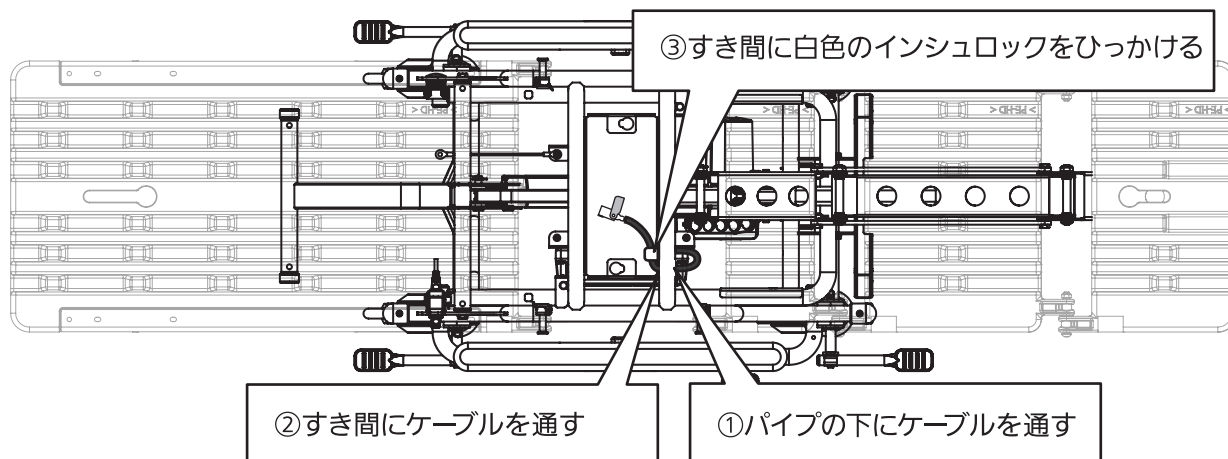


アームレストの下から両手を添えて
脱落防止の突起（2箇所）に
持ち上げながら引っ掛けてください。

②バッテリーブラケットを固定しているネジ（2本）を取付けます。
六角レンチ（サイズ：二面幅4）で締めて取付けます。



③バッテリーのケーブルを配線する。

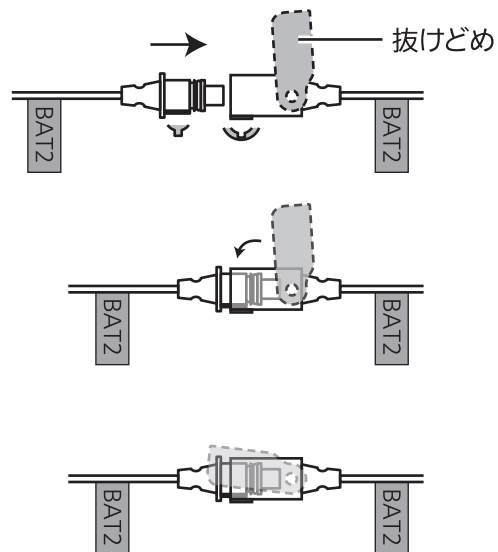
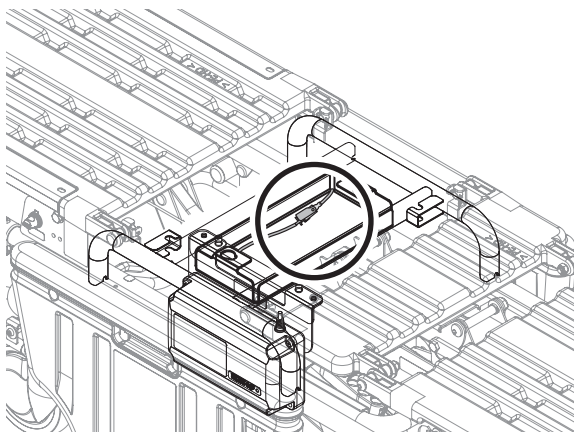


4. 使用方法

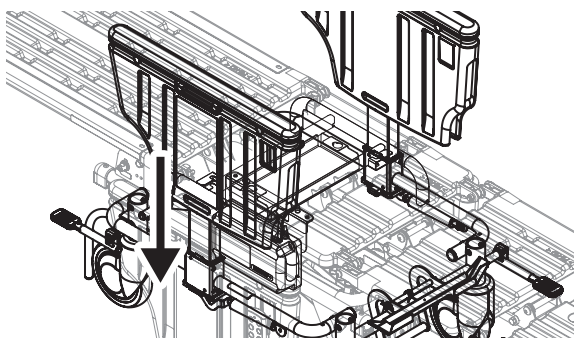
バッテリーを交換する

④バッテリープラグ（灰色）を車いすプラグ（黒）とつなぎます。

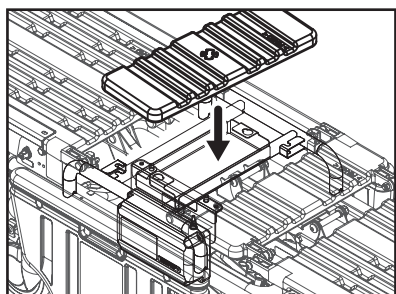
- A バッテリープラグを差し込みます。
- B プラグの抜けどめを閉じます。



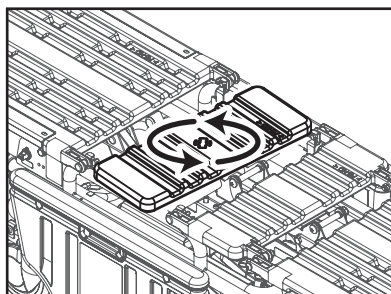
⑤アームレストを下げます。



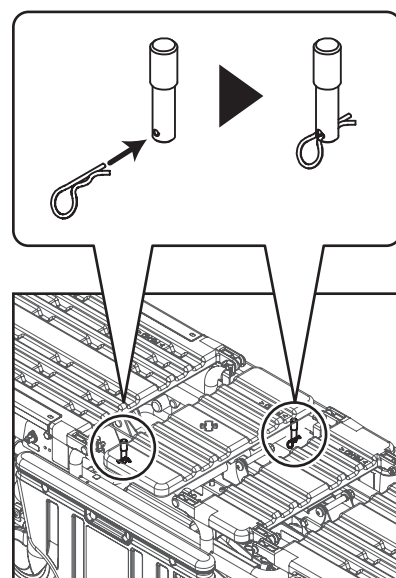
⑥腰ボトムを取り付け、ピン（2箇所）を取付けます。



腰ボトム裏の突起を
穴に合わせてはめ込む



腰ボトムを反時計方向に回転する
※指を挟まないよう注意する



ピン（2箇所）を取りつける
ピンを差し込み、割りピンで止める

4. 使用方法

マットレス・シーツの取扱い



必ず守る

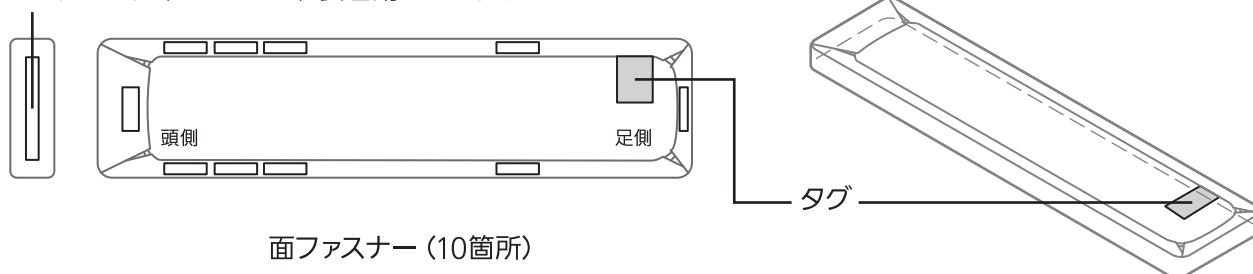
■ 安全上のご注意 (4～33ページ) をよくお読みの上、正しくお使いください。
ここで説明する項目に特に関連する安全上のご注意は下記に掲載しております。
マットレスの取扱い → 33ページ

■ 構造

● マットレス

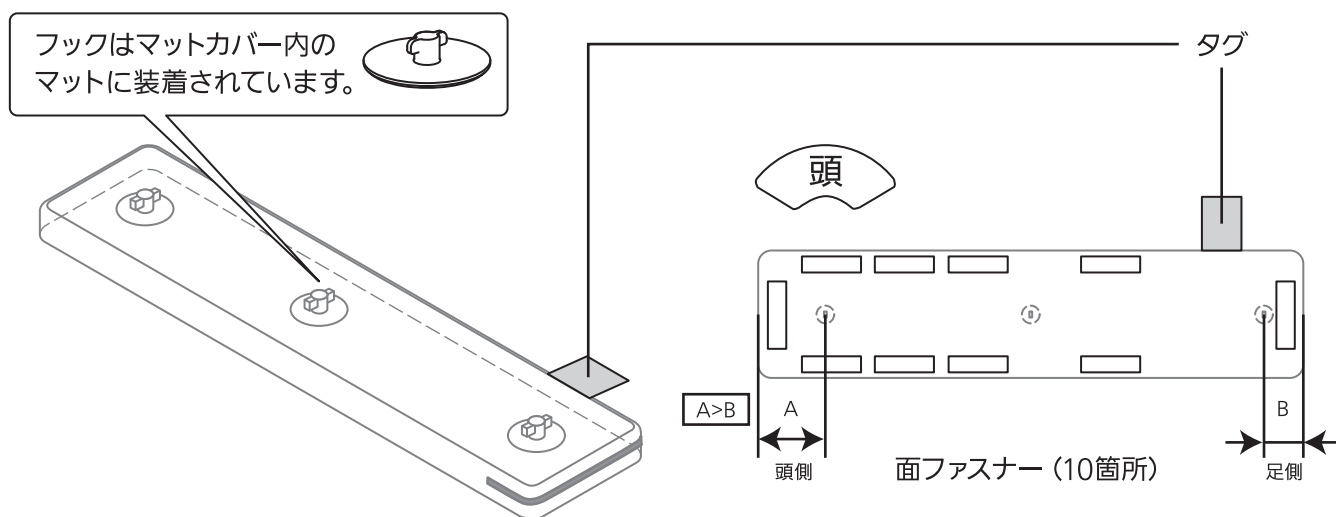
マットを防水カバーで覆い、表面にはボトムへの取り付け用フックとシーツ取り付け用のマジックテープがあります。頭側のフックには「頭」と記載されたシールが貼ってあります。足側にはタグ及びチャックがあります。防水カバーは外せません。

ヘッドレスト (オプション) 装着用マジックテープ



● シーツ (シーツ交換は、車いすにマットレスを装着したままの状態で行います。)

頭側の側面にはヘッドレスト (オプション) 取り付け用のマジックテープがあり、足側にはタグがあります。裏面内側にはマットレスの取り付け用のマジックテープがあります。



マットレスのお手入れ → 93ページ参照

4. 使用方法

マットレス・シーツの取扱い

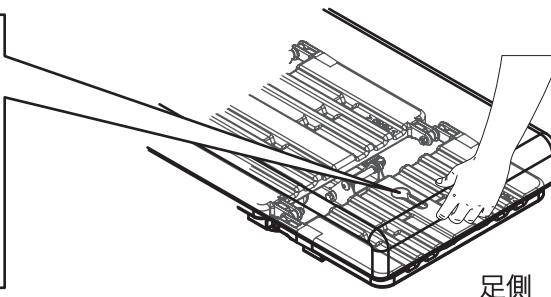
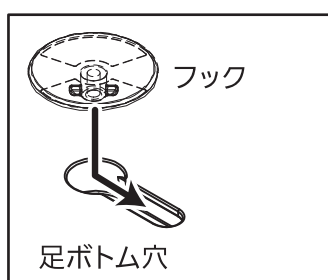
■マットレスの取外し方法

ベッド・車いすともに取り付け/取り外し作業は同様です。

次の状態にしてから作業を行なってください。

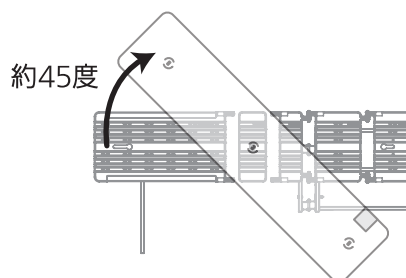
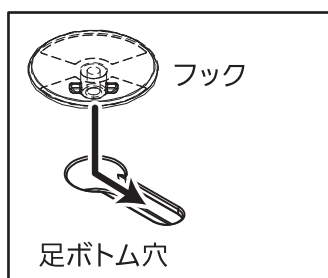
- ・車いすをベッドから分離する
- ・ベッド・車いすとも、キャスターをロックする
- ・ベッド・車いすとも、ボトムを平らにする
- ・ベッドはサイドレールを外しておく
- ・車いすでは左右のアームレストを最下降位置におろしておく

①マットレス足側を頭側にずらし、足側フックを足ボトム穴から外します



足側フックを足ボトムの穴から外します。

②背ボトムの穴から頭側フックを外し、マットレスをボトムに対して約45度傾けます

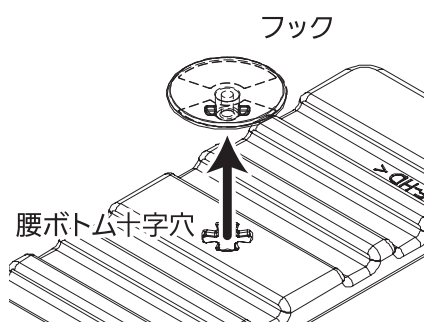


マットレス両端を
持ち上げます。



マットレスを
約45度傾けます。

③中央のフックを腰ボトムの十字穴から外し、マットレスを取り外します



マットレスを持ち上げて、
マットレスを取外します。
(取り外し完了)

4. 使用方法

マットレス・シーツの取扱い

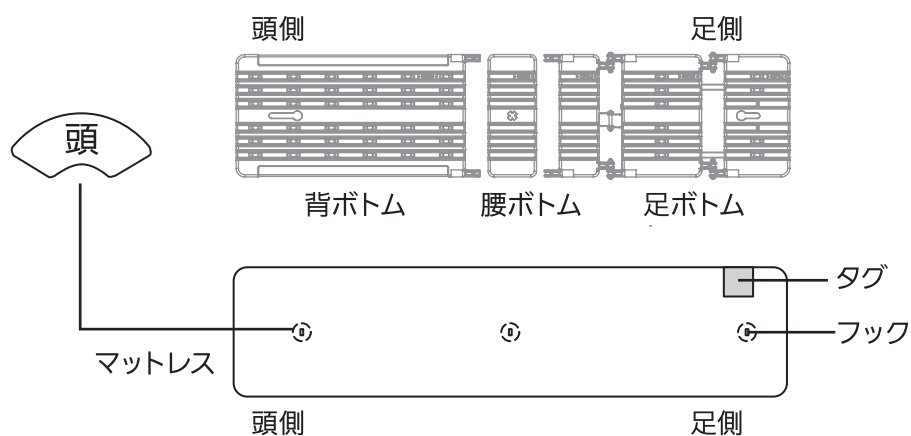
■マットレスの取付け方法

ベッド・車いすともに取付け/取外し作業は同様です。

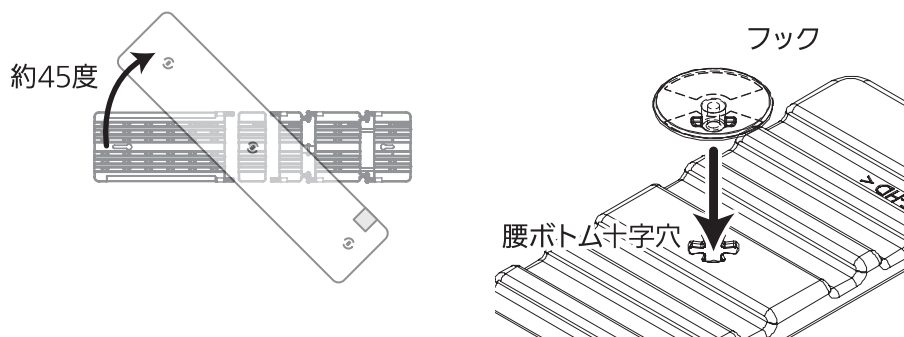
次の状態にしてから作業を行なってください。

- 車いすをベッドから分離する
- ベッド・車いすとも、キャスターをロックする
- ベッド・車いすとも、ボトムを平らにする
- ベッドはサイドレールを外しておく
- 車いすでは左右のアームレストを最下降位置におろしておく

① マットレスの方向（頭側/足側）をベッド（車いす）の方向に合わせます。



② マットレスをボトムに対して約45度に傾けて、中央のフックを腰ボトムの十字穴に通します。



マットレスをボトムに対して約45度に傾けます。



中央のフックを腰ボトムの十字穴に通します。

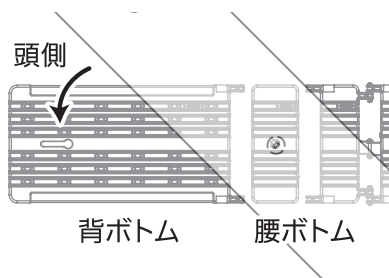


4. 使用方法

マットレス・シーツの取扱い

■ マットレスの取付け方法

③ マットレスをボトムに平行に戻し、背ボトムの穴に頭側フックを通します。

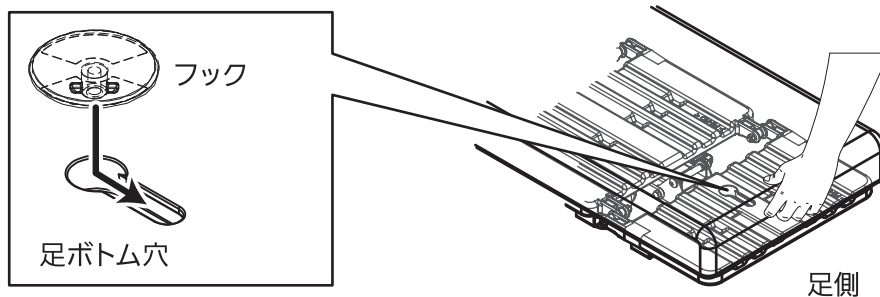


頭側フックの位置は、背ボトムの穴位置と一致しています。



腰ボトムの十字穴に挿入したフックが外れないように押さえながら、マットレスを回転させます。

④ マットレス足側を頭側にずらし、足側フックを足ボトムの穴に通します。



足側フックの位置は、足ボトムの穴位置からずれていますので、マットレスを変形させて通します。



足側フックを足ボトムの穴に通します。



取付け完了

4. 使用方法

マットレス・シーツの取扱い

■シーツの取外し方法

ベッド・車いすともに取付け/取外し作業は同様です。

次の状態にしてから作業を行なってください。

- ・車いすをベッドから分離する
- ・ベッド・車いすとも、キャスターをロックする
- ・ベッド・車いすとも、ボトムを平らにする
- ・ベッドはサイドレールを外しておく
- ・車いすでは左右のアームレストを最下降位置におろしておく

①足側の面ファスナーを外します。



②足側から頭側に向かって面ファスナーを外しながらシーツを外していきます。



③頭側のシーツを外します。



4. 使用方法

マットレス・シーツの取扱い

■シーツの取付け方法

ベッド・車いすともに取付け/取外し作業は同様です。

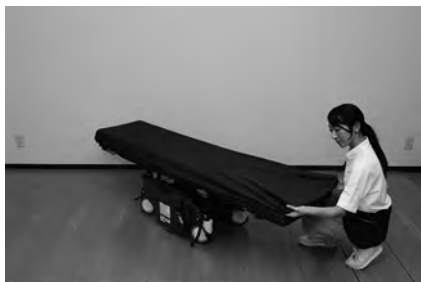
次の状態にしてから作業を行なってください。

- ・車いすをベッドから分離する
- ・ベッド・車いすとも、キャスターをロックする
- ・ベッド・車いすとも、ボトムを平らにする
- ・ベッドはサイドレールを外しておく
- ・車いすでは左右のアームレストを最下降位置におろしておく

①頭側からシーツを被せます。



②足側にシーツを伸ばし、足側にもシーツを被せます。



③面ファスナー（10箇所）を取付けます。



5. ベッド用手元スイッチの設定変更

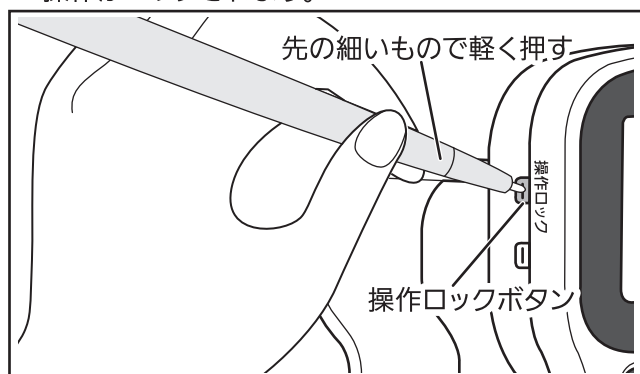
操作ロックの設定

手元スイッチの全ての動作を無効にできます。（初期設定は、全ての動作が可能になっています。）

設定のしかた

-操作ボタン-

1. [操作ロック] ボタンを約1秒長押ししてください。
操作がロックされます。



2. もう一度長押しすると、ロックが解除されます。

-液晶表示パネル-

操作ロック設定

解除 ▶ ロック

「解除」しました



操作ロック設定

解除 ◀ ロック

「ロック」しました

【設定後】

操作ロック時には、画面が消灯します。
操作ロック時に、操作ボタンを押すと、
下記のような画面が表示され、操作は無効になります。

操作ロックされています

側面ボタン長押しで
ロックを解除してください

5. ベッド用手元スイッチの設定変更

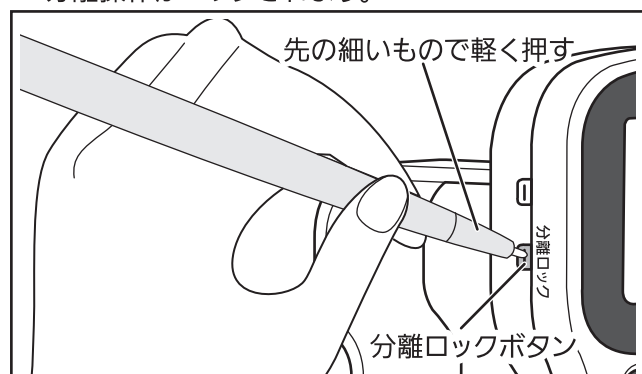
分離ロックの設定

手元スイッチの分離操作を無効にできます。（初期設定は、分離操作が可能になっています。）

設定のしかた

-操作ボタン-

1. [分離ロック] ボタンを約1秒長押ししてください。
分離操作がロックされます。



2. 短押しするたびに設定が「ロック」⇔「解除」に切り替わり、基本画面に戻ります。

【設定後】

分離ロック時には、分離ボタンを押すと、下記のような画面が表示され、分離操作は無効になります。

注意

分離ロックされています

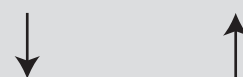
ロックを解除してから
操作してください

-液晶表示パネル-

分離ロック設定

解除 ▶ ロック

「解除」しました



分離ロック設定

解除 ◀ ロック

「ロック」しました

【設定後】

基本画面の画面下の「分離ロック」の上にある「■」で、現在の設定が確認できます。



分離ロック 音声/ブザー 普通/速い

「■」 分離ロック
「□」 分離ロック解除

5. ベッド用手元スイッチの設定変更

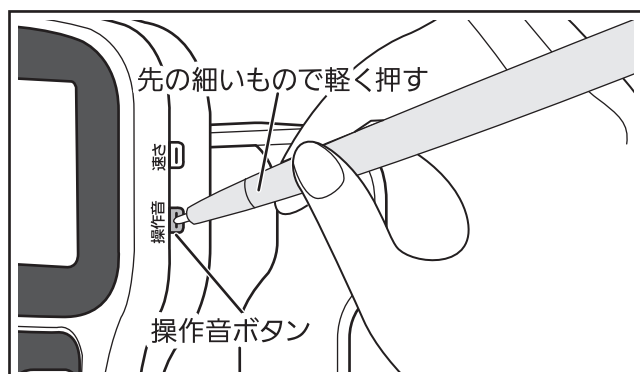
操作音の設定

ボタンを押したときの音を「音声/ブザー」⇄「ブザー」⇄「切」の三段階で切り替えます。
(初期設定は、「音声/ブザー」になっています。)

設定のしかた

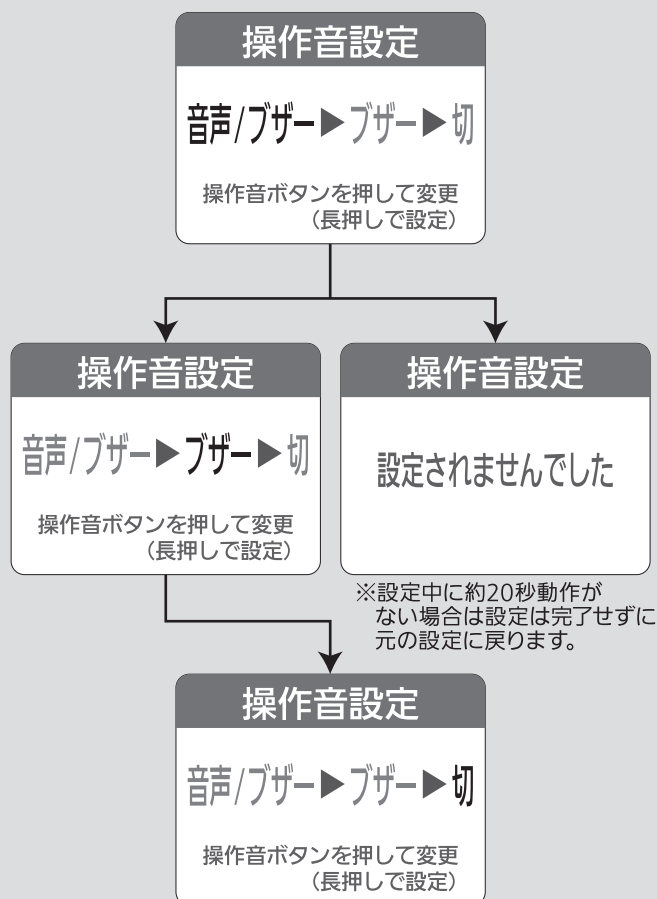
-操作ボタン-

1. 「操作音」ボタンを約1秒長押ししてください。
設定画面に移ります。



2. 短押しするたびに選択が「普通/ブザー」→「音声」→「切」(→「普通/ブザー」)に切り替わります。
3. 「操作音」ボタンを約1秒長押しして、
設定を登録してください。
「変更しました」が表示され、基本画面に戻ります。

-液晶表示パネル-



【設定後】

基本画面の画面下の「音声/ブザー」の上にある「■」で、現在の設定が確認できます。



分離ロック 音声/ブザー 普通/速い

「■ ■」: 音声/ブザー設定
「 ■ 」: ブザー設定
「 」: 切設定

5. ベッド用手元スイッチの設定変更

操作音の設定

「音声/ブザー」⇔「ブザー」⇔「切」に設定切り替え時の操作音は下記になります。

【音声/ブザーパターン】

操作	条件	操作音の設定		
		音声/ブザー	ブザー	切
“頭上げボタン” を押す	動作開始時	“頭が上がります”	ブザー音「ピッ」	無音
“頭下げボタン” を押す	動作開始時	“頭が下がります”	ブザー音「ピッ」	無音
“足上げボタン” を押す	動作開始時	“足が上がります”	ブザー音「ピッ」	無音
“足下げボタン” を押す	動作開始時	“足が下がります”	ブザー音「ピッ」	無音
“高さ上げボタン” を押す	動作開始時	“高さが上がります”	ブザー音「ピッ」	無音
“高さ下げボタン” を押す	動作開始時	“高さが下がります”	ブザー音「ピッ」	無音
“車いす” を “ベッド” に押し込む	押込完了時	“合体できます。 合体ボタンを押して下さい”	“合体できます。 合体ボタンを押して下さい”	無音
“合体ボタン” を押す	動作開始時	“合体します”	ブザー音「ピッ」	無音
	動作完了時	“合体、完了しました。 ベッドとして使えます”	“合体、完了しました。 ベッドとして使えます”	無音
“分離ボタン” を押す	動作開始時	“分離します”	ブザー音「ピッ」	無音
	分離完了時	“分離、完了しました。 車いすにできます”	“分離、完了しました。 車いすにできます”	無音

5. ベッド用手元スイッチの設定変更

速さの設定

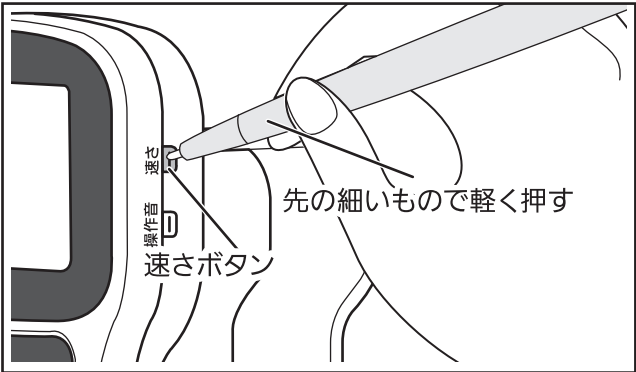
ボトムの動作速度を「普通（70%）」⇄「速い（100%）」に切り替えます。
（初期設定は、「速い」になっています。）

設定のしかた

-操作ボタン-

-液晶表示パネル-

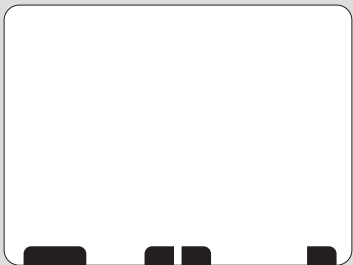
1. 「速さ」ボタンを約1秒長押ししてください。



2. 短押するたびに設定が「普通」⇄「速い」に切り替わり、基本画面に戻ります。



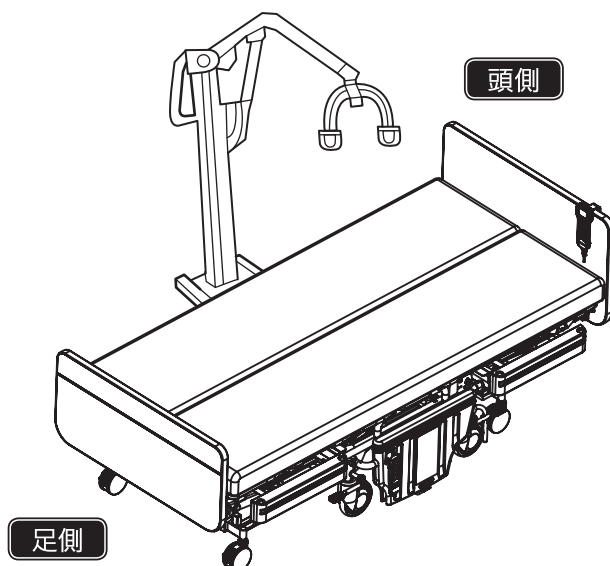
【設定後】
基本画面の画面下の「普通/速い」の上にある「■」で、現在の設定が確認できます。



分離ロック 音声/ブザー 普通/速い
「■」 普通
「■」 速い

6. 電動介護リフト（床走行式リフト）を使用するときのご注意

電動介護リフト（床走行式リフト）を使用するときは、安全上の注意事項を守ってご使用ください。



6

電動介護リフト（床走行式リフト）を使用するときのご注意

警告



必ず守る

■ 床走行式リフトを使用する場合は、リフトに添付されている取扱説明書を必ず読む
誤った使い方をすると、事故やけがをするおそれがあります。



必ず守る

■ 床走行式リフトを使用する場合は、脚先端の高さが70mm以下のリフトを使用する
リフトの脚が、車いすのキャスターや転倒防止バー、ベッドのインターロックと干渉し、
破損・変形するおそれがあります。



必ず守る

■ ベッド状態で、床走行式リフトを使用する場合は、ベッド高さを52cm以上にする
リフトの脚が、車いすのキャスターや転倒防止バー、ベッドのインターロックと干渉し、
破損・変形するおそれがあります。



必ず守る

■ 床走行式リフトを使用する場合は、ベッド及びリフト操作時に、周囲に注意する
ベッドとリフトの間にはさまれるおそれがあります。
リフトが人にあたってけがをしたり、ベッドや家具などに当たって破損するおそれがあります。
リフトがサイドレールなどに引っ掛かり、リフトやサイドレールなどが破損・変形するおそれがあります。
ベッドとリフトの脚部やモーター部などが当たり、破損・変形するおそれがあります。



禁止

■ リフトの脚をベッドの下に差し込んでいるときは、ベッド操作をしない
事故やけがの原因となります。



禁止

■ リフトの脚をベッドの下に差し込むときは、電源コードを踏んだり乗り越えたりしない
電源コードが破損して、感電・火災のおそれがあります。

7. 日常の点検とお手入れ

定期点検

定期的に以下の項目を点検・整備してください。
不具合に関しては、「故障かな?と思ったとき」(94～97ページ)を参照して対応いただき、
不具合が解消しない場合は、お早めに販売店または裏表紙のお客さま相談窓口にお問合せください。

部位	点検内容	処理
電源・充電器まわり	本体及び充電器の電源プラグにほこりがたまっていない	プラグを抜き、乾いた布でふいてください
	本体及び充電器の電源コード・プラグに傷・変形など異常がない	販売店にご連絡ください
	電源コードは本体フレームに挟み込まないように、床面上に這わせている	床面に這わせてください
車いす	キャスターの回転・旋回がスムーズに行える	販売店にご連絡ください
	キャスターのブレーキ・フリー・方向ロックが確実にできる	
	背上げ/背下げが正常に行える	
	アームレストの上下動作が正常に行える	
	手押しハンドルの収納・展開が正常に行える	
ベッド	背上げ/背下げ、足上げ/足下げ、高さ上げ/高さ下げが正常に行える	販売店にご連絡ください
	キャスターのフリー・ロックが確実にできる	
	ヘッドボード・フットボードのフックが確実に掛かっている	フックを掛けてください
合体・分離	車いすのベッドへの抜き差しが正常に行える	販売店にご連絡ください
	手元スイッチ画面表示に従って合体・分離作業を正常に行える	

キャスターは消耗部品の為、長期間ご使用いただいた場合は、磨耗・破損などにより、機能が低下するおそれがあります。
機能が低下した場合は、部品の寿命ですので使用を中止して、新しい部品への交換を依頼して下さい。

7. 日常の点検とお手入れ

愛情点検

安全チェックシート		※チェック欄が足りない場合はコピーしてお使いください。									
安全点検項目		点検結果（該当には○）					処理手順				
		日付									
	愛情点検	電源コードを動かすと通電したり、しなかったりする					○印があるときは、危険な状態になっていますので、使用を中止しお買い上げの販売店にご相談ください。				
		電源プラグや電源コードが異常に熱い									
		こげ臭い匂いがする									
		触ると電気(ビリビリ)を感じる									
		購入後6年以上経過している					○印があるときは、お買い上げの販売店にご相談ください。				
		フレームに変形が見られる									
		高さ・角度調整範囲が狭くなった									
		キャストが固定状態にならない									
		動作時に異常な音がする					※場所や状態によってはお客様で注油を行うことが出来ます。				

上記の点検項目以外にも不具合があれば、販売店にご相談ください。

■製品の長期使用について

1. 本体への表示内容

経年劣化により危害の発生が高まるおそれがあることを注意喚起するために、製造年月日を本体の各ユニットに表示しております。

2. 想定安全使用期間とは

ご使用いただきリショーンPlusにおいて、標準的な条件の下で、適正な取り扱いで使用し、適正な維持管理（消耗部品の交換）が行われた場合に、安全上支障なく使用できる期間として、想定される期間です。無償保証期間とは異なります。また、偶発的な事故を保証するものではありません。

3. 経年劣化とは

長期間にわたる使用や処置に伴い生じる劣化をいいます。

【想定安全使用期間】 6年

想定安全使用期間を超えてお使いいただいた場合は、経年劣化による発火・けがなどの事故に至るおそれがあります。

7. 日常の点検とお手入れ

日常のお手入れ

つねに清潔を保つように清掃してください。



必ず守る

■ 安全上のご注意（4～33ページ）をよくお読みの上、正しくお使いください。
ここで説明する項目に特に関連する安全上のご注意は下記に掲載しております。
ご使用時の一般注意事項 → 9～15ページ

車いす本体・ベッド本体

【お手入れ上のご注意】

- ・ベッド・車いすに直接水を掛けないでください。
- ・シンナーやベンジンなどの揮発性の溶剤、みがき粉は使用しないでください。
- ・たわし、硬いブラシは使用しないでください。
- ・電源プラグにたまったほこりは、コンセントを一旦はずして定期的に取り除いてください。
- ・オゾン消毒はしないでください。（変質・変色・傷みの原因となります。）



※つねに清潔を保つように清掃してください。

- ① 中性洗剤を指定の濃度に薄め、スポンジか柔らかい布に含ませ、汚れをきれいにふき取る。
その後水に浸した布をよく絞って、残った洗剤分をふき取る。狭い部分には、歯ブラシや綿棒を使用する。
- ② 乾いた布でからぶきし、自然乾燥する。



警告



必ず守る

■ 電源プラグをコンセントから抜いてお手入れを行う
電源プラグを抜かないと、感電の原因となります。

マットレス

● シーツ

マットレスから取り外し、洗濯機などで中性洗剤を指定の濃度に薄めて洗浄してください。

洗濯表示						
				洗濯ネット使用 弱く絞る あて布使用		

● マットレス

マットレスはマットカバーから外さないでください。
マットカバーが汚れた場合は、中性洗剤を指定の濃度に薄めて、柔らかい布などに少量含ませてふいてください。
その後、水に浸した布をよく絞り、残った洗剤分をふき取ってください。

● マットレスの定期的な入れ替え

ベッドと車いすのマットレスの均一性を保つために、定期的にベッドと車いすのマットレスを入れ替えてください（目安：1ヶ月に1度）

8. 故障かな?と思ったとき

修理を依頼される前に、下記の項目をチェックしてください。

※電源プラグを抜いて、手元スイッチの液晶表示パネルの表示が消えて10秒以上経ってから、再度電源プラグを差し込んでください。ベッド動作に異常がある場合は一度分離操作をおこなってください。

それでも改善しないとき、下表をチェックしてください。

※チェック・処置をしても正常に動作しない場合は、直ちに使用を中止し、電源プラグをコンセントから抜いて、お買い上げの販売店にご相談ください。

※液晶表示パネルの表示内容を販売店にお伝えください。

■ベッド

症状	チェック内容	処理	参照ページ
手元スイッチの操作ボタンを押してもベッドが動作しない	電源プラグをコンセントに差し込んでも、液晶表示パネルに何も表示されない。	コンセントに他の電気機器を接続して、コンセントに電気が来ていることを確認してください。	--
	手元スイッチのボタンを押したときに、液晶表示パネルに 「合体が完了していません」が表示される。 注意 合体が完了していません 合体してからベッドの操作をしてください	合体操作が完了しておらず、合体途中段階の可能性があります。合体ボタンを押し続け、合体操作を完了させ、ベッド状態にしてからベッドの操作をしてください。	P56
	手元スイッチのボタンを押したときに、液晶表示パネルに 「操作ロックされています」が表示される。 操作ロックされています 側面ボタン長押しでロックを解除してください	手元スイッチの操作がロックされています。側面にある「操作ロック」ボタンでロックを解除してください。	P85
	液晶表示パネルに「リモコンのボタンが押され続けています」が表示される。 注意 リモコンのボタンが押され続けています ボタンの状態を確認してください	操作ボタンを離してください。操作ボタンを離しても、液晶表示パネルに「リモコンのボタンが押され続けています」が表示される場合は、販売店にご相談ください。	--
	液晶表示パネルに「合体できませんでした」が表示される。 注意 合体できませんでした いったん分離し再度合体させてください	合体が正しくできていない可能性があります。「分離しました」と表示が出るまで、ベッド側手元スイッチの「分離ボタン」を押し続けて、車いすを分離してください。その後、車いすを再度合体させてください。再度合体させても、液晶表示パネルに「合体できませんでした」が表示される場合は、販売店にご相談ください。	分離 P64～ 合体 P53～

8. 故障かな?と思ったとき

修理を依頼される前に、下記の項目をチェックしてください。

症状	チェック内容	処理	参照 ページ
手元スイッチの 操作ボタンを押しても ベッドが動作しない	液晶表示パネルに「システム異常①が発生しました」が表示される。 異常 システム異常①が 発生しました コンセントを抜き差しして 再起動させてください	コントローラにシステム異常が発生した 可能性があります。電源プラグを抜いて、 手元スイッチの液晶表示パネルの表示が 消えて10秒以上経ってから、再度電源 プラグを差し込んでください。電源 再投入をしても、液晶表示パネルに 「システム異常①が発生しました」が 表示される場合は、販売店に ご相談ください。	--
	液晶表示パネルに「システム異常②が発生 しました」が表示される。 異常 システム異常②が 発生しました コンセントを抜き差しして 再起動させてください	コントローラにシステム異常が発生した 可能性があります。電源プラグを抜いて、 手元スイッチの液晶表示パネルの表示が 消えて10秒以上経ってから、再度電源 プラグを差し込んでください。電源 再投入をしても、液晶表示パネルに 「システム異常②が発生しました」が 表示される場合は、販売店に ご相談ください。	--
	液晶表示パネルに「システム異常③が発生 しました」が表示される。 異常 システム異常③が 発生しました コンセントを抜き差しして 再起動させてください	手元スイッチの通信異常が発生した 可能性があります。電源プラグを抜いて、 手元スイッチの液晶表示パネルの表示が 消えて10秒以上経ってから、再度電源 プラグを差し込んでください。電源 再投入をしても、液晶表示パネルに 「システム異常③が発生しました」が 表示される場合は、販売店にご相談 ください。	--
	液晶表示パネルに「システム異常④が発生 しました」が表示される。 異常 システム異常④が 発生しました いったん分離し 再度合体させてください	コントローラにシステム異常が発生した 可能性があります。分離ボタンを押し 続け、分離操作をして下さい。その際、 動かなくなるまで押し続け、動かなくな ってからも5秒程度押し続けて下さい。 ホールセンサ値をリセットします。 再度合体させても、液晶表示パネルに 「システム異常④が発生しました」が 表示される場合は、販売店に ご相談ください。	P65

8. 故障かな?と思ったとき

修理を依頼される前に、下記の項目をチェックしてください。

- ※電源プラグを抜いて、手元スイッチの液晶表示パネルの表示が消えて10秒以上経ってから、再度電源プラグを差し込んでください。それでも改善しないとき、下表をチェックしてください。
- ※チェック・処置をしても正常に動作しない場合は、直ちに使用を中止し、電源プラグをコンセントから抜いて、お買い上げの販売店にご相談ください。
- ※液晶表示パネルの表示内容を販売店にお伝えください。

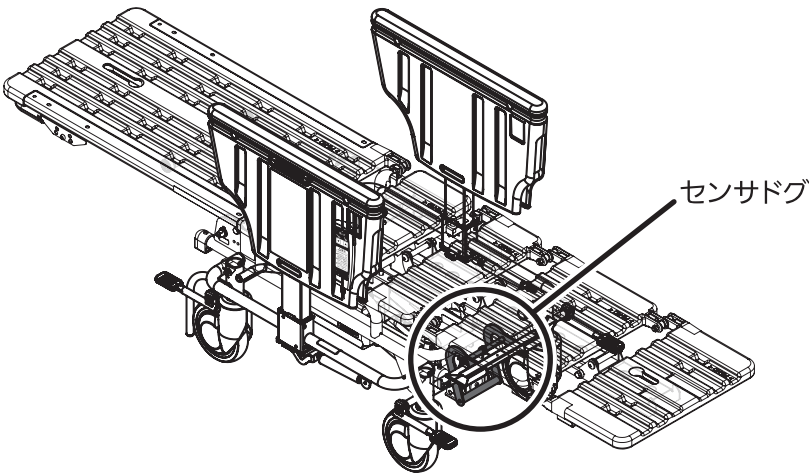
■ベッド

症状	チェック内容	処理	参照ページ
手元スイッチの操作ボタンを押してもベッドが動作しない	ベッドを連続で使用しましたか？ (モーターが過熱すると、冷めるまで動作が停止します。)	約20分間放置して、モーターが冷えるのを待ちください。	--
	ベッドの可動部分に障害物があったり、挟まっていたり、総重量を超えていませんか？	障害物を取り除いてから、また総重量を減らしてから、操作してください。	--
手元スイッチの分離ボタンを押しても分離操作が行われない	液晶表示パネルに「分離ロックされています」が表示される。 注意 分離ロックされています ロックを解除してから操作してください	手元スイッチの分離操作がロックされています。側面にある「分離ロック」ボタンでロックを解除してください。	P86
実際のベッドの位置と、液晶表示パネルに表示されている数値が合わない	-	分離ボタンを押し続け、分離操作をして下さい。その際、動かなくなるまで押し続け、動かなくなっても5秒程度押し続けて下さい。ホールセンサ値をリセットします。	--
液晶表示パネルに「メーカー専用メンテナンスモードです」が表示される	- 注意 メーカー専用メンテナンスモードです コンセントを抜き差しして再起動させてください	メーカー専用メンテナンスモードになっています。電源プラグを抜いて、手元スイッチの液晶表示パネルの表示が消えて10秒以上経ってから、再度電源プラグを差し込んでください。	--
途中で止まる 水平にならない	可動部に物がはさまったり、つかえたりしている。	はさまっている物を取り除いてください。	--
音が出ない	音声設定が「ブザー」や「切」になっていませんか？	音声設定を「音声／ブザー」にしてください。	P87

8. 故障かな?と思ったとき

修理を依頼される前に、下記の項目をチェックしてください。

■車いす

症状	チェック内容	処理	参照ページ
手元スイッチのボタンを押しても車いすが動作しない	バッテリーのLEDランプがオレンジ点滅または消灯している。	バッテリーを充電してください。	P70～
	充電器を接続した状態では、手元スイッチを押すと動作する。	バッテリーを充電してください。	P70～
	車いす前方下部のセンサドグ (リミットスイッチ) が途中でひっかかっている。	センサドグを手動で上下して、ひっかかりがないことを確認してください。	--
			
	車いすリクライニングを連続で使用しましたか? (モーターが過熱すると、冷めるまで動作が停止します。)	約20分間放置して、モーターが冷えるのを待ちください。	--
途中で止まる 水平にならない	車いすの可動部分に障害物があったり、挟まっていたりしていませんか?	障害物を取り除いてから操作してください。	--
	可動部に物がはさまったり、つかえたりしている。	はさまっている物を取り除いてください。	--
脚部が連動して動かない	足ボトムがフレームのツメからはずれていませんか?	車いすをフルフラットにし、足ボトムのスリット部をツメにいれてください。	P51

■合体・分離時

症状	チェック内容	処理	参照ページ
車いすのベッドへの抜き差しがスムーズに行えない	ベッドの「車いす合体部」に物がおかれている。	障害物を取り除いてください。	--

9. 手動でボトムを下げる

緊急時の対応

停電などでベッドの背ボトムや膝ボトムが下げられなくなった時に、緊急時の対応としてモーターとの連携を外し、手動で背ボトム・膝ボトムを下げることができます。車いすは手動で背ボトム等を下げることはできません。また、車いすが分離した状態で、停電等でベッドのモーターが動かなくなってしまった場合は、車いすを合体してベッド状態にすることはできません。ベッド停電用バッテリーキットを使用している場合は、停電時でも合体可能です（緊急時用ですので、常時使用しないで下さい）。ベッド停電用バッテリーキットの取付けは販売店にご相談ください。

⚠ 警告



必ず守る

■要介護者・マットレス・寝具を下ろしてから行う

人を寝かせたままでは行わないでください

■電源コードはコンセントから抜く

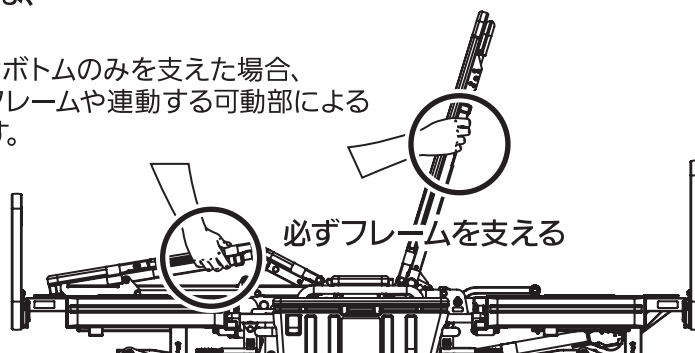
■作業は二人以上で行う

■保護用手袋をはめて作業する

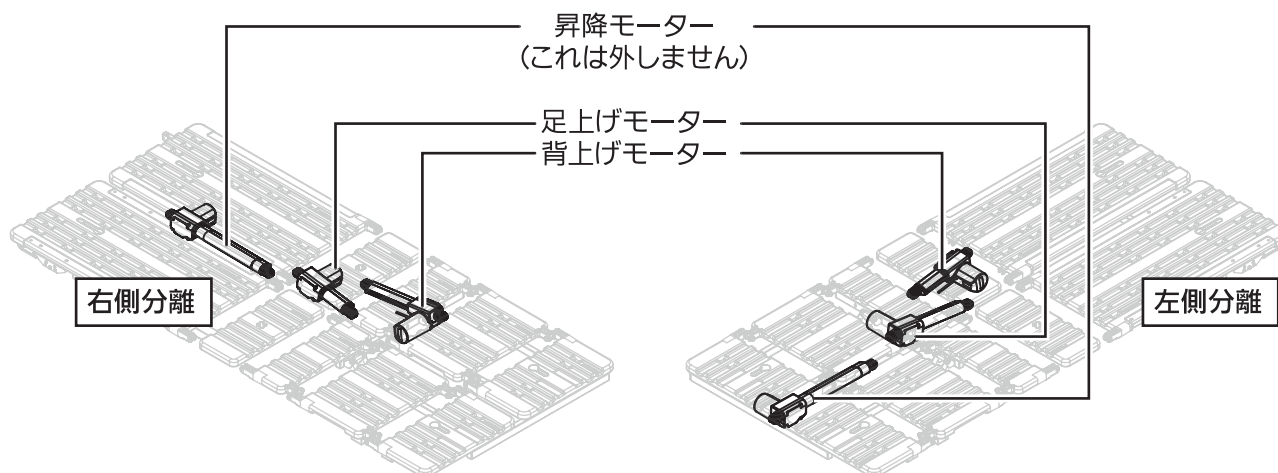
■モーターの連結ピンを外すときは、

必ずフレームを支えてから行う

フレームを支えていない、あるいはボトムのみを支えた場合、フレームが支柱を中心に落下し、フレームや連動する可動部による挟み込み・打撃のおそれがあります。



■モーターの位置（ベッド部）



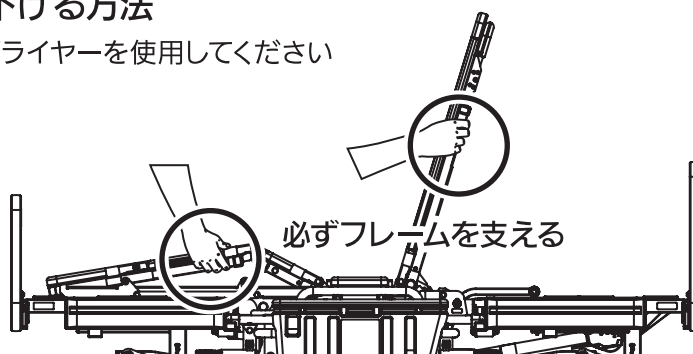
モーターはボディ側をベッドフレームにピン連結され、アーム側を背フレーム/ひざフレームにピン連結されています。

9. 手動でボトムを下げる

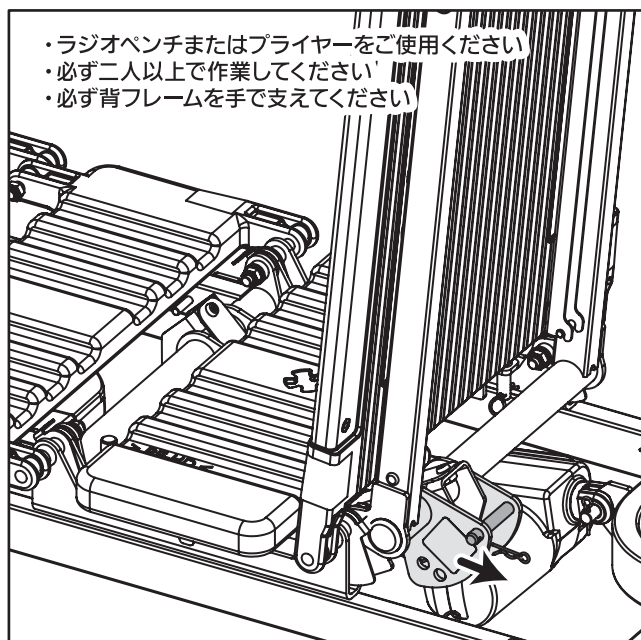
■手動でベッドの背ボトム・ひざボトムを下げる方法

スピードピンの抜き差しにはラジオペンチまたはプライヤーを使用してください

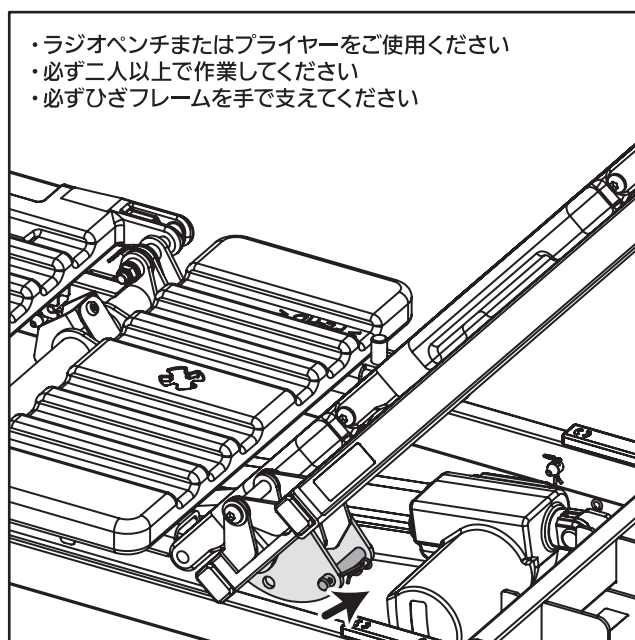
- ①電源コードをコンセントから抜きます
- ②要介護者・マットレスと寝具を下ろします
- ③一人が背フレーム（ひざフレーム）を持ち、落下しないように支えます



- ④もう1人が背上げモーター（足上げモーター）近くのフリーホイール機構部のスピードピンを抜き、連結ピンを抜きます



ベッド背上げモーター・フリーホイール機構部



ベッド足上げモーター・フリーホイール機構部

- ⑤背フレーム（ひざフレーム）をゆっくりと下ろします

■モーターの戻し方

- ①電源コードがコンセントから抜けていることを確認してください
- ②要介護者・マットレスと寝具を下ろします
- ③一人が背フレーム（ひざフレーム）を持ち、落下しないように支えます
- ④もう1人が背上げモーター（足上げモーター）近くのフリーホイール機構部に連結ピンをさし、スピードピンをさして固定します。
- ⑤電源コードをコンセントに差し込みます
- ⑥各種動作（背上下・足上下・高さ調整・合体・分離 など）がスムーズに行えることを確認してください

10. 長期保管について

■長期にわたりご使用にならない場合

- ①車いす部をベッド部に合体させ、ベッド状態にしてください。
- ②車いすバッテリーを充電してください。その後、6ヶ月に1度、充電してください。（充電時間24時間）
- ③背ボトム、腰ボトム、脚ボトムを水平にして下さい。
- ④ベッドの高さは、ベッド状態の最下降位置まで下してください。
- ⑤ベッドの上にはマットレス以外のものを乗せないでください。
- ⑥マットレスの上には何も乗せないでください。
- ⑦高温・多湿・低温・乾燥・ほこりの多い場所を避けて下さい。
- ⑧ベッドは壁にたてかけたりせず、水平な床に水平のまま保管してください。
- ⑨必ず電源プラグをコンセントから抜いて、電源コードをはさんだり踏んだりしない場所に束ねて下さい。

※ベッド停電用バッテリーキットを搭載している場合は、6ヶ月に1度、ベッドの電源プラグをコンセントに差し込み、充電をおこなってください。（充電時間24時間）

11. 仕様

全体仕様

ベッド部 (車いす合体時)

※ヘッドボード・フットボード含む、マットレス含まず

全長	2075mm
全幅	1009mm
全高	799mm～1079mm
ボトム長さ	1945mm
ボトム幅	890mm (車いす部含む)
背上げ角度	0°～70°
足上げ角度	0°～28°
ボトム高さ	455mm～735mm
キャスター径	100mm
電源	AC100V (50/60Hz)
電源コード	本体: 約4000mm (約4m)
消費電力	200W
質量	164kg (車いす部含む)

車いす部

※ヘッドボード・フットボード含む、マットレス含まず

全長 (座位状態)	1178mm
全幅 (座位状態)	554mm
全高 (座位状態)	1236mm
ボトム長さ	1945mm
座面高さ	425mm
座面幅	430mm
背上げ角度	0～75°
キャスター径	150mm
電源	DC24V (鉛蓄電池 [2Ah])、AC100V (50/60Hz) (専用充電器 [1.45A])
電源コード	専用充電器: 約3000mm (約3m)
質量	50kg (バッテリー含む)

マットレス

長さ	1970mm
幅	920mm (ベッド時)、460mm (車いす時)
厚さ	100mm (ウレタン3層構造 [床ずれ目安: ステージII])

共通

使用環境	周囲温度: 10～40℃、湿度: 30～75%RH
最大使用者体重	100kg
安全使用荷重	1,700N (*1)

(*1) ベッド・車いす動作が行える最大荷重 (使用者体重とマットレスやオプション品などの付帯物の合計荷重)

11. 仕様

モーター仕様

背上げ (ベッド部)

背上げモーター	
角度	0° ~70°
連続使用時間	約2分 (休止時間、約18分) (*1)
定格電圧	DC24V

足上げ (ベッド部)

足上げモーター	
角度	0° ~28°
連続使用時間	約2分 (休止時間、約18分) (*1)
定格電圧	DC24V

高さ調整 (ベッド部)

昇降モーター	
高さ	455mm~735mm
連続使用時間	約2分 (休止時間、約18分) (*1)
定格電圧	DC24V

リクライニング (車いす部)

リクライニングモーター	
角度	0° ~75°
連続使用時間	約2分 (休止時間、約18分) (*1)
定格電圧	DC24V

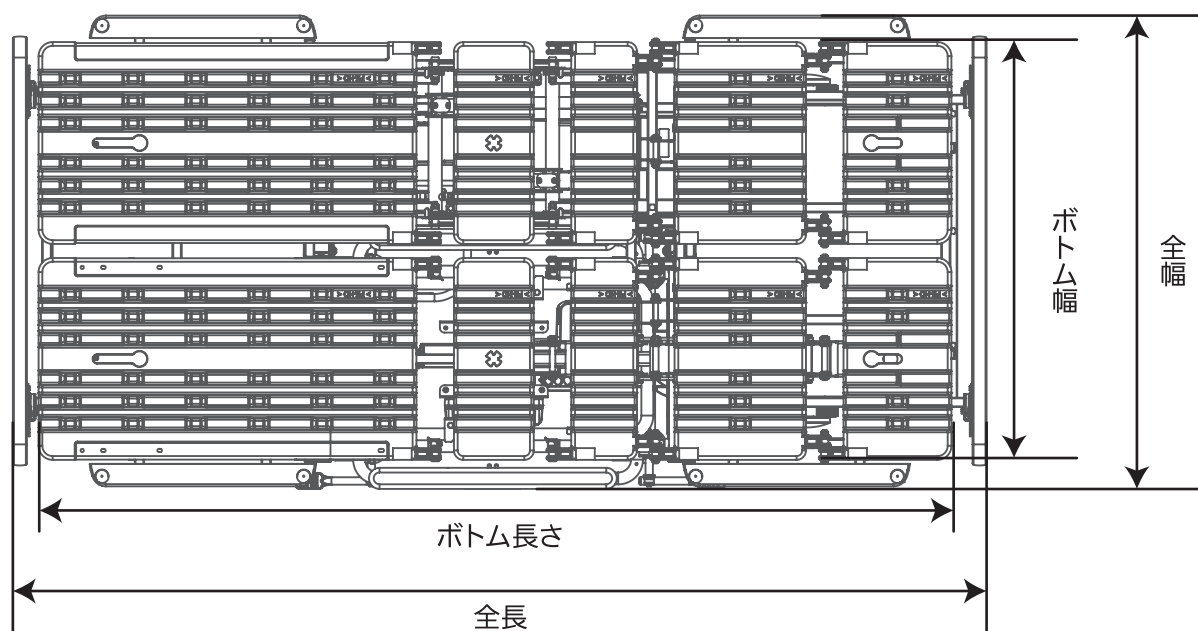
(*1) 最大連続使用時間 (約2分) 動作させた場合、電装品を加熱から保護するための時間です。

11. 仕様

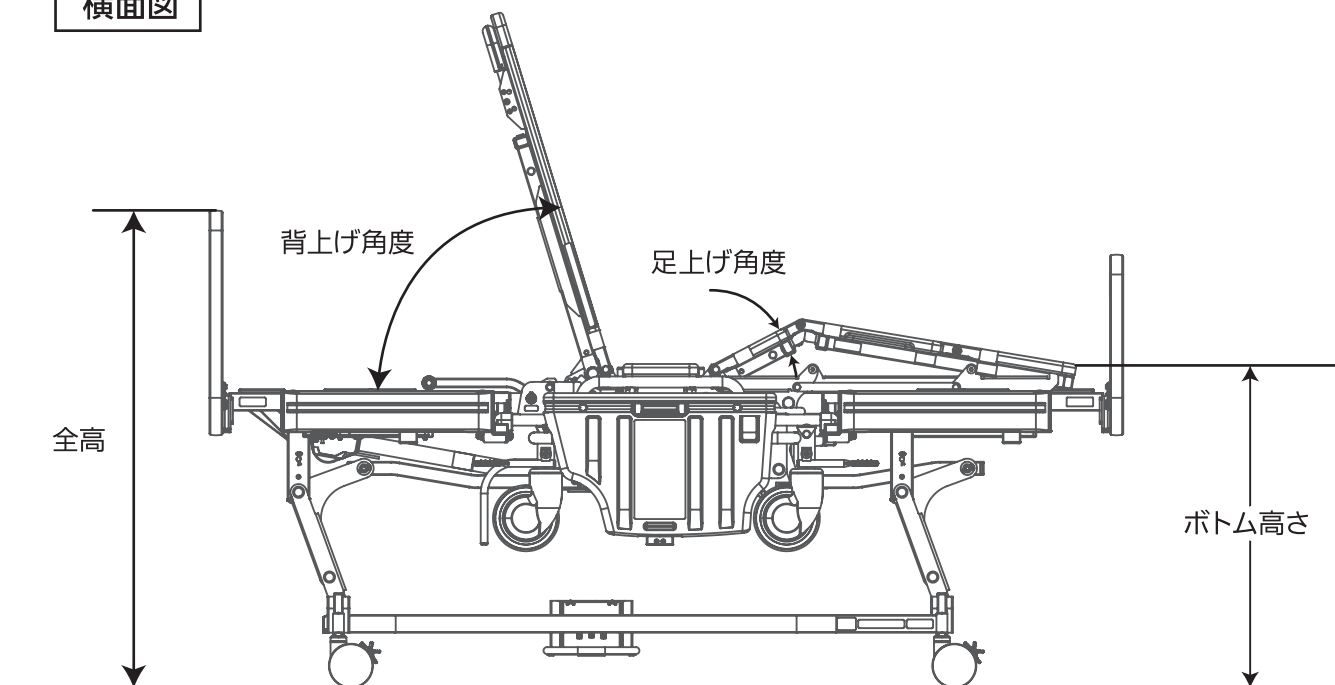
ベッド（車いす合体時） 寸法箇所

上面図

※右側分離タイプの場合



横断面図

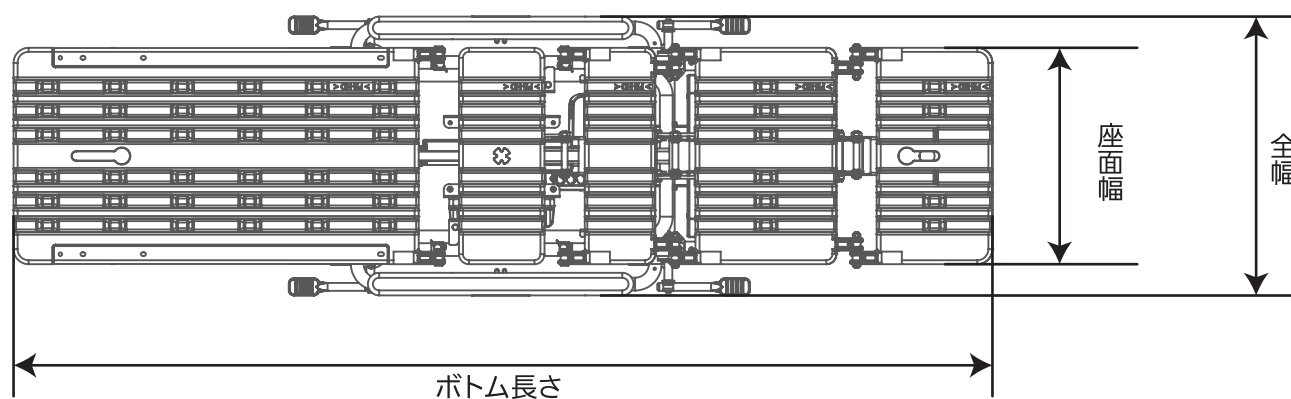


11. 仕様

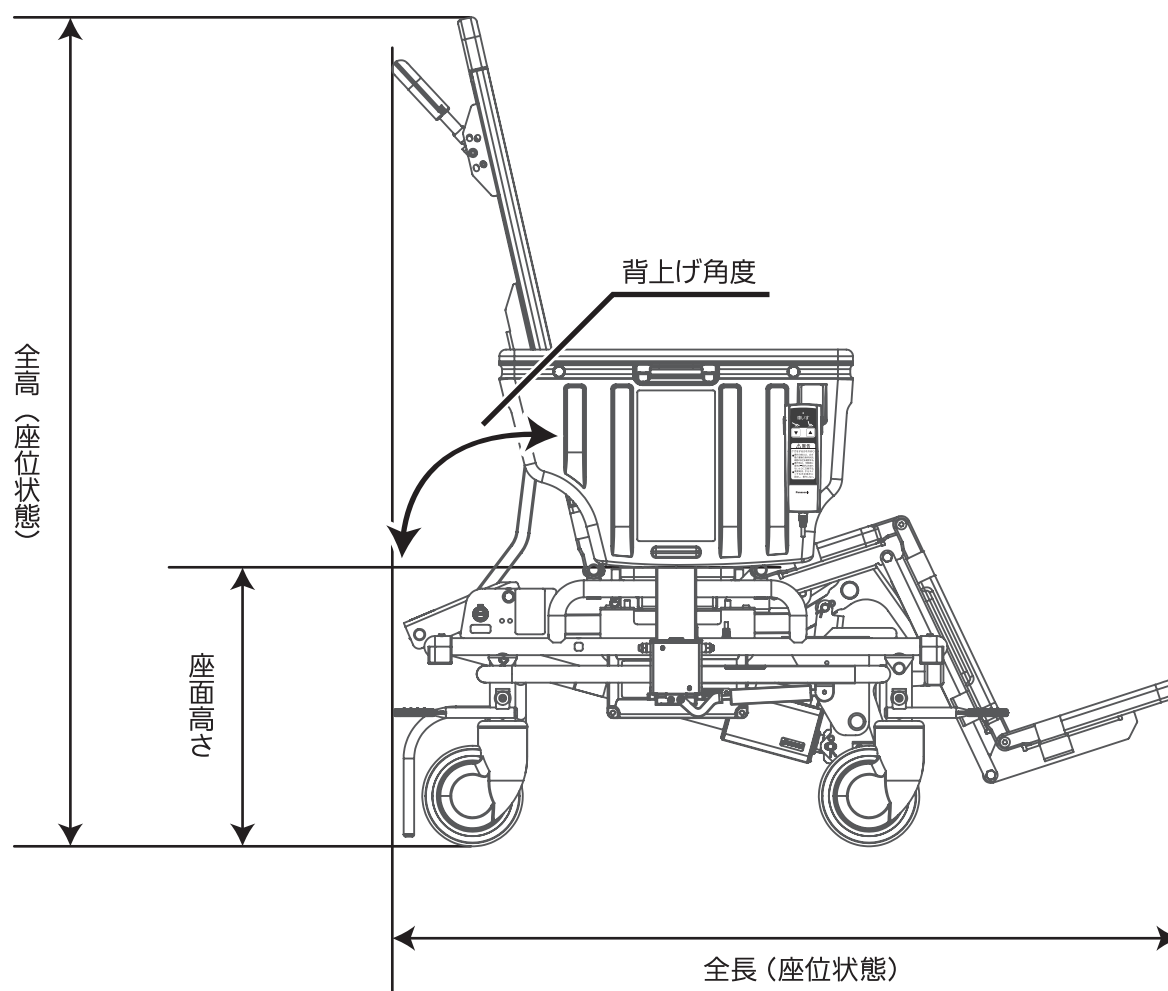
車いす 寸法箇所

上面図

※右側分離タイプの場合



横断面図



12. アフターサービスについて

■ 保証書 ■

この商品には保証書を別紙で添付しております。

所定の事項の記入及び記載内容をご確認いただき大切に保管してください。

保証期間は引渡し日より1年間です。

ただし、ご使用状況によっては保証期間内でも有料修理とさせていただきます場合があります。

保証書の記載内容をご確認ください。

■ 補修用性能部品の保有期間 ■

当社はこの離床アシストロボットの補修用性能部品を製造打切り後5年間保有しています。

性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。

■ 修理を依頼されるとき ■

サービスを依頼される前に、この取扱説明書の94～97ページに従ってご確認ください、
なお異常がある場合は、ご使用を中止しお買い上げの販売店にご依頼ください。

● 保証期間中は

お買い上げの販売店まで、品名、品番、お買い上げ日、故障の状況（出来るだけ具体的に）、
ご住所、お名前、電話番号、修理ご希望日をご連絡ください。

保証の規程に従って販売店が修理させていただきます。

● 保証期間を過ぎているときは

お買い上げの販売店にご相談ください。修理によって機能が維持できる場合は、
ご希望により有料修理させていただきます。

ご相談窓口におけるお客様の個人情報のお取り扱い

パナソニック株式会社およびグループ関係会社は、お客様の個人情報をご相談対応や修理対応などに利用させていただきます、ご相談内容は録音させていただきます。また、折り返し電話をさせていただくために発信番号を通知いただいております。なお、個人情報を適切に管理し、修理業務等を委託する場合や正当な理由がある場合を除き、第三者に開示・提供いたしません。個人情報に関するお問い合わせは、ご相談いただきました窓口にご連絡ください。

A large rectangular area with rounded corners, containing numerous horizontal lines for writing, typical of a notepad page.

お客様ご相談窓口のご案内

ご相談窓口における個人情報のお取り扱い

パナソニック株式会社およびグループ関係会社は、お客様の個人情報をご相談対応や修理対応などに利用させていただき、ご相談内容は録音させていただきます。また、折り返し電話をさせていただくために発信番号を通知いただいております。なお、個人情報を適切に管理し、修理業務などを委託する場合や正当な理由がある場合を除き、第三者に開示・提供いたしません。
個人情報に関するお問い合わせは、ご相談いただきました窓口にご連絡ください。

修理・お手入れ・お取扱い・工事などのご相談は、
まずお買い求めの販売店・工事店へお申し付けください。

商品・お取扱いなどのご相談は

パナソニック エイジフリー株式会社

フリーダイヤル **0120-365887**

 ●受付時間 9:00～12:00 (土、日、祝日休み)
13:00～17:00

<https://sumai.panasonic.jp/agefree/products>